

国道 432 号大庭バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3

# 下黒田 II 遺跡

2020 年 6 月

島根県教育委員会



国道 432 号大庭バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3

# 下黒田 II 遺跡

2020 年 6 月

島根県教育委員会





1. 下黒田II遺跡と茶臼山（南東から）



2. 下黒田II遺跡空撮



# 序

島根県教育委員会では、島根県土木部から依頼を受けて、平成20年度から国道432号大庭バイパス建設に伴う発掘調査を実施しております。本書は、このうち令和元年度に実施した松江市大庭町に所在する下黒田Ⅱ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

遺跡のある松江市大庭町一帯は、古代から中世にかけて出雲の中心地でした。奈良時代に編纂され、全国で唯一完本として伝わる『出雲国風土記』に「神名樋野」と記された茶臼山の周辺には、山代二子塚古墳、大庭鶏塚古墳、出雲国府跡、山代郷遺跡群山代郷正倉跡など国史跡に指定された遺跡が集中しています。また、黒田館跡、下黒田遺跡、出雲国造館跡など、中世の居館があったことがわかっています。

下黒田Ⅱ遺跡の調査では、室町時代の溝状遺構や江戸時代の土坑など、中世から近世にかけての遺構を検出しました。室町時代の溝状遺構は、屋敷を区画するための堀と考えられ、茶臼山の南西麓における「館」の変遷を知るうえで貴重な成果となりました。

本書がこの地域の歴史と埋蔵文化財に対する理解を深めるために、広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査および報告書の作成にあたり御協力をいただきました島根県土木部をはじめ、松江市、地元の方々、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和2年6月

島根県教育委員会  
教育長 新田英夫





# 例 言

1. 本書は島根県土木部道路建設課の委託を受けて、島根県教育委員会が令和元年度に実施した国道 432 号大庭バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2. 本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は以下のとおりである。

令和元（2019）年度 発掘調査・整理等作業

しもくろだ  
下黒田Ⅱ遺跡（松江市大庭町 58-8、80-5、80-12、81）

令和 2（2020）年度 報告書作成

## 3. 調査組織

調査主体 島根県教育委員会

令和元（2019）年度事務局 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

椿 真治（所長）、和田 諭（総務課長）、守岡正司（管理課長）、  
間野大丞（調査第三課長）

調査担当者 中川 寧（調査第三係長）、米田美江子（調査第三課臨時職員）、  
佐野木信義（同臨時職員）

令和 2（2020）年度事務局 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

椿 真治（所長）、和田 諭（総務課長）、守岡正司（管理課長）、  
角田徳幸（高速道路調査推進スタッフ調整監）

調査担当者 中川 寧（高速道路調査推進スタッフ主幹）

4. 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量など）については、株式会社祥好建設に委託した。

5. 現地調査及び報告書作成において、以下の方々から御指導・御助言をいただいた（所属は当時）  
川上昭一（松江市まちづくり文化財課調査係長）、徳永 隆（松江市まちづくり文化財課主幹）、  
高屋茂男（島根県立八雲立つ風土記の丘学芸課長）

6. 挿図中の方位は、測量法による第Ⅲ系平面直角座標系 X 軸を示し、座標系の XY 軸は世界測地系による。レベル高は海拔高を示す。

7. 本書の第 3 図は国土地理院発行の 1/25,000 電子地形図「松江」を使用し作成したものである。

8. 掲載した遺構・遺物の実測図の作成・浄書は調査員・臨時職員・遺物整理作業員が行った。また、本書に掲載した遺構・遺物の写真は中川が撮影した。

9. 本書の執筆・編集は埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て中川が行った。

10. 本書に掲載した遺構・遺物の実測図、写真などの資料は島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（松江市打出町 33 番地）にて保管している。

# 凡 例

1. 遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、陶器は断面を網掛けにした。鉄器、石器、石製品、土製品の断面は斜線を入れた。
2. 本文、挿図、写真図版中の遺物番号は一致する。
3. 本書に掲載する土色名は、『新版 標準土色帳』農林水産省農林水産技術会議事務局 監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修に従って表記した。
4. 本書で用いた土器の編年観は以下の論文・報告書に依拠している。

## 【須恵器】

岡田裕之・土器検討グループ 2010 「出雲地域における古代須恵器の編年」、島根県古代文化センター編『出雲国の形成と国府成立の研究』、13-43

## 【瓦】

島根県教育委員会編 2019 『史跡出雲国府跡 -10-』、風土記の丘地内埋蔵文化財発掘調査報告書 25、島根県教育委員会

## 【陶磁器】

重根弘和 2003 「中世備前焼に関する考察」、近藤喬一先生退官記念事業会編『山口大学考古学論集 近藤喬一先生退官記念論文集』、309-320

岡山市教育委員会編 2002 「近世備前焼播鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡 表町一丁目地区市街地開発ビル建設に伴う発掘調査』、190-197

九州近世陶磁学会編 2000 『九州陶磁の編年 - 九州近世陶磁学会 10 周年記念 -』

# 本文目次

第 1 章 調査に至る経緯	1
第 1 節 事業概要と調査に至る経緯	1
第 2 節 文化財保護法上の措置と遺跡の取り扱い	1
第 2 章 遺跡の位置と歴史的環境	5
第 3 章 調査の成果	9
第 1 節 調査の方法と経過	9
1. 調査の方法	9
2. 調査の経過	12
第 2 節 調査の成果	12
1. 基本層序	12
2. 検出遺構	15
3. 出土遺物	25
第 4 章 総括	33
第 1 節 遺構	33
第 2 節 遺物	34

## 挿図目次

第1図	下黒田Ⅱ遺跡の位置	1
第2図	大庭バイパス建設に伴う発掘調査位置図	2
第3図	下黒田Ⅱ遺跡と周辺の遺跡	6
第4図	下黒田Ⅱ遺跡調査区配置図	9
第5図	グリッド配置図	10
第6図	試掘トレンチ土層図	11
第7図	調査区全体図	13
第8図	調査区土層図	14
第9図	掘立柱建物跡1	16
第10図	掘立柱建物跡2	17
第11図	掘立柱建物跡3	18
第12図	溝172. 溝225. 溝171	20
第13図	土坑110	21
第14図	土坑146. 土坑147. 土坑188	23
第15図	土坑068. 土坑097. 土坑247	24
第16図	遺構出土土器	26
第17図	遺構外出土土器1	27
第18図	遺構外出土土器2	29
第19図	石器・石製品	30
第20図	土製品	31
第21図	鉄器・鉄製品	32
第22図	下黒田Ⅱ遺跡土坑110と類例	35
第23図	下黒田Ⅱ遺跡平面図1	37
第24図	下黒田Ⅱ遺跡平面図2	38
第25図	下黒田Ⅱ遺跡平面図3	39
第26図	下黒田Ⅱ遺跡平面図4	40

## 表目次

第1表	国道432号大庭バイパス建設に伴う発掘調査一覧	3
第2表	遺構一覧表	41
第3表	建物計測表	44
第4表	遺構計測表	44
第5表	出土土器観察表	45
第6表	出土石器・石製品観察表	47
第7表	出土土製品観察表	47
第8表	出土鉄器・鉄製品観察表	47
第9表-1	出土土器数量表	48
第9表-2	出土土器数量表(内訳)	49
第10表	石器計測表	50

## 写真図版目次

<p>カラー 1. 下黒田Ⅱ遺跡と茶白山（南東から） 2. 下黒田Ⅱ遺跡空撮</p>	<p>図版 12 1. 土坑 146 北東土層（第 14 図 BB'） 2. 土坑 146 南西土層（第 14 図 AA'） 3. 土坑 146 完掘（東から）</p>	
<p>図版 1 1. 下黒田Ⅱ遺跡調査前 2. T1 土層 3. T2 土層</p>	<p>図版 13 1. 土坑 147 南西土層 2. 土坑 147 北東土層（第 14 図 DD'） 3. 土坑 147 完掘（北から）</p>	
<p>図版 2 1. 調査区土層（第 7 図 AA'） 2. 調査区土層拡大</p>	<p>図版 14 1. 土坑 068 南北土層（東から） 2. 土坑 068 東西土層（南から） 3. 土坑 068 完掘（北から）</p>	
<p>図版 3 1. 調査区南壁土層（第 7 図 CC'） 2. 調査区南側完掘（北から）</p>	<p>図版 15 1. 土坑 188 土層（第 14 図 FF'） 2. 土坑 097 土層 3. 土坑 247 土層</p>	
<p>図版 4 1. 掘立柱建物跡 1（北から） 2. 溝 172、溝 225 陸橋部（北から）</p>	<p>図版 16 1. 完掘 1（南から） 2. 完掘 2（南から）</p>	
<p>図版 5 1. 掘立柱建物跡 2（西から） 2. 掘立柱建物跡 3（東から）</p>	<p>図版 17 1. 完掘 3（北から） 2. 完掘 4（南東から）</p>	
<p>図版 6 1. 掘立柱建物跡 1 P167 2. 掘立柱建物跡 1 P229 3. 掘立柱建物跡 1 P228 4. 掘立柱建物跡 1 P164 5. 掘立柱建物跡 2 P018 6. 掘立柱建物跡 2 P027 7. 掘立柱建物跡 2 P029 8. 掘立柱建物跡 2 P023</p>	<p>図版 18 出土遺物 1 図版 19 出土遺物 2 図版 20 出土遺物 3 図版 21 出土遺物 4 図版 22 出土遺物 5 図版 23 出土遺物 6 図版 24 出土遺物 7</p>	
<p>図版 7 1. 溝 172 土層（第 12 図 AA'） 2. 溝 172 完掘（南から）</p>		
<p>図版 8 1. 溝 225 土層（第 12 図 BB'） 2. 溝 225 完掘（北から）</p>		
<p>図版 9 1. 溝 171 北側土層（第 12 図 CC'） 2. 溝 171 南側土層（第 12 図 DD'）</p>		
<p>図版 10 1. 土坑 110 南北土層（北西から） 2. 土坑 110 東西土層（北から）</p>		
<p>図版 11 1. 土坑 110 完掘（北から） 2. 土坑 110 土器出土状況</p>	<p>写真 1 写真 2 写真 3 写真 4 写真 5 写真 6 写真 7</p>	

### 本文中写真図版目次

精査状況	4
遺構掘削状況	4
調査指導風景	4
調査指導風景	4
現地説明会風景	8
現地説明会風景	8
現地説明会風景	8



# 第1章 調査に至る経緯

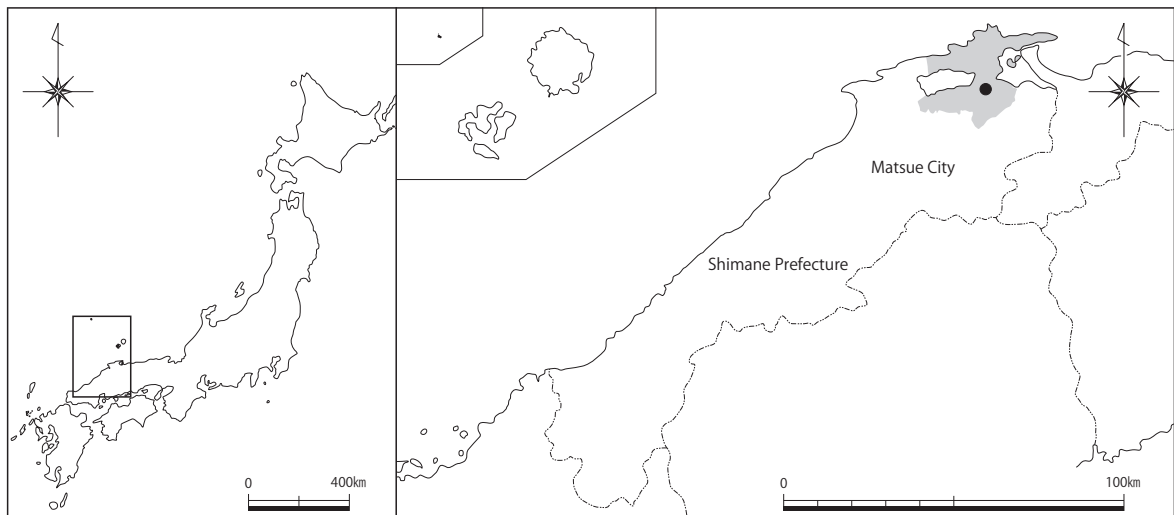
## 第1節 事業概要と調査に至る経緯

国道432号は、広島県竹原市を起点として島根県松江市に至る延長約210kmの路線であり、「しまねの新たな道づくりビジョン」において、広域幹線（県内外の都市間を連結し、県内の道路網の骨格となる一般道路）に位置付けられている。大庭バイパスは、現道の松江市古志原地内から同市大草町までの区間で、慢性的な交通渋滞の解消を目的として計画された延長約1.9kmの道路である。大庭地区の一部区間については、松江市の土地区画整理事業と連携して整備し、平成27年9月に供用開始されている。

島根県教育委員会は、島根県土木部松江県土整備事務所から埋蔵文化財の有無について照会を受けた。周知の遺跡は存在しなかったが、平成20年度から試掘確認調査を実施している。試掘調査の結果、土地区画整理事業地内の道路用地では新たに柳堀遺跡を発見し、同事業地内の茶臼遺跡が当該部分まで広がることを確認した。また、土地区画整理事業地（県道八重垣神社・竹矢線）南側の道路用地で川原宮Ⅱ遺跡、国道432号の東側で団原Ⅲ遺跡を新たに発見した。こうした試掘確認調査の結果を受けて、平成23年度から平成26年度にかけて柳堀遺跡、茶臼遺跡、川原宮Ⅱ遺跡の本調査を実施し、平成27年度に報告書を刊行した。平成29年度には川原宮Ⅲ遺跡の本調査を実施し、令和元年度に報告書を刊行した。

## 第2節 文化財保護法上の措置と遺跡の取り扱い

平成30年度に用地買収が完了した道路用地について、遺跡の有無を確認するための試掘確認調査を実施した。2ヶ所のトレンチを設定し、5月17日から24日まで行った（第4図のT1、T2）。試掘確認調査では中世の遺物及び遺物包含層を確認した。この調査結果に基づき、松江県土整備事

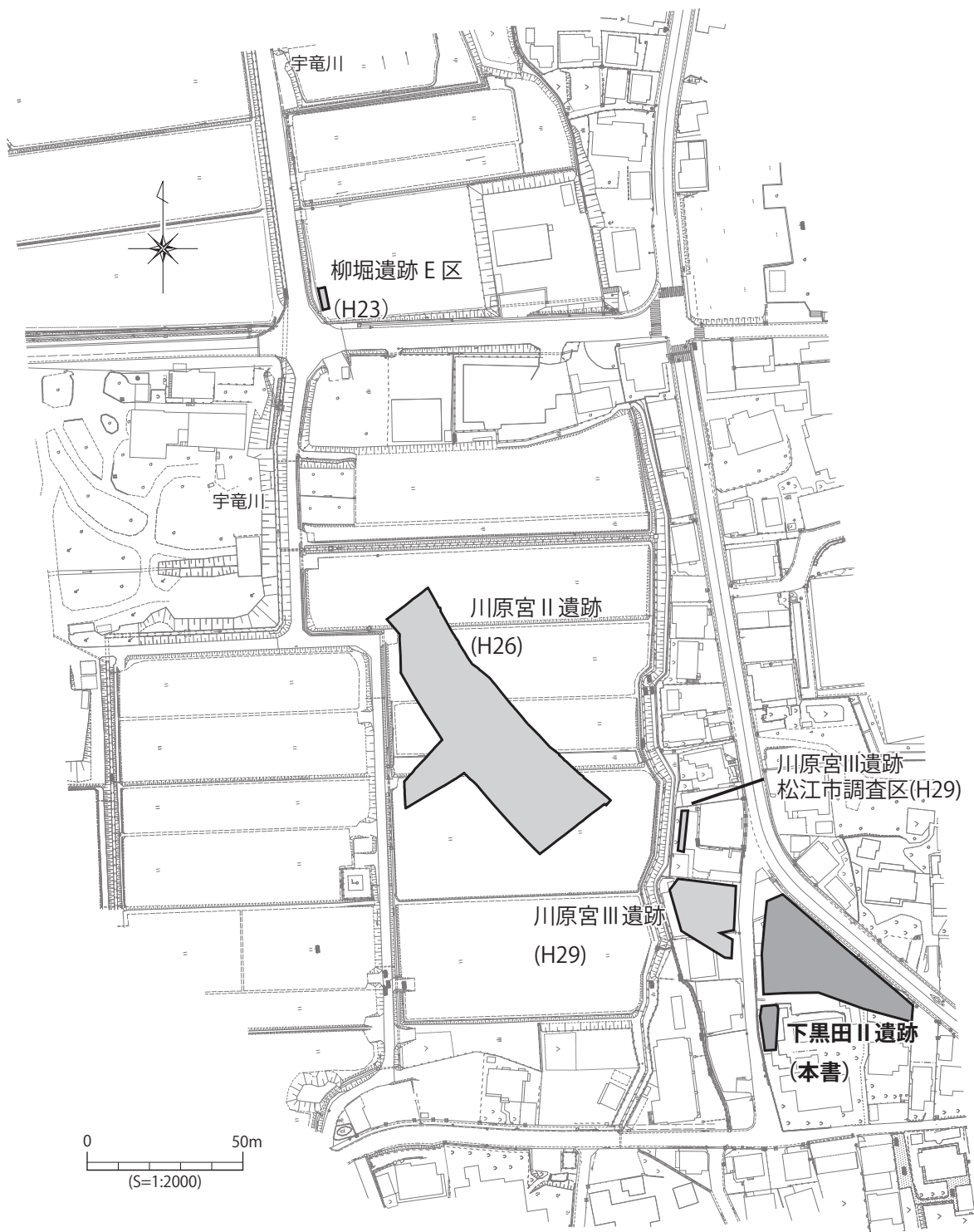


第1図 下黒田Ⅱ遺跡の位置

務所から平成30年6月25日付け松整第1799号で「下黒田Ⅱ遺跡」の文化財保護法第97条第1項にかかる発見通知が提出された。これを受けて島根県では同年7月2日付け島教文財第180号の3で松江県土整備事務所に対し本発掘調査を実施するよう勧告した。

下黒田Ⅱ遺跡の本発掘調査の文化財保護法第99条第1項にかかる発掘通知は、島根県教育委員会教育長あてに平成31年4月11日付け島教理第28号にて提出した。調査終了後、土木部道路建設課長あてに終了報告を令和元年10月8日付け島教文財第438号の2にて提出した。

以上の法的手続きに基づいて令和元年度に実施した本調査の成果をまとめたものが本書である。





第1表 国道432号大庭バイパス建設に伴う発掘調査一覧

調査年度		調査対象		所在地	箇所数	面積 (㎡)
平成20年	2008年	試掘確認調査	要注意箇所(団原・大庭鶏塚西)	松江市大庭町	7	
平成22年	2010年	試掘確認調査	要注意箇所(柳堀)	松江市大庭町	11	
平成23年	2011年	試掘確認調査	要注意箇所(柳堀)	松江市大庭町	7	
平成23年	2011年	本調査	柳堀遺跡(A～E区)	松江市大庭町		600
平成24年	2012年	試掘確認調査	要注意箇所(茶臼)	松江市大庭町	3	
平成24年	2012年	本調査	柳堀遺跡(F～H区)	松江市大庭町		1,600
平成25年	2013年	試掘確認調査	要注意箇所(川原宮Ⅱ)	松江市大庭町	7	
平成25年	2013年	本調査	茶臼遺跡	松江市大庭町		2,000
平成26年	2014年	試掘確認調査	要注意箇所(川原宮Ⅱ)	松江市大庭町	2	
平成26年	2014年	本調査	川原宮Ⅱ遺跡	松江市大庭町		2,500
平成26年	2014年	試掘確認調査	要注意箇所	松江市山代町	2	
平成27年	2015年	試掘確認調査	要注意箇所	松江市古志原町	2	
平成29年	2017年	試掘確認調査	要注意箇所(川原宮Ⅲ)	松江市大庭町	4	
平成29年	2017年	本調査	川原宮Ⅲ遺跡	松江市大庭町		370
平成30年	2018年	試掘確認調査	要注意箇所(下黒田Ⅱ)	松江市大庭町	2	
令和元年	2019年	本調査	下黒田Ⅱ遺跡	松江市大庭町		900



写真1 精査状況



写真2 遺構掘削状況



写真3 調査指導風景



写真4 調査指導風景

## 第2章 遺跡の位置と歴史的環境

下黒田Ⅱ遺跡は島根県松江市大庭町に所在する。字名「下黒田」は、本遺跡から北東へ広がる。本遺跡の北東には周知の遺跡である「下黒田遺跡」が所在することから、下黒田Ⅱ遺跡と呼称した。なお、『出雲国風土記』意宇郡の条に、「黒田驛」の名の由来として土地の色が黒いことから「黒田」と名づけたとの記載がある。

下黒田Ⅱ遺跡は茶白山の裾に広がる砂礫台地上に位置する。この砂礫台地は乃木段丘と呼ばれ、段丘礫層が約13万年前に降下した大山松江軽石に覆われており、最終間氷期の高海水準に対応して形成されたものと考えられている。この段丘上には山代二子塚古墳及び大庭鶏塚古墳、出雲国山代郷正倉跡などの国史跡や山代郷南新造院跡などの県史跡に指定されている重要遺跡が分布している。

### 【旧石器時代】

下黒田遺跡では玉髓製石核と剥片、市場遺跡では黒曜石製石核、山代郷北新造院（来美廃寺）の造成土中から玉髓製ナイフ形石器が出土している。

### 【縄文時代】

大庭北原遺跡と向山西遺跡で落とし穴が検出されている。遺物の出土はないが縄文時代の遺構の可能性が高い。上小紋遺跡では後期～晩期の土器が出土している。

### 【弥生時代】

集落遺跡では、大庭小原遺跡では弥生時代中期の溝や貯蔵穴を、大庭北原遺跡では弥生時代後期の竪穴建物をそれぞれ確認した。両遺跡とも台地上に位置している。この他、石台遺跡や平所遺跡、勝負遺跡では丘陵斜面に弥生後期の集落が展開している。平野部の柳堀遺跡では弥生後期の溝を確認しているほか、上小紋遺跡、向小紋遺跡では弥生後期の水田を確認しており、丘陵斜面や台地上には集落が、意宇平野などの平野部には水田が広がっていたことがうかがえる。墳墓では、来美墳丘墓、間内越1号墓などの四隅突出型墳丘墓がある。

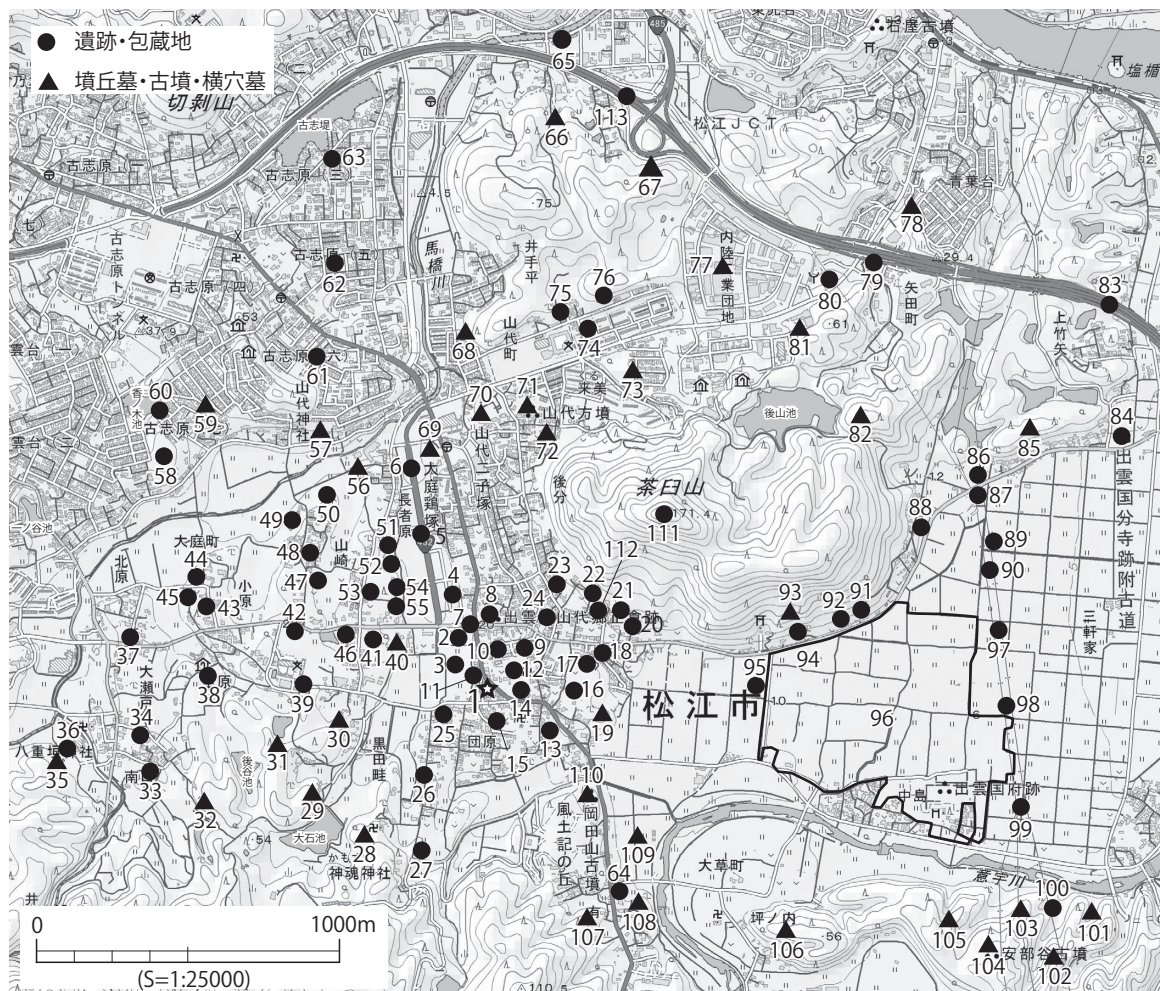
### 【古墳時代】

集落遺跡では大原小原遺跡で古墳時代前期の、砂口遺跡で古墳時代中期の竪穴建物をそれぞれ確認した。平野部では茶白遺跡で古墳前期の、柳堀遺跡で古墳後期の溝をそれぞれ確認した。また、出雲国府跡の大舎原地区では、古墳中期の軟質土器や陶質土器などの朝鮮半島系土器が出土しているほか、首長居館の可能性のある方形区画が想定されている。

古墳後期には、茶白山西側に大庭鶏塚古墳、山代二子塚古墳、東淵寺古墳といった大型古墳が築造されるようになる。終末期には山代方墳、山代原古墳（永久宅後古墳）など石棺式石室が築かれる。また、狐谷横穴墓群、十王免横穴墓群や意宇平野の南側の安部谷横穴墓群など横穴墓が築かれる。

### 【奈良・平安時代】

この地域は『出雲国風土記』では意宇郡山代郷に位置する。意宇平野に出雲国府が設置されたことにより、本遺跡の周辺では国府に関連する遺跡が確認されている。出雲国山代郷正倉跡では規格的に配置された総柱建物群と大量の炭化米を確認した。また、下黒田遺跡では正倉跡の南を区画す



1 下黒田Ⅱ遺跡	30 平古墳群	59 向山西古墳群	88 才塚遺跡
2 川原宮遺跡	31 万居堤古墳	60 香ノ木池遺跡	89 上小紋遺跡
3 川原宮Ⅱ遺跡	32 (県) 荒神谷・後谷古墳群	61 山代神社前遺跡	90 向小紋遺跡
4 大庭原ノ前遺跡	33 佐草宮ノ前遺跡	62 練兵場Ⅰ遺跡	91 大谷遺跡
5 柳堀遺跡	34 佐草井頭遺跡	63 練兵場Ⅱ遺跡	92 聖岩遺跡
6 茶臼遺跡	35 鏡の池裏山古墳群	64 上立遺跡	93 大谷横穴墓群
7 大庭植松遺跡	36 鏡池遺跡	65 石台遺跡	94 真名井遺跡
8 (国) 山代北原遺跡	37 大庭北原遺跡	66 上谷遺跡	95 大坪遺跡
9 黒田館跡	38 空原遺跡	67 南外古墳群	96 (国) 出雲国府跡
10 下黒田遺跡	39 大庭廻田遺跡	68 井出平山古墳群	97 四配田遺跡
11 川原宮Ⅲ遺跡	40 東淵寺古墳	69 (国) 大庭鶏塚古墳	98 神田遺跡
12 団原遺跡	41 外屋敷遺跡	70 (国) 山代二子塚古墳	99 大屋敷・才台垣遺跡
13 団原Ⅱ遺跡	42 大庭小学校校庭遺跡	71 (国) 山代方墳	100 天満谷遺跡
14 団原Ⅲ遺跡	43 砂口遺跡	72 山代原古墳(永久宅後古墳)	101 (国) 安部谷横穴墓群
15 黒田畦遺跡	44 大庭小原遺跡	73 狐谷古墳・横穴墓群	102 (県) 大草岩船古墳
16 小無田遺跡	45 B16 遺跡	74 来美南遺跡	103 (県) 古天神古墳
17 (県) 小無田Ⅱ遺跡	46 B3 遺跡	75 岩井谷遺跡	104 (県) 東百塚山古墳群
18 寺の前遺跡	47 B9 遺跡	76 (国) 山代郷北新造院跡(来美廃寺)	105 (県) 西百塚山古墳群
19 団原古墳	48 B10 遺跡	77 来美墳墓	106 才光寺横穴墓群
20 (県) 山代郷南新造院跡(四王寺跡)	49 B12 遺跡	78 間内越墳墓群	107 小谷横穴墓群
21 内堀石塔群	50 B11 遺跡	79 平所遺跡	108 (県) 御崎山古墳
22 市場遺跡	51 B8 遺跡	80 寺山小田遺跡	109 (県) 岩屋後古墳
23 山代沖田遺跡	52 B28 遺跡	81 (県) 十王免横穴墓群	110 (国) 岡田山古墳群
24 光泉寺遺跡	53 B18 遺跡	82 廻田古墳群	111 茶臼山城跡
25 神魂神社参道遺跡	54 B21 遺跡	83 才ノ峠遺跡	112 三代宅角柱状石塔
26 出雲国造館跡	55 土地田遺跡	84 (国) 出雲国分寺跡	113 勝負遺跡
27 中西遺跡	56 下ノ原古墳群	85 上竹矢古墳群	
28 大石古墳群	57 向山1号墳	86 間内遺跡	
29 大石横穴墓群	58 向山西遺跡	87 大平遺跡	

第3図 下黒田Ⅱ遺跡と周辺の遺跡

ると考えられる大溝、総柱建物跡や掘立柱建物跡を確認した。寺院跡では山代郷北新造院跡（来美廃寺）や山代郷南新造院跡（四王寺跡）があり、山代郷南新造院跡に瓦を供給した瓦窯が見つかった小無田Ⅱ遺跡がある。この他、古代山陰道（正西道）または古代山陰道に並走する準幹線路の可能性のある道路遺構を確認した外屋敷遺跡がある。

#### 【鎌倉・室町時代】

出雲国府のあった意宇平野一帯は、中世には「出雲府中」と呼ばれるようになった。出雲府中には官衙や屋敷、工房、市場、港、寺院などで構成され、都市的な景観があったと考えられている。発掘調査ではその一端を垣間見ることができる。

出雲国府跡の宮の後地区や日岸田地区、大舎原地区では掘立柱建物跡や井戸などの遺構と共に貿易陶磁や国産陶器が出土している。11世紀後半から13世紀にかけて貿易陶磁の出土点数が卓越することから、出雲国府の周辺はその機能を継続させていたことがうかがえる。

本遺跡の南西約350mに位置する出雲国造跡は、12世紀から14世紀までの貿易陶磁が多く、有力者の館があったと推定される。本遺跡の西側に隣接する川原宮Ⅲ遺跡では、15～16世紀の大規模な区画溝を確認した。また、本遺跡の北東約200mに位置する黒田館跡では15世紀後半から16世紀にかけての館跡と考えられる平面台形状の土塁や堀、掘立柱建物跡を確認した。茶臼山には16世紀の山城である茶臼山城が築かれている。館の背後に山城が位置しており、黒田館跡と茶臼山城跡は一連の遺跡であるといえる。この他、茶臼山の南西麓には市場遺跡、山代郷南新造院跡、寺の前遺跡、小無田Ⅱ遺跡などの集落が発掘調査により確認されている。また、正林寺の五輪塔群、内堀石塔群、三代宅角柱状石塔などの中世の石造物もあり、中世の遺跡が台地上に広く展開していたことがうかがえる。

#### 【江戸時代】

出雲国は、関ヶ原の戦いののち堀尾氏が領主となり富田城（安来市広瀬町）に入った。慶長12（1607）年から松江城と城下町の建設が始まり、慶長16（1611）年には富田城から松江城に移り、城下町の整備が進められた。

松江に城下町が建設されて以降、政治と文化の中心であった意宇平野は農村へ姿を変えて現在に至っている。この辺りは江戸時代の大庭村に相当し、川原宮Ⅱ遺跡・大原原ノ前遺跡・柳堀遺跡・大庭小原遺跡などで江戸時代の遺構・遺物が確認されている。



写真5 現地説明会風景



写真6 現地説明会風景



写真7 現地説明会風景

# 第3章 調査の成果

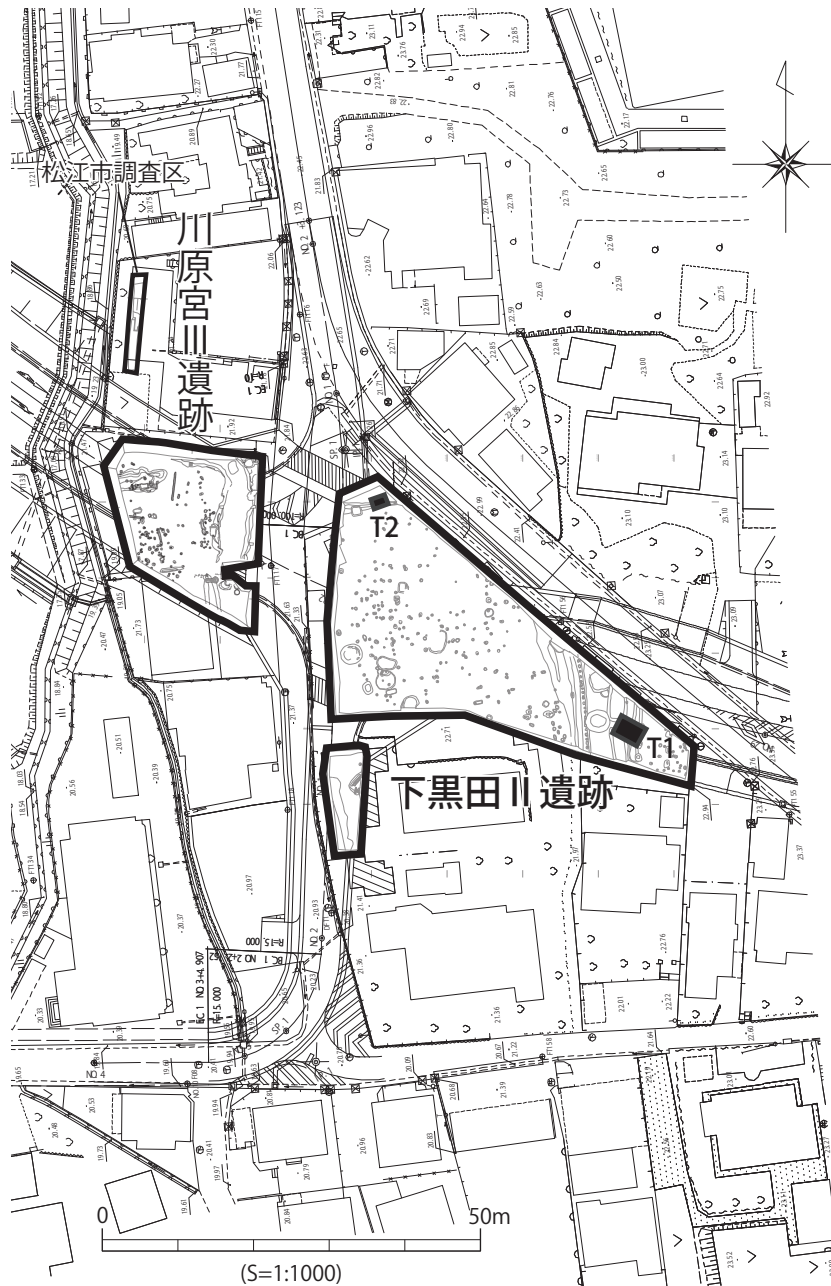
## 第1節 調査の方法と経過

### 1. 調査の方法

下黒田Ⅱ遺跡は、平成30年度の試掘確認調査で設定した2か所のトレンチで遺構・遺物を確認したことから、本発掘調査の範囲を設定した。

調査前は宅地であった。調査対象面積は約1,300㎡、実際の調査面積は約900㎡である。調査期間は令和元年6月3日～9月9日である。

### 調査区の設定



第4図 下黒田Ⅱ遺跡調査区配置図

調査では、重機掘削後に10m四方のグリッドを設定した。グリッドの名称は川原宮Ⅲ遺跡にあわせて、東に向かってアルファベット順、南に向かってアラビア数字順に呼称することとした(第5図)。

### 表土及び造成土の掘削

試掘確認調査の結果に基づき、表土及び造成土はバケットに平爪を装着したバックホーを使用して除去した。宅地の駐車場部分を中心にコンクリートの基礎があり、その部分は削平や攪乱が著しかった。遺物包含層はスコップやジョレンを用いて人力で掘り下げた。

### 遺構掘削

遺構の掘削には草刈りや移植ゴテを使用した。掘削に当たっては遺構を半截するか土層観察用の畔を設定して掘り下げた。土層については必要に応じて写真撮影を行い、図面を作成した。

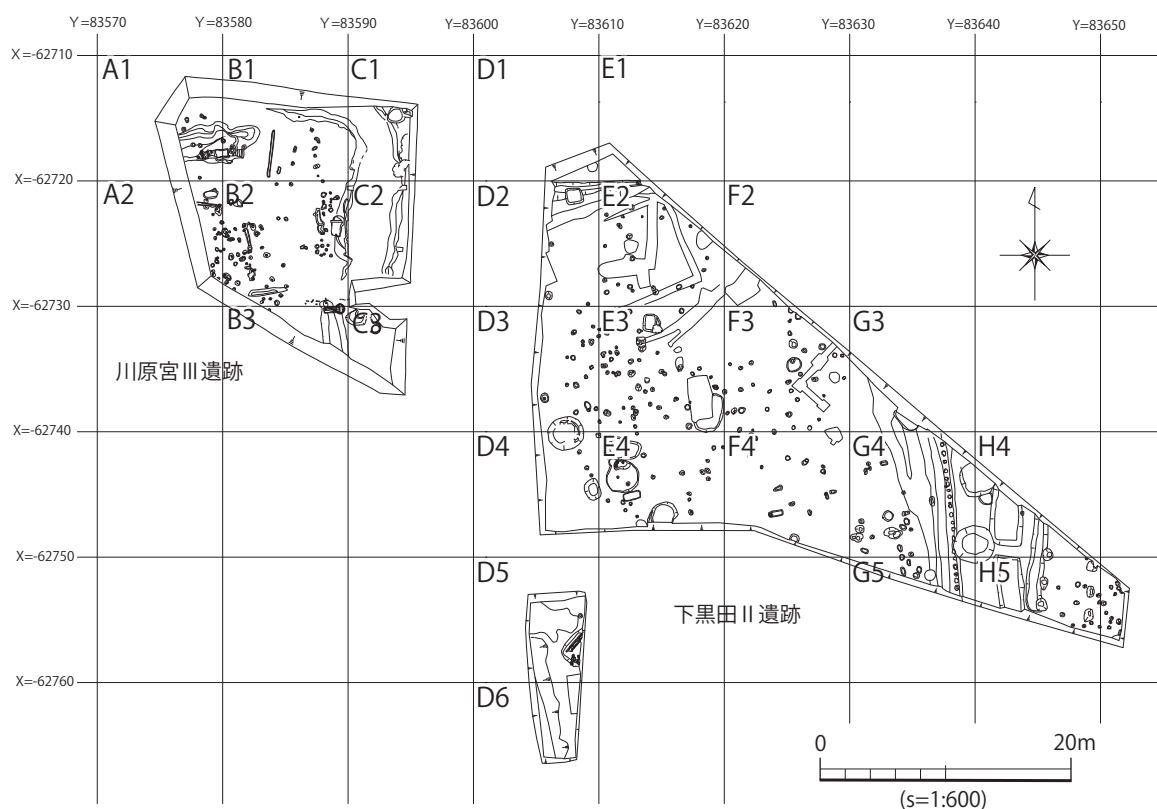
遺構の呼称は、検出時に遺構の性格を考慮せずに001から付けていき、完掘後に遺構の性格を判断して「遺構の性格+検出順の3桁の数字」とした。そのため溝や土坑の番号は実際に確認した遺構の数とは無関係である。

### 記録の作成

遺構の平面図は遺跡調査システム「SITEV」を用いて測量し、出力後補正を行った。断面図は「SITEV」のほかオートレベルを用いて測量を行った。また、必要に応じて手測りで平面図や断面図を作成した。遺構の写真は35mmデジタルカメラで撮影し、必要に応じて6×7判カメラ(モノクロネガ、カラーポジフィルム)により撮影した。

### 整理等作業

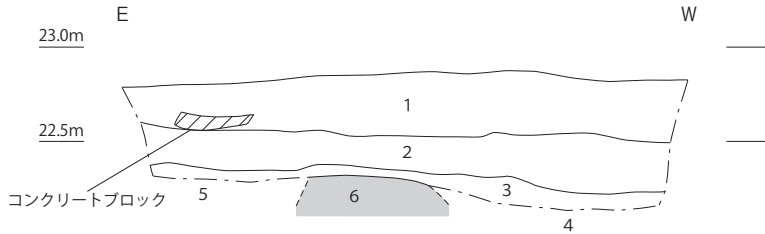
現地調査と並行して出土遺物の水洗い、注記を行った。現地調査の終了後、遺物の接合、復元、分類作業を行った。遺構出土の遺物は実測の対象とし、包含層出土の遺物は出土点数が多いものや



第5図 グリッド配置図

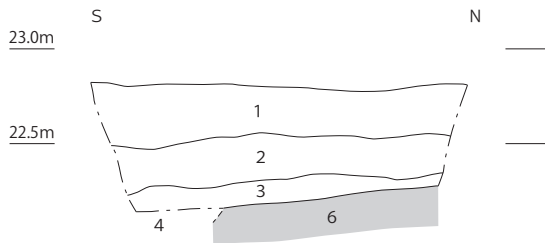


T1 南壁土層断面図

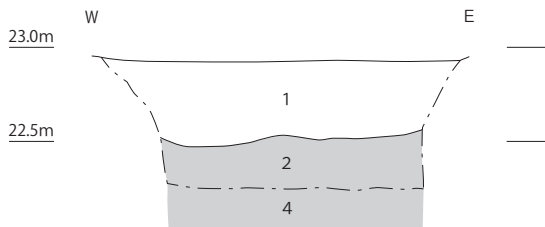


- 1 黒色土 10YR1/2
- 2 黒褐色土 10YR2/2
- 3 2層に黄褐色土 (10YR5/6) が混ざる
- 4 黒褐色土 (2.5Y3/2) と黄褐色土 (10YR5/6) が混ざる：土坑埋土
- 5 黒褐色土 (2.5Y3/2) と黄褐色土 (10YR5/6) が混ざる：溝埋土
- 6 明黄褐色土 10YR7/6

T1 西壁土層断面図

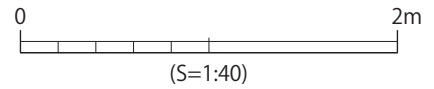
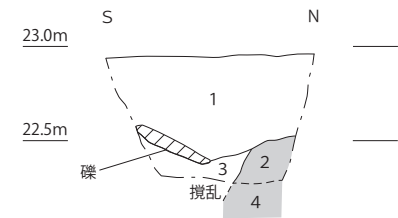


T2 北壁土層断面図



- 1 造成土 礫を多く含む
- 2 明黄褐色土 10YR6/6 粘性あり
- 3 黒褐色土 7.5YR4/2 木炭粉混ざる、明黄褐色土 (10YR6/8) をブロック状に含む
- 4 明黄褐色土 10YR7/6

T2 西壁土層断面図



第6図 試掘トレンチ土層図

特徴のあるものを抽出した。

報告書の作成はDTP方式を採用し、トレースや図の加工などはAdobe社製IllustratorCC、PhotoshopCCを用いた。遺構・遺物写真はデジタルカメラで撮影した後、Photoshopを用いて調整した。原稿編集作業はAdobe社製InDesignCCを用いて行った。

## 2. 調査の経過

発掘調査は6月3日から開始した。8月7日には高屋茂男氏（島根県立八雲立つ風土記の丘学芸課長）に調査指導を受けた。9月7日には現地説明会を行い、約40名の参加を得た。その後9月9日に調査を終了した。発掘調査終了後は、埋蔵文化財調査センターで整理作業を行った。なお、10月26日に大庭公民館にて開催された大庭地区文化祭にパネルや遺物を展示した。

《日誌抄》

- 6月3日 発掘調査開始
- 6月26日 包含層の掘削を終え、ピットなど遺構の検出を開始
- 7月5日 遺構の掘削を開始
- 7月22日 掘立柱建物跡1など調査区東側の遺構完掘写真を撮影
- 7月29日 土坑110から陶器の皿検出
- 8月6日 掘立柱建物跡2、3の写真撮影
- 8月7日 高屋茂男氏による調査指導会
- 8月9日 完掘写真を撮影
- 9月5日 空撮
- 9月7日 現地説明会
- 9月9日 現地調査終了

## 第2節 調査の成果

### 1. 基本層序

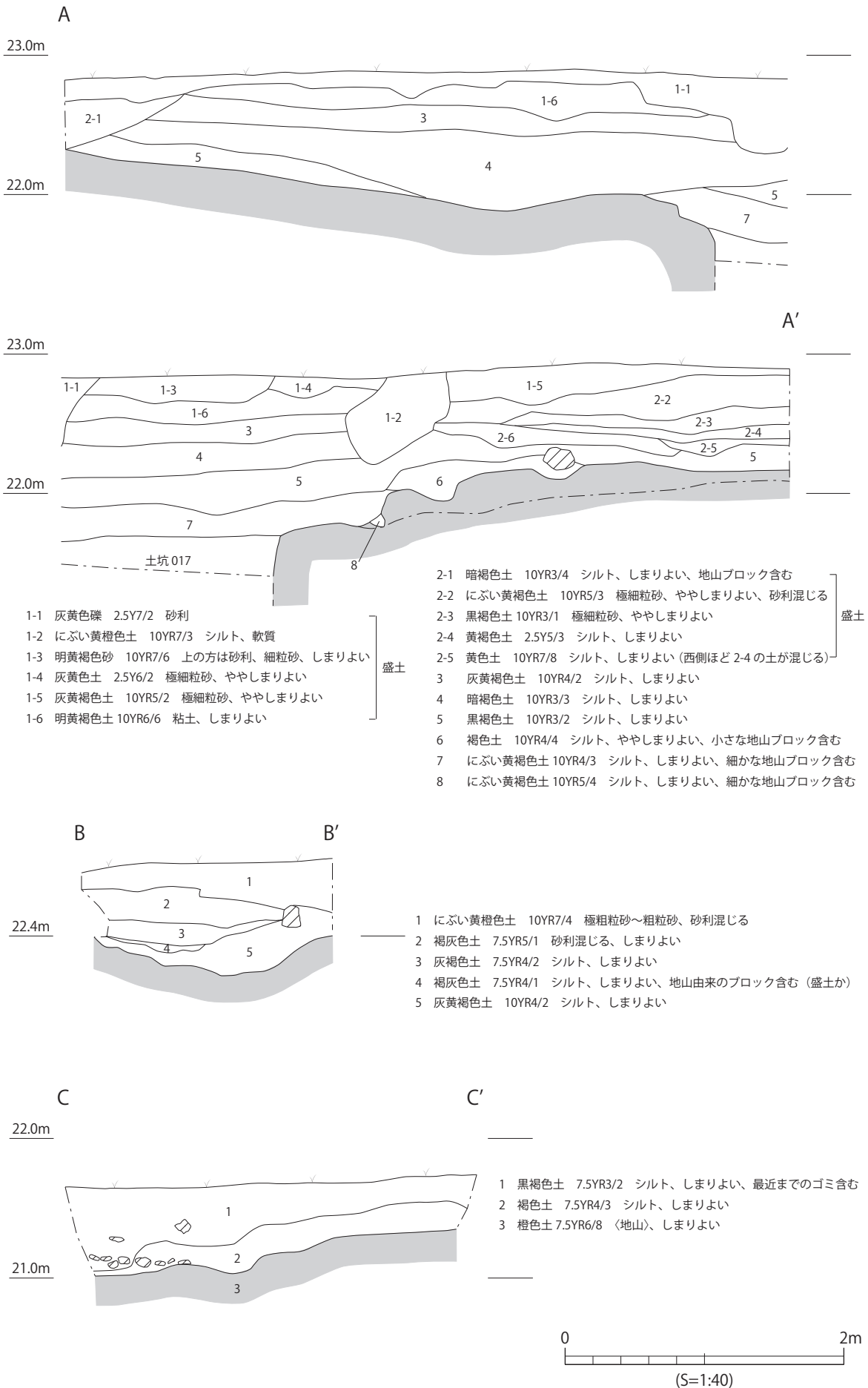
試掘確認調査のトレンチは2ヶ所とも表土下約60cmで地山である明黄褐色土に達した。南側のT1では表土である黒色土があり、その下に黒褐色土が堆積していた。黒褐色土の下層に黒褐色土と黄褐色土が混じった層があり、地山の上面では遺構を確認した。北側のT2では造成に伴う攪乱が地山まで及んでいた部分があったほか、造成土の下がすぐ地山であったが、遺構面は残っていると判断した（第6図）。

調査前が宅地であったこととT2の状態から、造成による土層の攪乱がある部分が多いことが予想された。実際の発掘調査でも土層の攪乱や削平が著しく、特に調査区の北東側にある国道432号沿いでは攪乱や削平が顕著であったことから、調査区の周囲の土層の記録をとることは見送り、調査区の北東側と北西隅、南隅の土層を記録することにした。

北東側の土層（第8図AA'）では、表土下30～70cmまで盛土や造成土が及んでいる。調査区の



第7図 調査区全体図



第8図 調査区土層図

東側、G3 から G5 グリッドにかけて里道 139 が位置している。里道 139 は南北に伸びており、調査区の南北にも里道として続くが、この里道の西側が溝状に低くなっている部分があり、4 層はその部分に堆積した土であり、5 層を切って堆積した。5 層の黒褐色土が遺物包含層であり、遺跡の大部分で確認することができた。地山は黄褐色や黄色であり、しまりのよい層である。

なお、下黒田Ⅱ遺跡の北西に位置する外屋敷遺跡の土層は、上位から①灰色～黒色土（表土）、②黒色～暗茶色土、③黄褐色シルト質粘土（地山の漸移層）、④褐色～黄褐色粘土（地山）であり（松江市教育委員会ほか編 2016、14 頁）、下黒田Ⅱ遺跡では①は削平や攪乱を受けており、②と区別することが難しかった。また、③も確認することは難しかった。

北西隅の土層（第 8 図 BB'）は、近世以降の遺物を含む溝の部分に相当するため、削平や攪乱が著しい。地山の上には灰黄褐色土があり、黒褐色土は確認できなかった。

南隅の土層（第 8 図 CC'）は、表土の標高が北東隅に比べ約 1 m 低い。この部分も削平や攪乱が著しく、褐色土からの遺物はわずかであった。地山は西に向かって傾斜している。

遺跡の地山面の標高は 21.0 m～22.6 m であり、調査区の東側がやや高くなっている。また、調査区の北側にも 22.6 m の等高線があり、この部分が高くなっているが、削平があったと考えられることから、当初からこの部分が高かったかどうかは不明である。調査区の南西側では、21.4 m の等高線から西側へ段状に低くなっている。遺跡の西に位置する川原宮Ⅲ遺跡では、調査区の東端で標高 21.2 m、調査区の西壁で 20.0 m であることから、遺跡は段丘の縁に位置しており、南側調査区の標高 21.4 m の部分から段丘が傾斜して落ち込んでいると考えられる。

## 2. 検出遺構

第 7 図は調査区の全体図である。第 8 図 5 層の黒褐色土の上部には、前述したように造成土やコンクリートがあり、黒褐色土の上面で検出する遺構は近代以降の時期であることが分かったため、黒褐色土の下面で遺構を検出した。黒褐色土の中で遺構を確認することはできなかった。

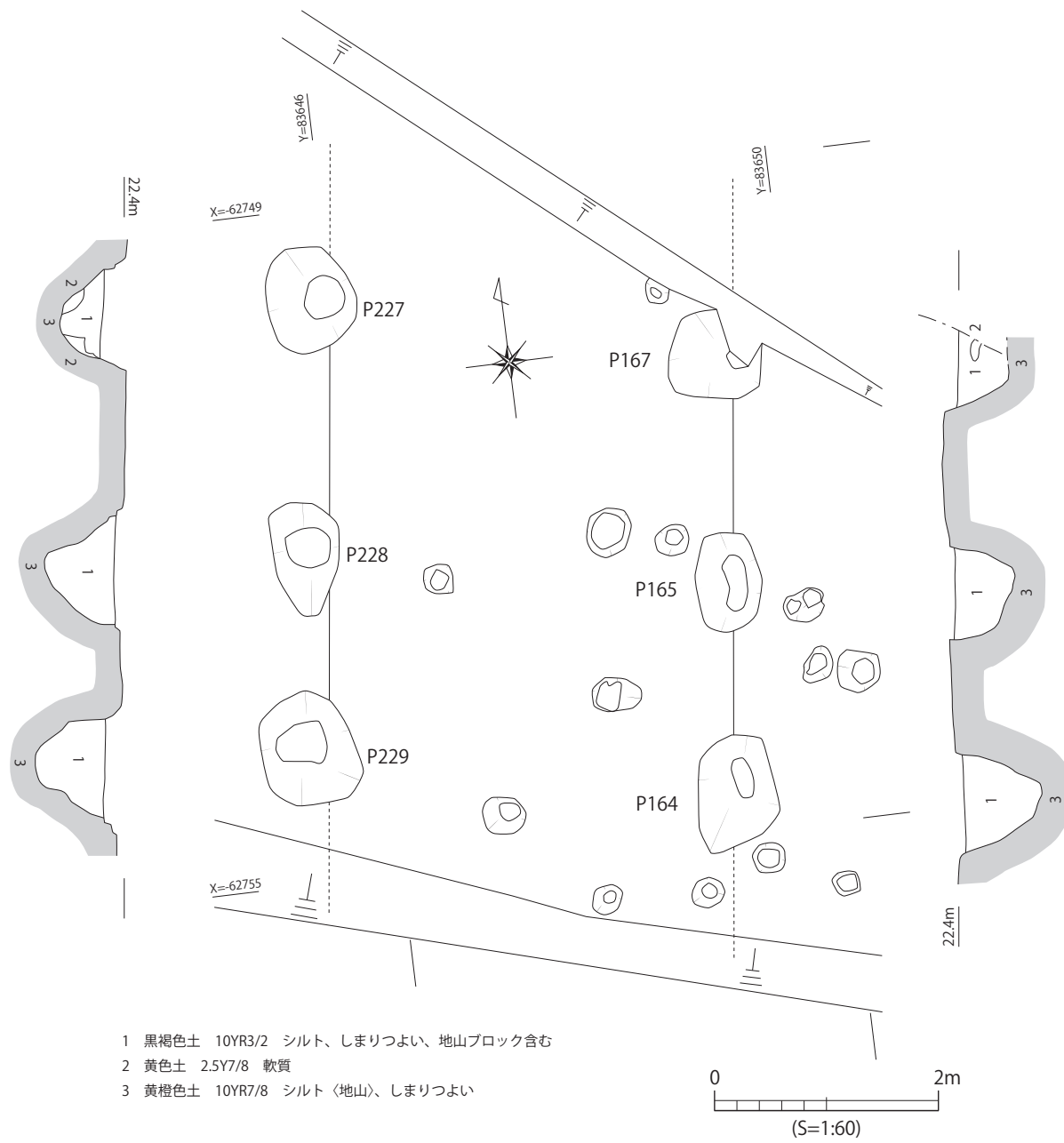
検出した遺構は掘立柱建物跡 3 棟、溝 3 条、土坑 7 基、ピット約 200 である。

### 掘立柱建物跡

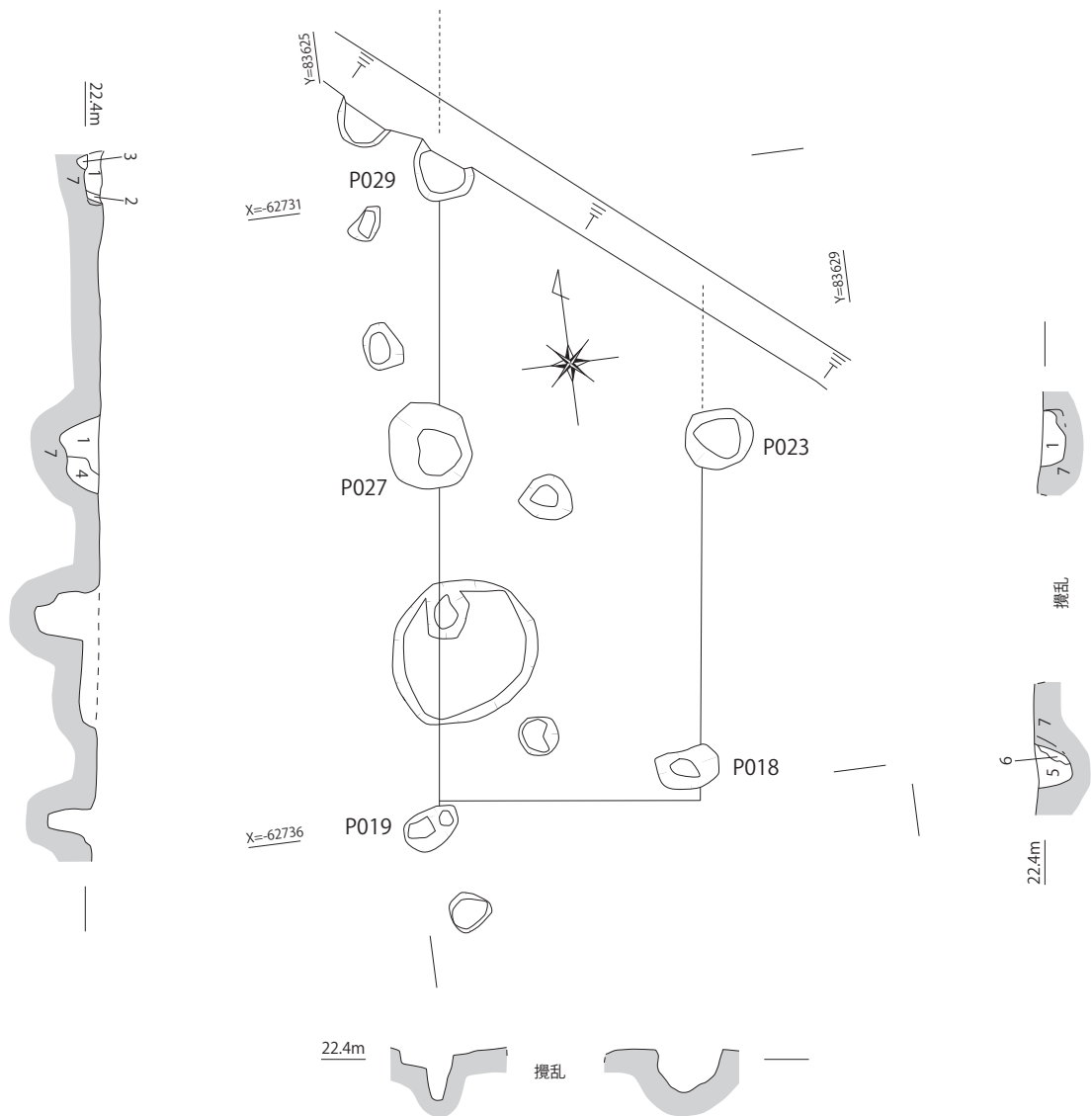
掘立柱建物跡は調査区の東側、西側、北東側で確認した。柱穴となるピットをまとめて 1 つの掘立柱建物跡として呼称し、検出順に掘立柱建物跡 1、2、3 とした。掘立柱建物跡の寸法は第 3 表の建物計測表に記載した。

#### 掘立柱建物跡 1（第 9 図）

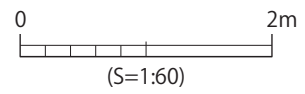
調査区の東側、H4 から H5 グリッドに位置する。現状で桁行き 2 間分を確認した。さらに南北に延びると考えられる。長軸は南北方向からわずかに東へ振る。遺跡の中では標高の高い部分に位置する。溝 171 を切る。また、後述する溝 225 と近いことから、溝 225 とは時期が異なる可能性がある。柱穴の平面形は楕円形で、長軸が 1 m を越えるものがあつた。柱穴の埋土は暗褐色でしまりがよく、地山由来の黄橙色土を含んでいた。柱痕跡を確認することはできなかった。また、梁行き部分に対応する柱穴を確認することはできなかったので、梁行きが長い建物と考えられる。桁行きが 7 尺、梁行きが 12 尺に復元することができる。



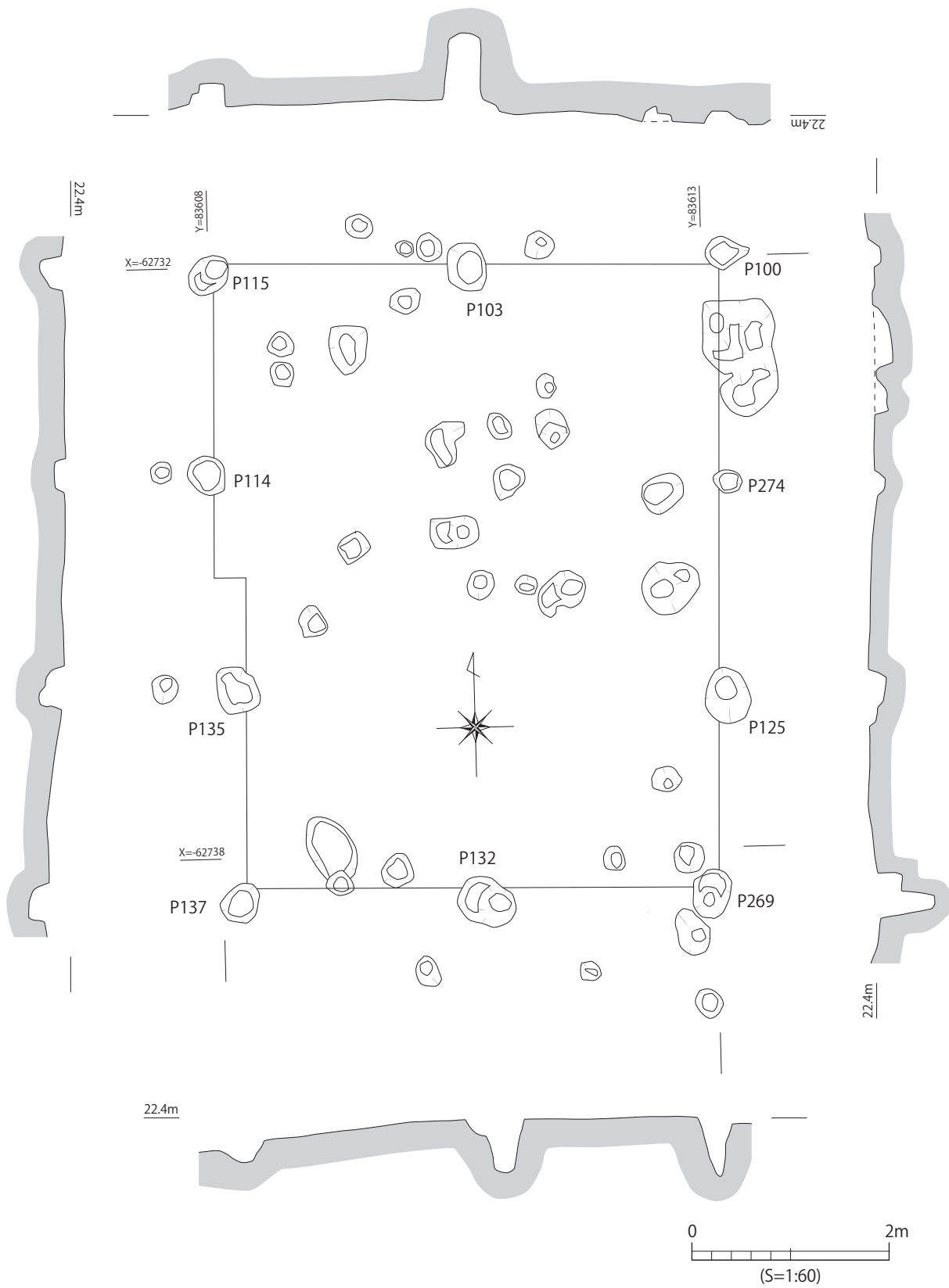
第9図 掘立柱建物跡1



- 1 黒褐色土 10YR2/2 シルト、しまりよい
- 2 にぶい黄褐色土 10YR5/3 粘土、軟質
- 3 明黄褐色土 10YR7/6 粘土、軟質
- 4 黄褐色土 10YR5/6 細かなブロック含む
- 5 にぶい黄橙色土 10YR7/4 粘土、細かなブロック含む
- 6 灰黄褐色土 10YR5/2 粘土
- 7 黄橙色土 10YR7/8 シルト〈地山〉、しまりつよい



第10図 掘立柱建物跡2



第11図 掘立柱建物跡3



柱穴からは須恵器や土師器、陶器の破片が出土したが、図化できる破片はなかった。柱穴の一つから磁器の細片が出土しており、時期は江戸時代まで下る可能性がある。

#### 掘立柱建物跡 2 (第10図)

調査区中央の北側、F3 グリッドに位置する。現状で桁行き2間、梁行き1間を確認した。桁行きはさらに北へ延びる可能性がある。長軸は南北方向からわずかに東へ振る。柱配置の復元に苦慮した。柱穴の平面形は円形または楕円形である。柱穴の埋土は黒褐色のものが多い。柱穴から遺物が出土しなかったため、時期は不明である。桁行きは9尺、梁行きは7尺に復元することができる。

#### 掘立柱建物跡 3 (第11図)

調査区の西側、D3 から E3 グリッドに位置する。桁行き3間、梁行き2間である。遺構掘削時には建物であると認識することができず、掘削後に図上で復元した。西側の柱間は1間分西へ広げて復元した。長軸はほぼ南北である。柱穴の平面形は円形または楕円形である。柱穴の埋土は暗褐色や黒褐色のものが多い。柱穴からは須恵器や土師器、青磁碗の破片が出土したが、図化できる破片はなかった。青磁碗の細片が出土していることから、時期は室町時代の可能性がある。桁行きは7尺、梁行きは8尺と9尺に復元することができる。

### 溝

溝は調査区の東側で3条確認した。溝の寸法は第4表の遺構計測表に記載した。

#### 溝 171 (第12図)

調査区の東側、H4 から H5 グリッドに位置する。南北からわずかに北東 - 南西方向を向き、調査区外の北に延びる。断面は浅いU字形である。深さは約20cmと浅く、削平された可能性がある。埋土は暗褐色のシルト質で、地山由来の土を含む。底面はほぼ水平である。湧水はなく、流水の痕も確認できなかった。検出時に掘立柱建物跡1の柱穴が見えたので、掘立柱建物跡1に先行する。埋土からは須恵器、土師器、青磁、陶器が出土したが、図化できる破片はなかった。

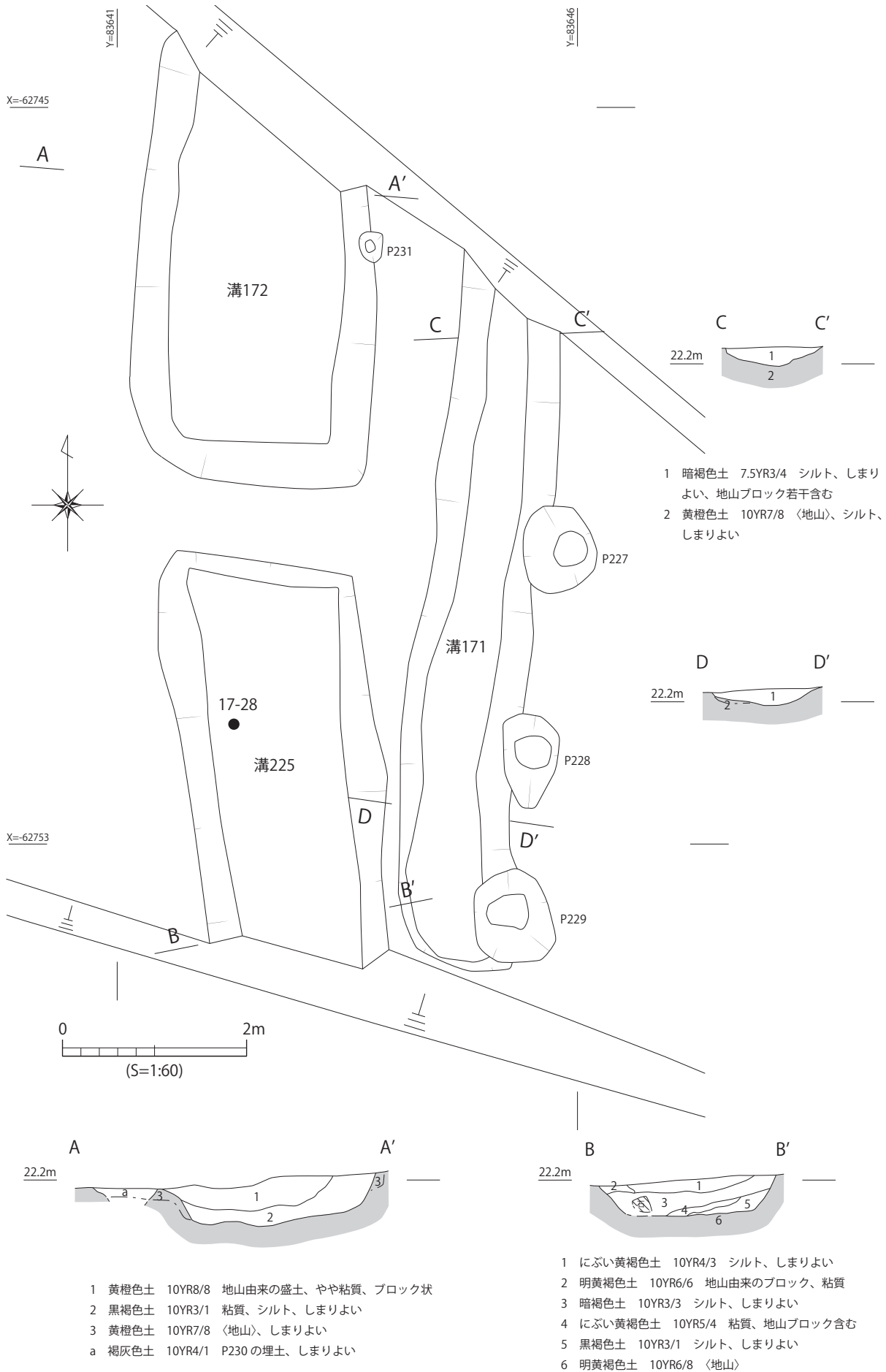
#### 溝 172 (第12図)

調査区の東側、H4 グリッドに位置する。ほぼ南北方向で、調査区外の北に延びる。後述する溝225と一連の遺構と考えられる。断面は逆台形である。埋土の1層は地山によく似た黄褐色土であり、2層とは大きく異なる。2層は黒褐色土の粘質土である。底面はほぼ水平である。深さは約50cmであるが、削平された可能性がある。湧水はなく、流水の痕も確認できなかったため、常時滞水していなかったと考えられる。2層が堆積したのち1層が堆積したが、1層は地山由来と考えられることから、1層は人為的に埋められた可能性が強い。南端は底面から斜めに立ち上がり、溝225との間は約90cm離れており、陸橋状に掘り残している。

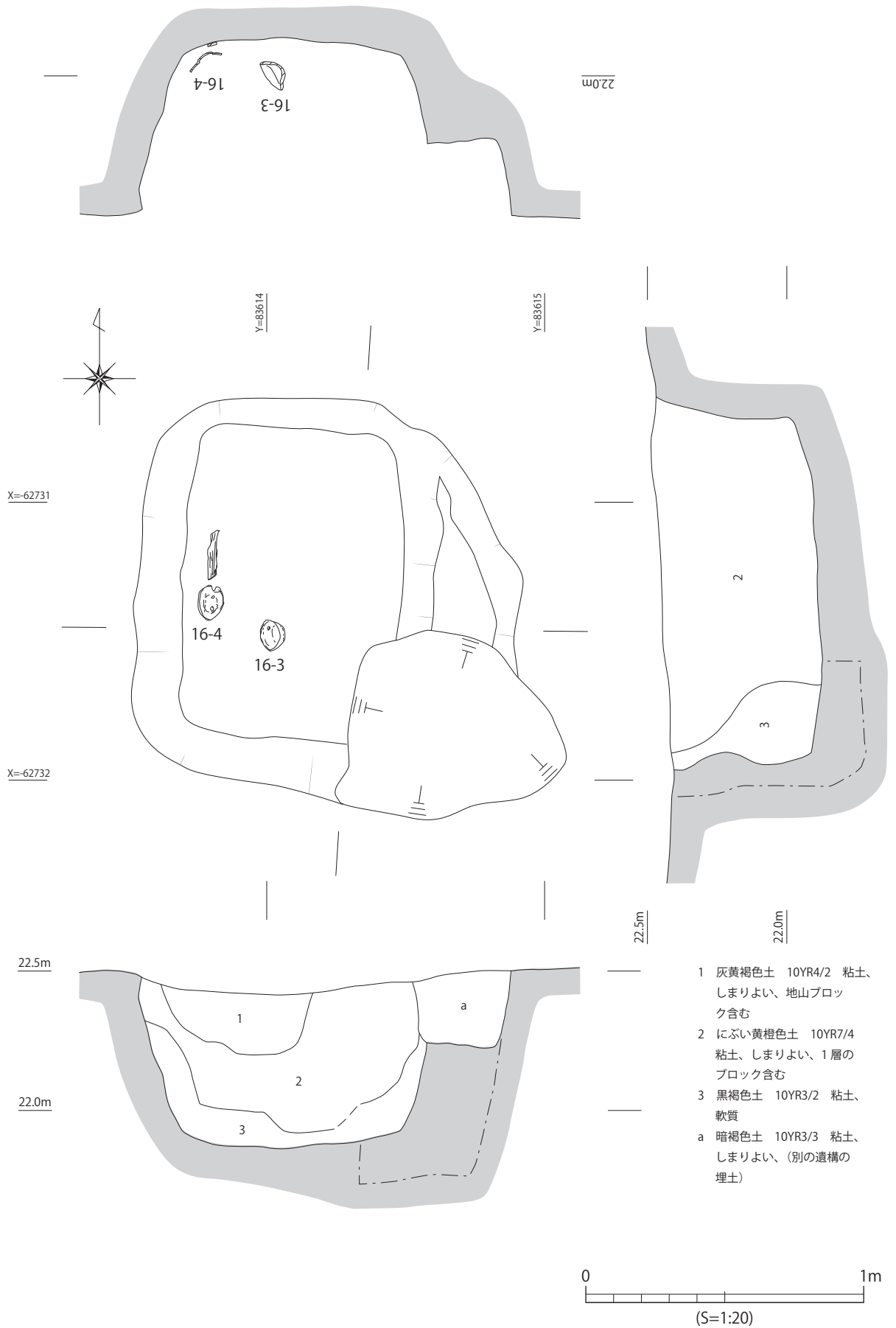
埋土からは須恵器、土師器、青磁が出土した。このうち、土師器(第16図1)と青磁(2)を図化した。遺構の時期は室町時代(15世紀代)と考えられる。

#### 溝 225 (第12図)

調査区の東側、H5 グリッドに位置する。溝172と異なり、やや南東方向を向き、調査区外の南に延びる。断面は逆台形である。深さは約40cmであるが、削平された可能性がある。埋土は暗褐



第12図 溝172. 溝225. 溝171



第13図 土坑110

色や黒褐色の粘質土であるが、2層や4層にブロック状に地山によく似た土を含む。底面はほぼ水平である。溝172同様湧水はなく、流水の痕も確認できなかった。

埋土からは須恵器（第17図28）の他に土師器、青磁が出土したが、これらには図化できる破片が無かった。溝172と一連の遺構であることから、遺構の時期は室町時代（15世紀代）と考えられる。

なお、溝172と溝225の間の陸橋部のすぐ西側には江戸時代の井戸173（18世紀代）が掘られており、陸橋としての機能は江戸時代に失っていたことがうかがえる。

## 土坑

土坑は調査区の西側を中心に合計7基確認した。なお、土坑の記述の順番は土坑のまとまりごとに記述したので順番にはなっていない。土坑の寸法は第4表に掲載した。

### 土坑110（第13図）

調査区西側、E3グリッドに位置する。平面形は長方形である。遺構の南東部分は攪乱で破壊されている。断面は深い逆台形である。土坑の東側が二段になっているが、この部分は別の遺構の可能性もある。埋土の1層と2層が地山由来の黄褐色土を含む粘土質の層であったため、当初は土坑であるとの認識ができず、遺構の壁面と埋土の違いに苦慮したが、深く掘ったところ陶器の皿が出土したことにより、底面を認識することができた。3層の黒褐色土は東西方向の土層では確認できたが、南北方向では南側でしか確認できず、第13図では南北方向と東西方向の土層が対応していない。3層の黒褐色土から陶器の皿2点が出土した（第16図3、4）。また、土坑の西寄りにはわずかに木質が残っていた。土器は床面からわずかに浮き、ともにやや斜めに傾いていたが、口縁を上に向けていた。東西方向の土層を見ると、1層と2層が3層を掘り込んだ格好になっていることから、3層が本来の埋土で、1層、2層は後の時代の掘削の可能性もある。

遺構の時期は、出土した土器から江戸時代初頭（17世紀初頭）と考えられる。

### 土坑146（第14図）

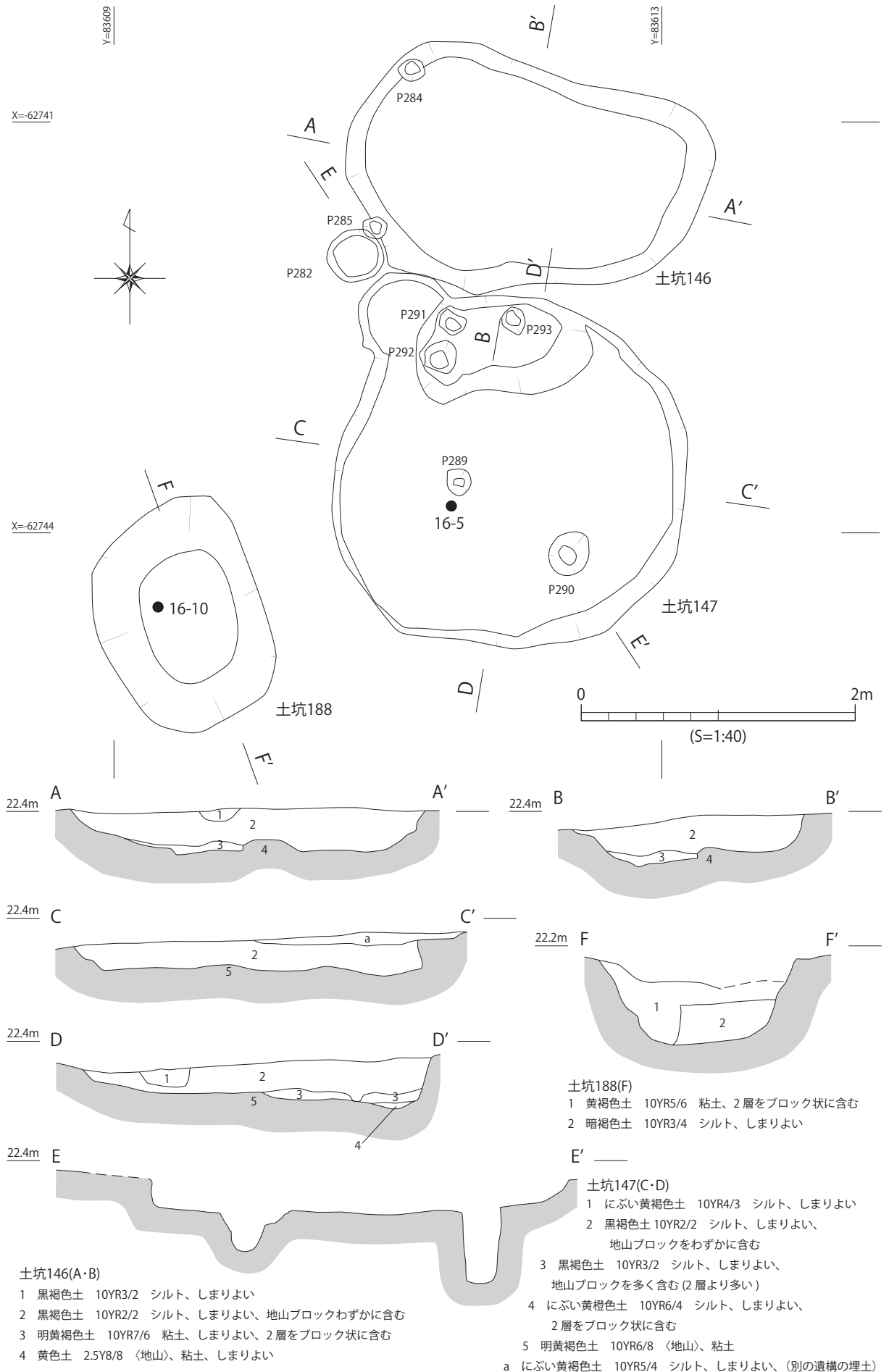
調査区の西側、E4グリッドに位置する。平面形は楕円形である。断面は浅いU字形である。埋土は黒褐色を基調とする。埋土の締まりはとても良い。遺構の肩部に2か所のピットがある。埋土から須恵器や土師器が出土したが、図化できる破片はなかった。

### 土坑147（第14図）

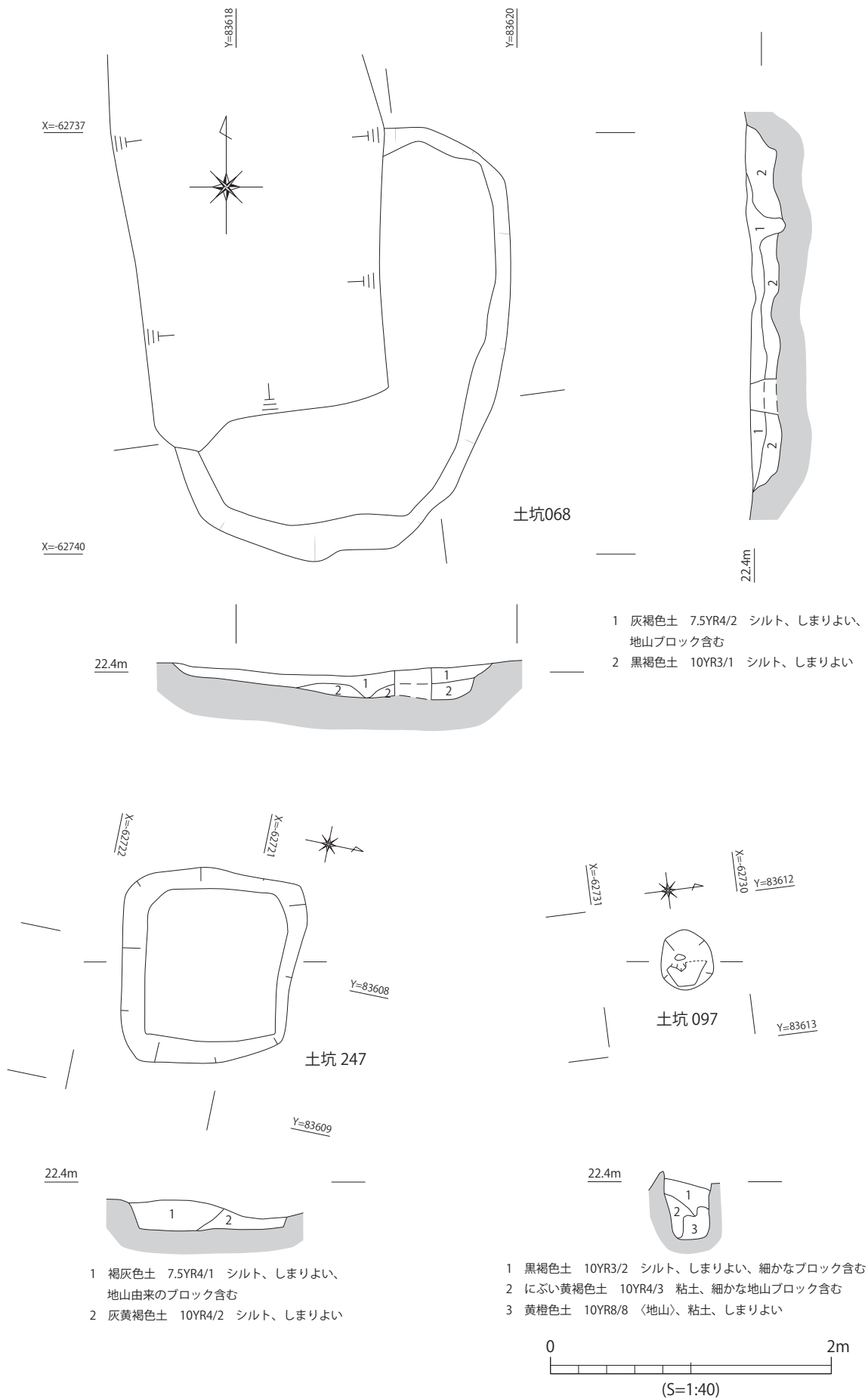
調査区の西側、E4グリッドに位置する。平面形は円形である。断面は浅いU字形であるが、北側がやや深く、この部分で一段さらに深くなっている。埋土は黒褐色を基調とする。埋土の締まりはとても良い。遺構の底面に2か所、北側に3か所のピットがある。埋土である2層の中から須恵器（第16図5）のほか、須恵器や土師器が出土した。土坑146と147は近接しており、埋土の特徴がよく似ていることや鎌倉時代以降の土器が出土しないことから、遺構の時期が平安時代にさかのぼる可能性がある。

### 土坑188（第14図）

調査区の西側、D4グリッドに位置する。平面形は楕円形である。断面はU字形である。埋土は黄褐色や暗褐色である。埋土から土師器（第16図10）や須恵器が出土した。10は土坑の底面近く



第14図 土坑146.土坑147.土坑188



第15図 土坑068.土坑097.土坑247

から出土した。10から、遺構の時期は平安時代と考えられる。

#### 土坑 068 (第 15 図)

調査区の西側、E3 グリッドに位置する。遺構の北西側を攪乱されているが、平面形は楕円形に復元できる。断面は浅いU字形である。底面は若干の凹凸がある。埋土は黒褐色土の上に灰褐色土が堆積する。深さは最大で約 20cm である。攪乱を受けていることや浅いことから、削平の可能性はある。遺物は出土しなかったため時期は不明である。

#### 土坑 097 (第 15 図)

調査区の北東側、E3 グリッドに位置する。平面形は円形、断面系は逆台形である。埋土は 3 層に分けることができ、遺物が出土しなかったため時期は不明である。

#### 土坑 247 (第 15 図)

調査区の北西側、D2 グリッドに位置する。江戸時代の溝を掘削した後に検出したので、上面は削平されている。平面形はほぼ正方形で、断面形は逆台形である。埋土は灰黄褐色の上位に褐灰色の地山ブロック混じりの土が堆積する。遺物が出土しなかったため時期は不明である。

このほか、ピットを約 200 検出し、寸法は第 2 表に掲載した。埋土は 1 層のものがほとんどである。埋土の色調は暗褐色や黒褐色のものが中心で、褐色のものがそれに次いで多い。黄褐色や黄橙色のピットは少ない。径は 0.3 ～ 0.6 m のものが多い。ピット内から須恵器や土師器の破片が出土したものがあがるが、ピットの寸法が小ぶりなことから、室町時代以降のものがほとんどで、奈良・平安時代にまでさかのぼるものはないと考えられる。

#### 近世以降の遺構

遺構の掘削の結果、近世以降に属する遺構である土坑 017、井戸 140、井戸 173、土坑 149、土坑 174、不明遺構 297 は調査区全体図 (第 7 図) にのみ記載した。これらの遺構から出土した近世以前の出土遺物は遺構外出土遺物と同様に扱い、明らかな近世以降の遺物は掲載しないこととした。

### 3. 出土遺物

#### 土器

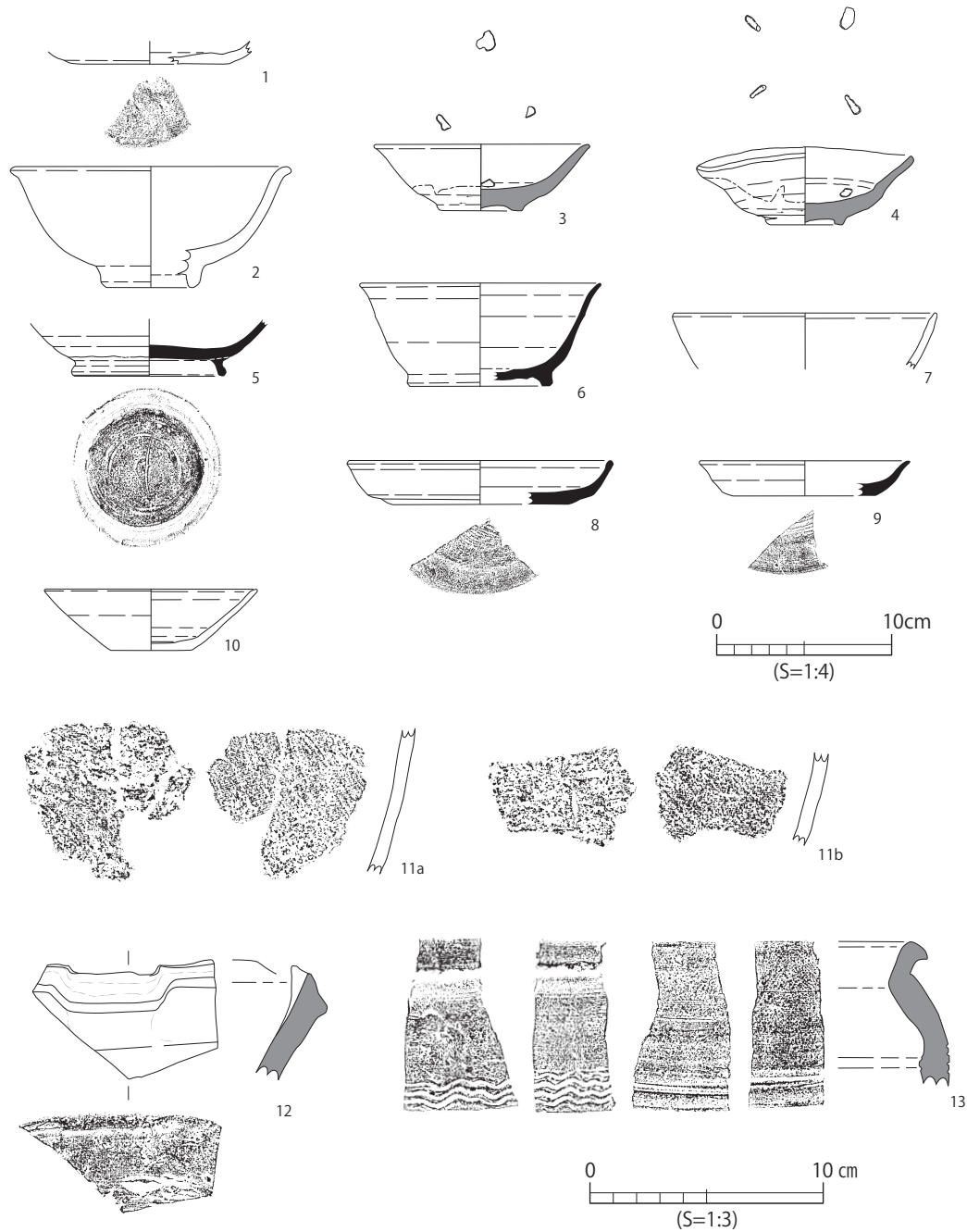
出土遺物のうち、土器は遺構出土と遺構外出土に大別して記述した。その他の石器・石製品、瓦・土製品、鉄器・鉄製品は量が少ないのでまとめて記述した。

#### 遺構出土土器 (第 16 図 1 ～ 13)

溝 172 (1、2) 1 は土師器の坏底部。底面は摩滅により糸切りがかるうじてわかる。2 は青磁碗。器形がわかる。龍泉窯系青磁 D 類の端反り碗に相当し、15 世紀代と考えられる。

土坑 110 (3、4) 3、4 ともに肥前系陶器の皿である。ほぼ完形でよく似た器形や寸法である。3 は見込みに 3 か所の胎土目がある。4 は口縁部が波を打ち水平ではない。見込みに 4 か所の胎土目がある。九陶 I-2 期 (1594-1610 年) に相当すると考えられる (九州近世陶磁学会編 2000)。

土坑 147 (5) 5 は須恵器の高台付坏である。高台部が完存する。高台は斜め下方向に短く延



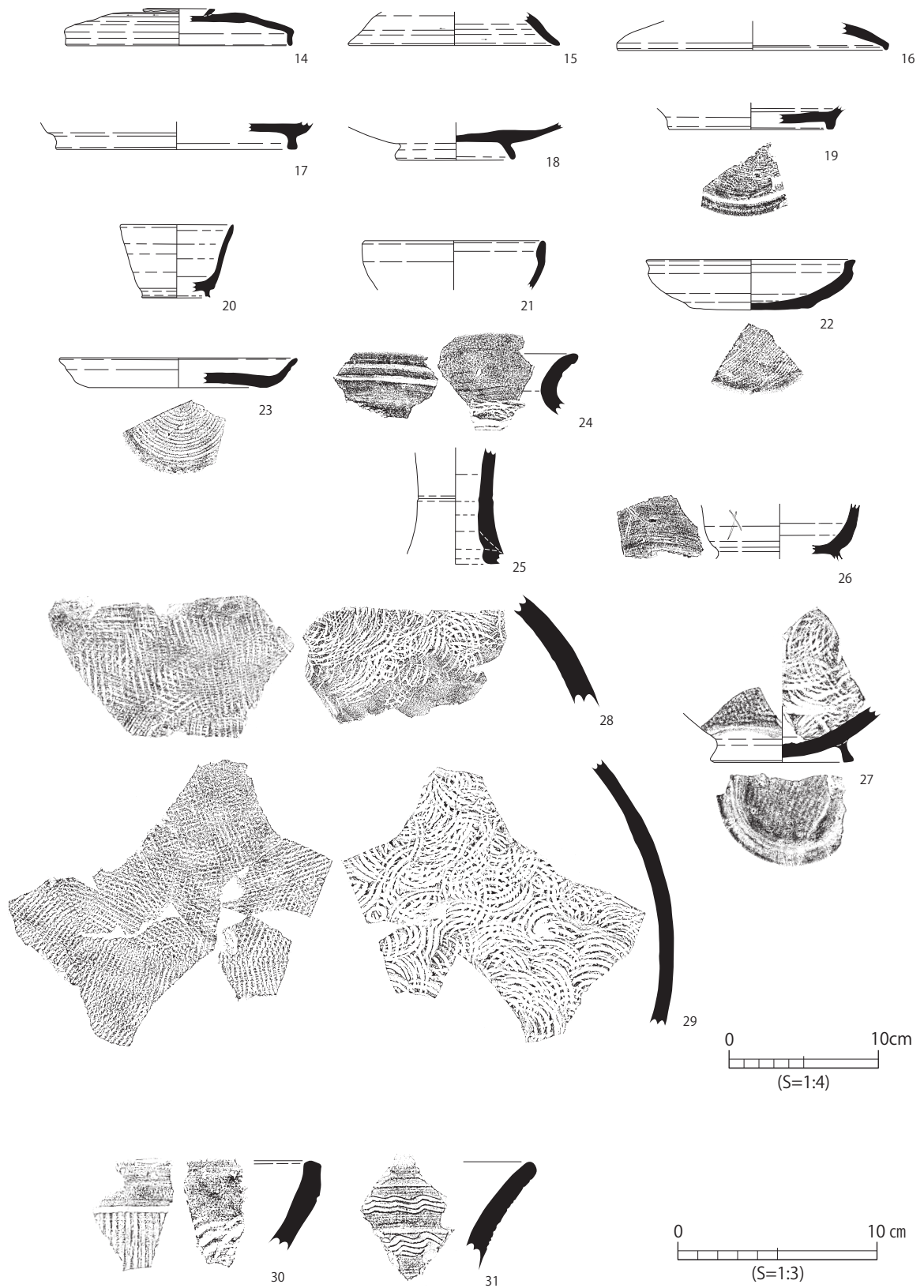
1.2 : 溝 172、3.4 : 土坑 110、5 : 土坑 147、6 : P186、7 : P064、8 : P037、9 : P052.055、  
10 : P188、11 : P136、12 : P136、13 : P207

第 16 図 遺構出土土器 (1~10 : S=1/4、11~13 : S=1/3)

び、端部は丸みを帯びる。底部には線状のへら痕がある。坏 IIA2 型式に相当すると考えられる（岡田ほか 2010）。

**その他の遺構**（6～13）ピット出土土器のうち図示できるものを掲載した。6 は須恵器の高台付坏である。焼成は軟質で摩滅している。胴部は斜め上方向に延び、端部は外反する。高台は短い。7 は土師器の坏である。8、9 は須恵器の皿である。8 の底部は高台状に作り出す。底部は糸切りである。10 は土師器の坏である。胴部は直線的に口縁部へ延びる。接合により歪んでいる。





第17図 遺構外出土土器 1(14~29 : S=1/4、30、31 : S=1/3)

11 は縄文土器の深鉢である。同一個体と考えられるが接合しない。外面の調整はケズリである。12 は備前焼の播鉢である。端部の拡張が弱い特徴から重根 IVB-1 期（15 世紀前半代）に相当すると思われる（重根 2003）。13 は備前焼の壺である。肩部に波状文がある。

#### 遺構外出土土器（第 17 図 14～第 18 図 51）

遺構外出土土器は、須恵器、土師器、陶器の順で記述する。なお、溝や江戸時代の土坑、井戸から出土した土器のうち、直接遺構の時期を示さないものもこの項目で記述する。

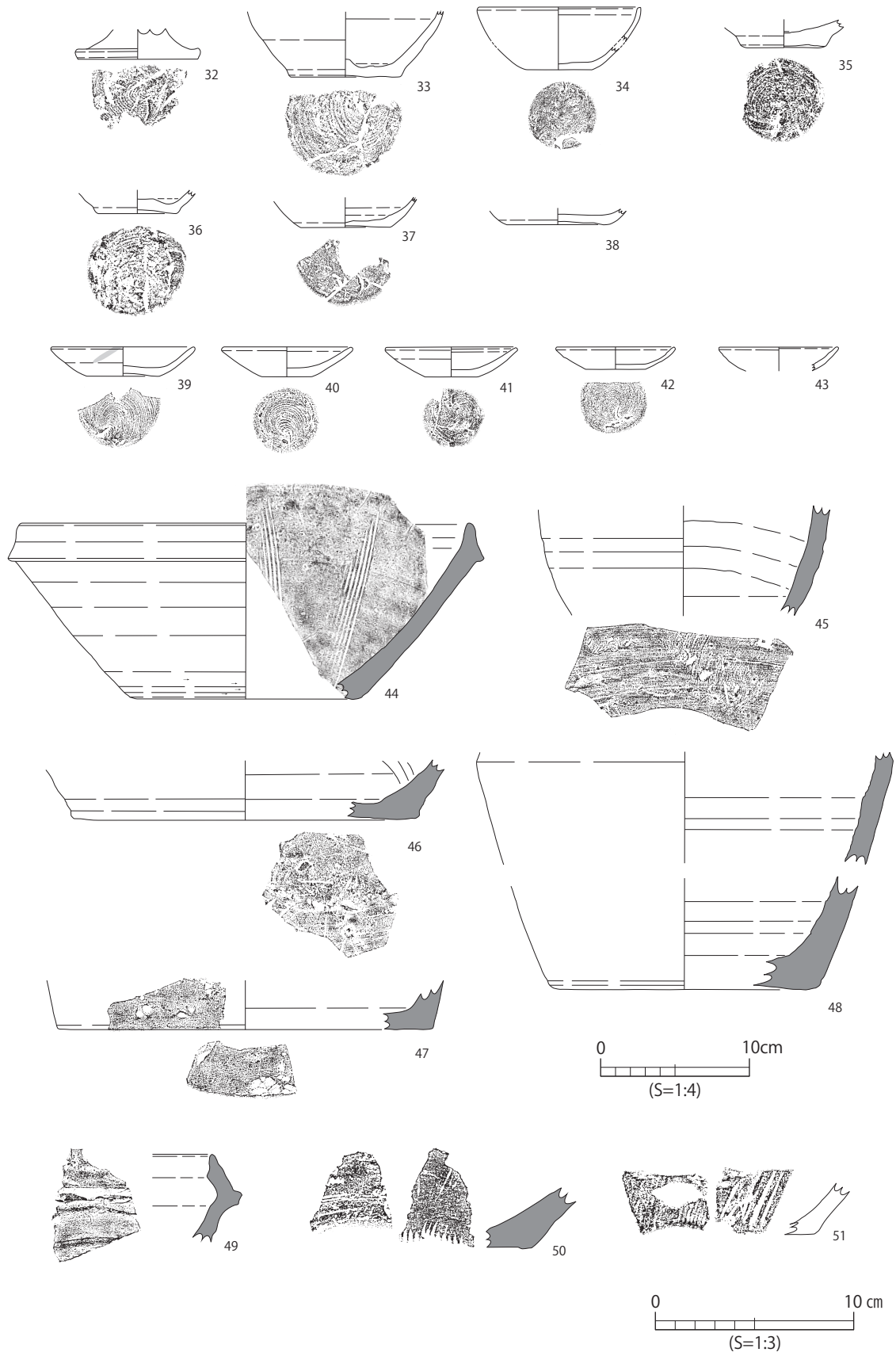
**須恵器**（14～31） 14～16 は蓋である。14 の輪状つまみの端部には面がある。胴部から垂下して口縁部にいたる。蓋 IICI 類に相当すると考えられる。15、16 は口縁部のみ残る。15 の端部は丸い。16 はわずかに下方へ肥厚する。17～19 は高台付坏である。高台部のみ残る。17 はしっかりとした高台部がある。18 はやや細い高台が斜めに伸びる。焼成は軟質である。19 は短い高台部がある。20 は小型の鉢である。胴部は直線的で、高台付坏の口径を縮小したような形である。21、22 は坏である。21 は口縁端部が肥厚する。22 の器高は低い。底部から曲線的に口縁部に至り、口縁部の下に強いナデがある。底部は静止糸切りである。23 は皿である。皿 IC2 類に相当すると考えられる。24～28 は壺である。24 は口縁部が短く外反する。口縁部外面には二条の沈線状の凹みがある。25 は長頸壺の頸部である。外面に浅い一条の沈線がある。26、27 は底部である。26 の外面には「×」印状のヘラによる刻みがある。27 は底部にもタタキの痕がある。28 は壺の肩部と想定した。外面にはカキメがある。29、31 は甕である。29 は外面にカキメがある。31 は口縁部で、沈線の間には波状文がある。甕はこれ以外にも出土したが、破片であり上下を判別して図示できるものはなかった。30 は鉢である。口縁部の下に一条の沈線がある。

須恵器は出雲 II～III 期に相当するものが多い。なお、出土した須恵器は破片の角が摩滅しているものが多く、攪乱を受けていることが示唆される。

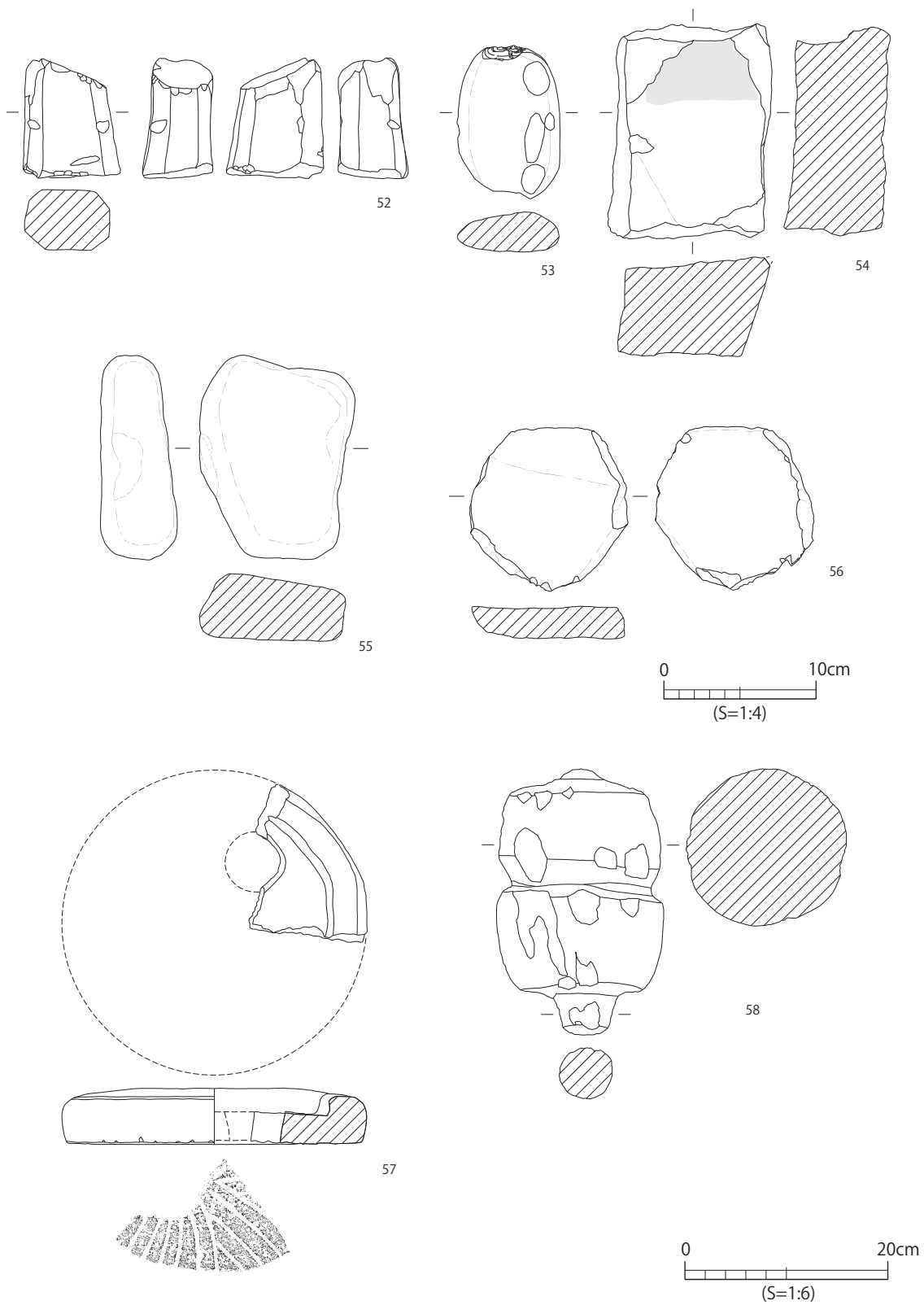
**土師器**（32～43、51） 32 は柱状高台付皿である。高台部のみ残る。胎土はきめ細かい。平安時代末～鎌倉時代に属する。33～38 は坏である。底部のみのものは底径から坏と判断した。33 は見込み部分が凸状に盛り上がる。34 は図上で器形を復元した。37 は底部を丁寧にナデ調整しており、糸切り痕は見えない。39～43 は皿である。底部からわずかに屈曲して口縁部に至る。口径 8cm 前後、器高 2cm 前後、底径 4cm 前後である。坏や皿は鎌倉～室町時代に相当するものが多い。51 は土師器の播鉢である。このほか、甕が出土しているが胴部片が多く、図示できるものはなかった。

**陶器**（44～50） 44、49、50 は播鉢である。44 は全体の器形がわかる。口縁部は上方へ拡張し、内面には七条の播目がある。胴部外面には重ね焼きの痕がある。重根編年 IVB-2 期に相当すると判断した。49 は口縁部が斜め上方へ延び、口縁部下の稜が突出する。口縁部外面には二条の沈線がある。口縁部のみではあるが、乗岡近世 1 期（岡山市教育委員会編 2002）に相当すると判断した。50 は底部の破片である。内面はよく使用されており、播目が摩滅している。45～48 は壺である。このうち 46～48 は大型の壺に復元できる。

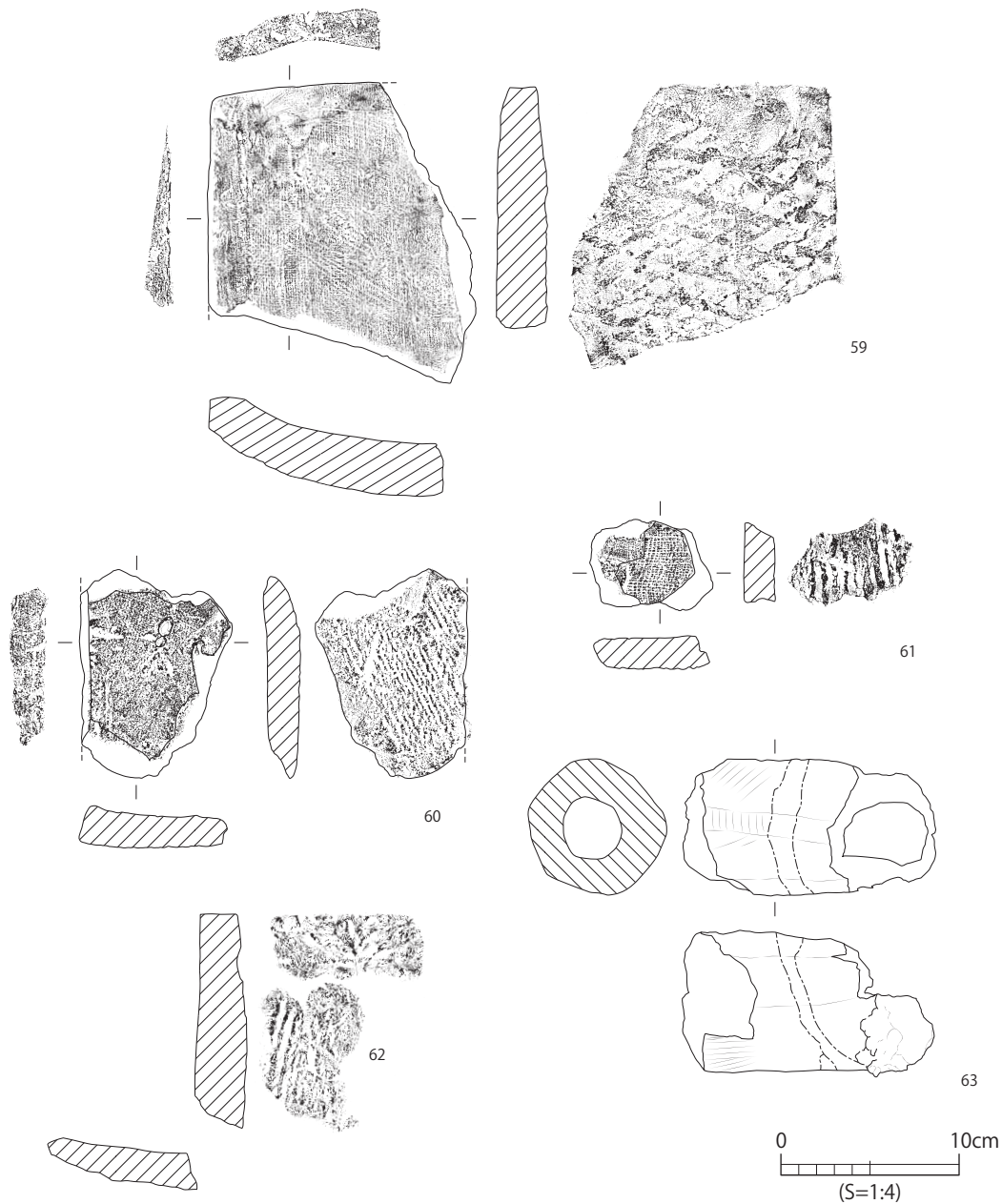
#### 石器・石製品（第 19 図 52～58）



第18図 遺構外出土土器 2(32~48 : S=1/4、49~51 : S=1/3)



第19図 石器・石製品 (52~56 : S=1/4、57、58 : S=1/6)

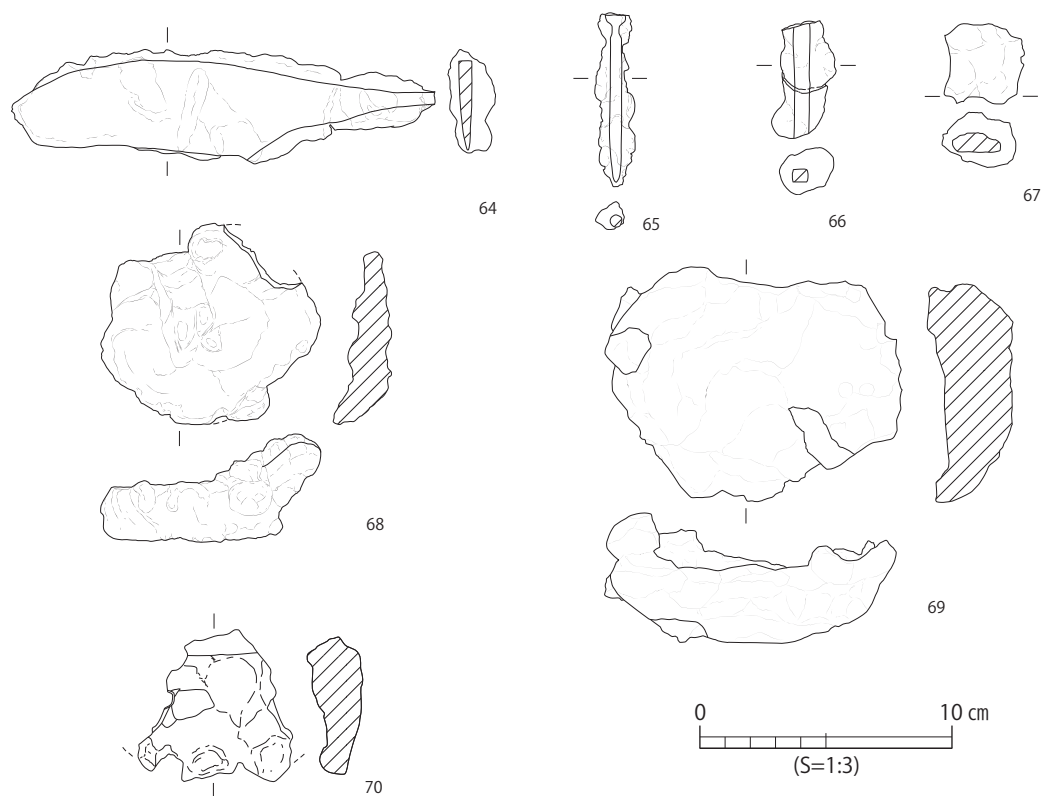


第20図 土製品 (S=1/4)

52は砥石である。断面は八角形であり、いずれの面も砥石として使用している。目はやや粗く、粗砥と考えられる。53は上下にわずかに打ち欠きがあることから石錘と判断した。54はピットの中から出土した。直方体の角礫であり、一部に被熱痕がある。55は両面が平滑である。56は楕円形である。両面に使用したような磨り面がある。端部も角が丸くなっている。57は石臼の上臼である。「ものくばり」から端部まで全体の1/8程度残っており、直径約30cmに復元した。器高はやや低い。八区画に復元できる。58は五輪塔の空風輪である。

瓦・土製品 (第20図59～63)

59～62は平瓦である。いずれも凸面にタタキ、凹面に布目圧痕がある。59はこのうち最も破



第21図 鉄器・鉄製品 (S=1/3)

片が大きいものである。凸面は格子タタキである。菱形の格子であり、出雲国府跡の平瓦タタキ分類の「格子タタキ 15」に相当すると考えられる（島根県教育委員会編 2019b、98頁）。内面の布目圧痕の端に指紋がついている。60～62は凸面が縄タタキである。62の凹面は遺存状態が悪く、拓本をとることができなかった。焼成は59が最も良く須恵質、61は灰白色でやや軟質、60、62は土師器のように軟質である。63は轡の羽口である。図面の右が還元して滓化しており、羽口の先端と考えられる。断面は多角形である。

**鉄器・鉄製品**（第21図64～70）

64～67は鉄器である。錆が進んでいる。64は刀子と考えられる。65、66は鉄釘の破片である。67の器種は不明である。68～70は鉄滓である。68、69は下面が湾曲しており、椀形滓と判断した。70は鍛冶滓である。出土したグリッドは異なるが、羽口も出土していることから、時期は不明であるが調査地点の周辺で鍛冶関係の作業を行っていたことがうかがわれる。

この他、F3グリッドから獣骨の大腿骨、脛骨、背骨が出土した。大きさからタヌキの若い個体と考えられる。

## 第4章 総括

### 第1節 遺構

#### 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は3棟確認した。いずれも長軸がほぼ南北方向を指向した建物である。大庭地区の黒田館跡、大庭原ノ前遺跡、山代郷正倉跡、山代沖田遺跡、市場遺跡の掘立柱建物は方位よりも地形や区画を意識しているようである。一方外屋敷遺跡、黒田畦遺跡、黒田畦遺跡土居地区、同神主屋敷地区の掘立柱建物は方位を指向したと考えられる。下黒田Ⅱ遺跡より北東に位置する茶白山に近い遺跡では地形や区画を意識し、下黒田Ⅱ遺跡より西の遺跡では方位を意識した掘立柱建物が多い傾向がある。

掘立柱建物跡1は、梁行きが1間で梁間が長いことが特徴である。大庭地区では外屋敷遺跡SB01、SB02、小無田遺跡SB01、大庭小原遺跡SB01が似た柱穴配置である。時期は平安時代後期から江戸時代後期まで及ぶため、この特徴で時代・時期を特定することは難しい。

#### 溝

溝は3条確認した。このうち溝225は断面が逆台形、溝172は浅いU字形である。これらの溝は陸橋部があること、東側がやや高く柱穴と考えられるピットが多いことから、溝の東側に集落があると考えられる。

大庭地区ではこのほか黒田館跡、下黒田遺跡、川原宮Ⅲ遺跡で溝が見つかった。黒田館跡SD01、SD02は室町時代の溝で断面がV字形、下黒田遺跡SD03、SD05は江戸時代にまで下る溝で断面U字形、川原宮Ⅲ遺跡SD04は室町時代の溝で断面逆台形で「L」字状に折れ曲がる。外屋敷遺跡SD02、SD03は平安時代後半から鎌倉時代、SD04、SD05が鎌倉時代から室町時代前半の溝でいずれも断面浅いU字形である。これらの溝のうち、黒田館跡、下黒田遺跡、川原宮Ⅲ遺跡の溝は屋敷地の区画を目的とした溝であることがわかっており、今回確認した溝も区画のための溝と考えられる。

#### 土坑

下黒田Ⅱ遺跡土坑110では、長方形のやや深い土坑から陶器の皿2点が出土した。近隣の遺跡では同様の遺構が2例確認されている(第22図)。下黒田Ⅱ遺跡の南に位置する黒田畦遺跡の西調査区の北西隅で確認したSK25は、上面の形態は長方形で、長さ1.7m、幅1.4m、深さ0.5mである。埋土の記載はない。遺構の中央と南西隅において、床面から浮いて唐津系の碗と皿が1点ずつ出土した。時期は16世紀末と報告されている(松江市教育委員会ほか編1995)。また、下黒田Ⅱ遺跡の北西に位置する外屋敷遺跡の調査区の北側で確認したSK08は、上面の形態は隅丸長方形で、長さ1.2m、幅0.4m、深さ0.4mである。埋土は「黒色土と黄褐色地山のブロックの斑の単層」との記載がある。遺構の底面から、肥前系陶器の皿が出土した。17世紀前半(1610~50年代:九陶編年Ⅱ期)と報告されている(松江市教育委員会ほか編2016)。

これらの遺構は下黒田Ⅱ遺跡土坑110と、①平面形は長方形か隅丸長方形であること、②16世紀末~17世紀前半の陶器が伴うこと、の2点で共通点があり、同様の性格であることが示唆さ

れる。

なお、黒田畦遺跡ではSX01～06の6基の遺構が確認されている。これらの遺構は平面形が長方形で、土師器の皿が副葬されている。このうちSX01と02では鉄釘が棺の形状に沿って並んで出土している。また、銭貨が副葬されている。これらの遺構は土葬墓と考えられ、16世紀後半～17世紀前半と考えられている（松江市教育委員会ほか編1995、岩橋2019）。これらの土葬墓は、①鉄釘が出土し、木棺である、②銭貨や土師器を副葬すること、の2点で土坑110と大きく異なり、墓ではあるものの、前述の3つの遺構とは異なる形のものである。

## 第2節 遺物

下黒田Ⅱ遺跡の発掘調査で出土した遺物について、土器を中心に第9表で点数と重量を示した。注記のできる大きさの破片をグリッドごとに計測したものである。遺構内から出土したものに加え、包含層である黒褐色土から出土したものを合わせて計測した。遺構の多いグリッドでは点数や重量が多くなる傾向がある。調査箇所東端であるH4、H5グリッドのほか、E3、G3、G4グリッドでやや出土量が多い。H4、H5グリッドで遺物が多い傾向にあることは、溝と掘立柱建物跡1の位置する調査箇所東側に集落があることをうかがわせる。

下黒田Ⅱ遺跡では奈良・平安時代の遺物は出土したが、遺構を確認することはできなかった。近隣には下黒田遺跡や黒田畦遺跡など、奈良・平安時代の遺跡があることから、今回の調査場所の近隣にこの時代の遺構があったことが示唆される。川原宮Ⅲ遺跡では奈良・平安時代の遺構は検出されず、若干の遺物が出土した程度であることから、奈良・平安時代の遺跡は主に台地上に展開していたことがうかがえる。出土した土器では、須恵器は出雲Ⅱ～Ⅲ期、土師器の坏や皿、陶器では鎌倉時代～室町時代に相当するものが多い。

下黒田Ⅱ遺跡の溝172、溝225と川原宮Ⅲ遺跡SD04は約50m離れている。この距離は黒田館跡と下黒田遺跡の距離と同程度であることから、室町時代の庭地区の段丘上には、溝で区画した遺跡が50m前後の間隔をおいて位置していたことがうかがえる。区画された遺跡の間は田畑が想定できるが、田畑の他に掘立柱建物や土坑もあったと考えられる。今回の下黒田Ⅱ遺跡の発掘調査により、室町時代を中心とした時期の庭地区の様子がより明らかになったといえる。

### 【参考文献】

(報告書)

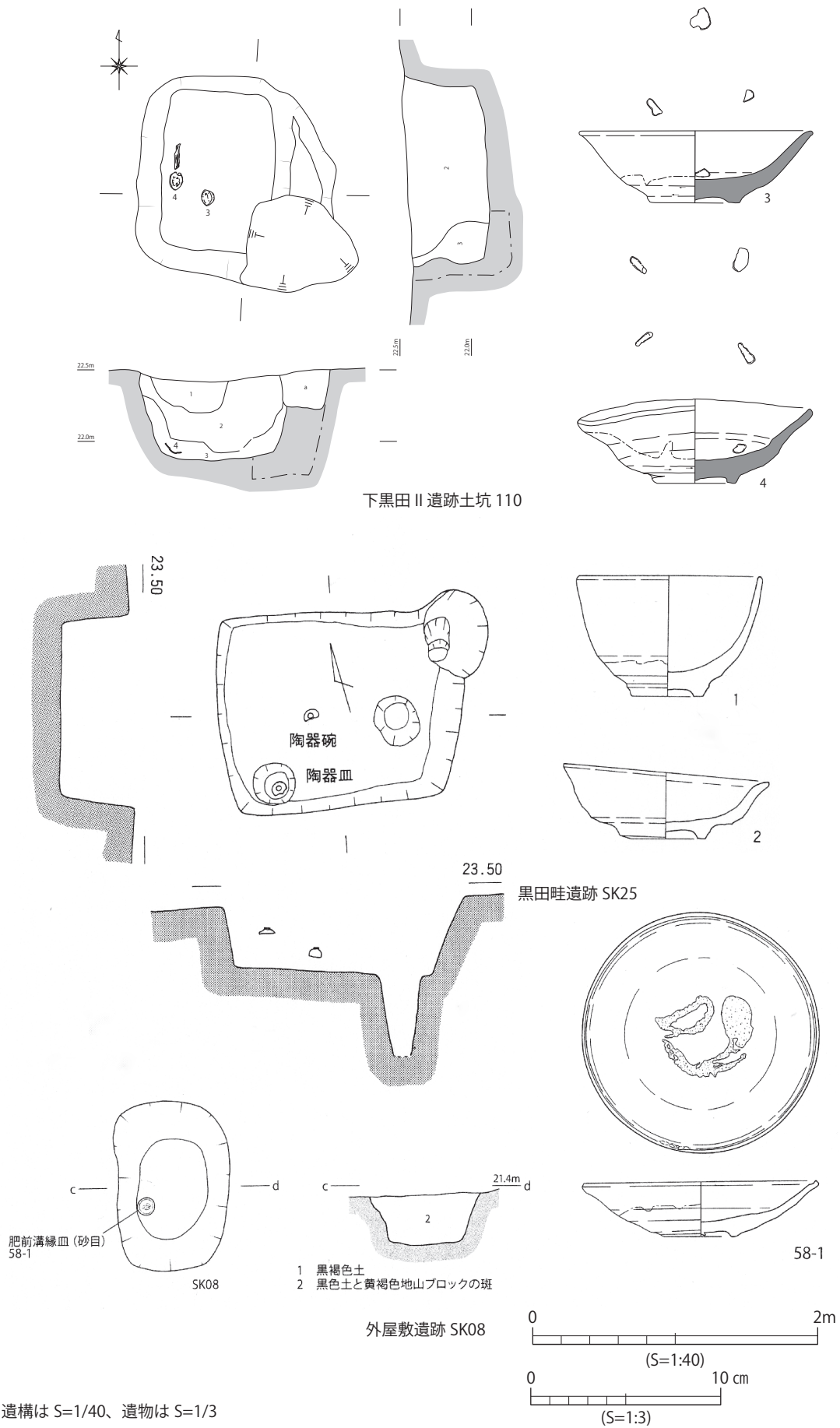
島根県教育委員会編1981『史跡出雲国山代郷正倉跡』、島根県教育委員会

島根県教育委員会編1982『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅰ-松江市大庭町黒田畦字土居・字神主屋敷所在遺跡-』、島根県教育委員会

島根県教育委員会編1984『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅲ-小無田遺跡-』、島根県教育委員会

島根県教育委員会編1990『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書Ⅶ-茶臼山城跡・市場遺跡・内堀石塔群-』、





第22図 下黒田II遺跡土坑 110 と類例

#### 第4章 総括

##### 島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2019a 『川原宮 III 遺跡』国道 432 号大庭バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2、島根県教育委員会

島根県教育委員会編 2019b 『史跡出雲国府跡 -10-』、風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書 25、島根県教育委員会

松江市教育委員会編 1984 『黒田館跡』、松江市教育委員会

松江市教育委員会編 1988 『下黒田遺跡発掘調査報告書』、松江市教育委員会

松江市教育委員会・財団法人松江市教育文化振興事業団編 1995 『黒田畦遺跡発掘調査報告書』松江市文化財調査報告書第 65 集、松江市教育委員会

松江市教育委員会・公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団編 2012 『山代沖田遺跡』茶臼山団地開発に伴う発掘調査報告書、松江市文化財調査報告書第 151 集、松江市教育委員会

松江市教育委員会・公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団編 2014a 『柳堀遺跡 大庭原ノ前遺跡』松江市宇竜谷土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書、松江市文化財調査報告書第 158 集、松江市教育委員会

松江市教育委員会・公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団編 2014b 『大庭小原遺跡』小原団地造成工事に伴う発掘調査報告書、松江市文化財調査報告書第 160 集、松江市教育委員会

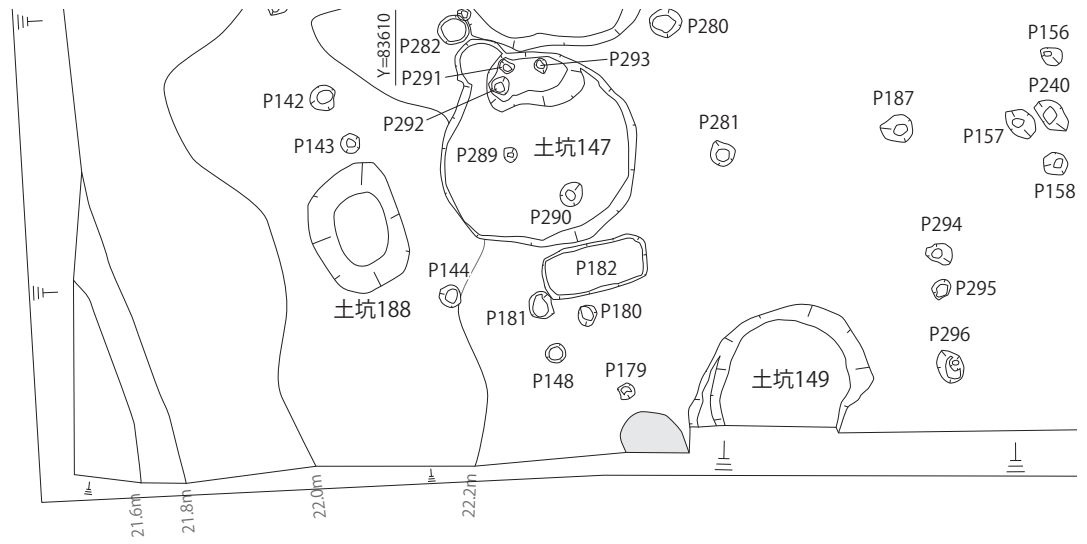
松江市教育委員会・公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団編 2016 『外屋敷遺跡』大庭センターハイム宅地造成工事に伴う発掘調査報告書、松江市文化財調査報告書第 177 集、松江市教育委員会

(論文など)

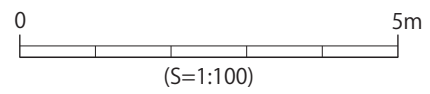
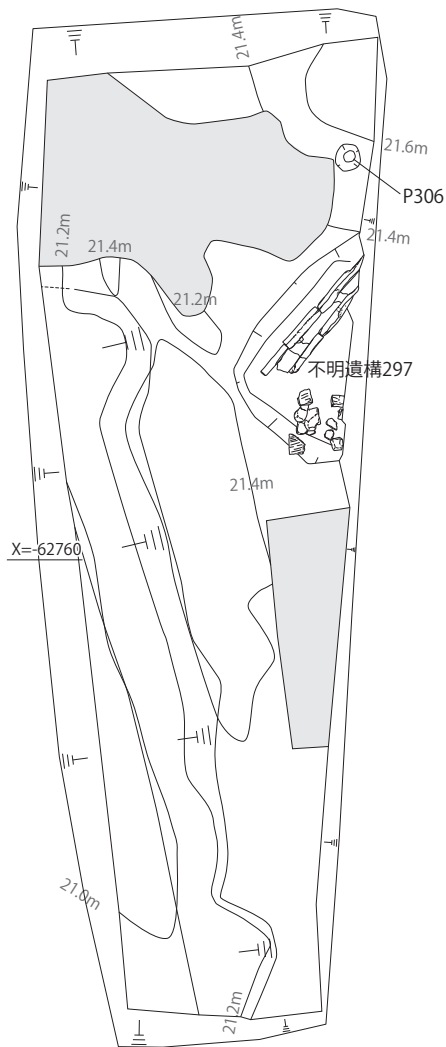
九州近世陶磁会編 2000 『九州陶磁の編年』

岩橋康子 2010 「出雲平野における土葬墓の様相 - 中世末～近世前半を中心として」『古代文化研究』18、島根県古代文化センター、43-64

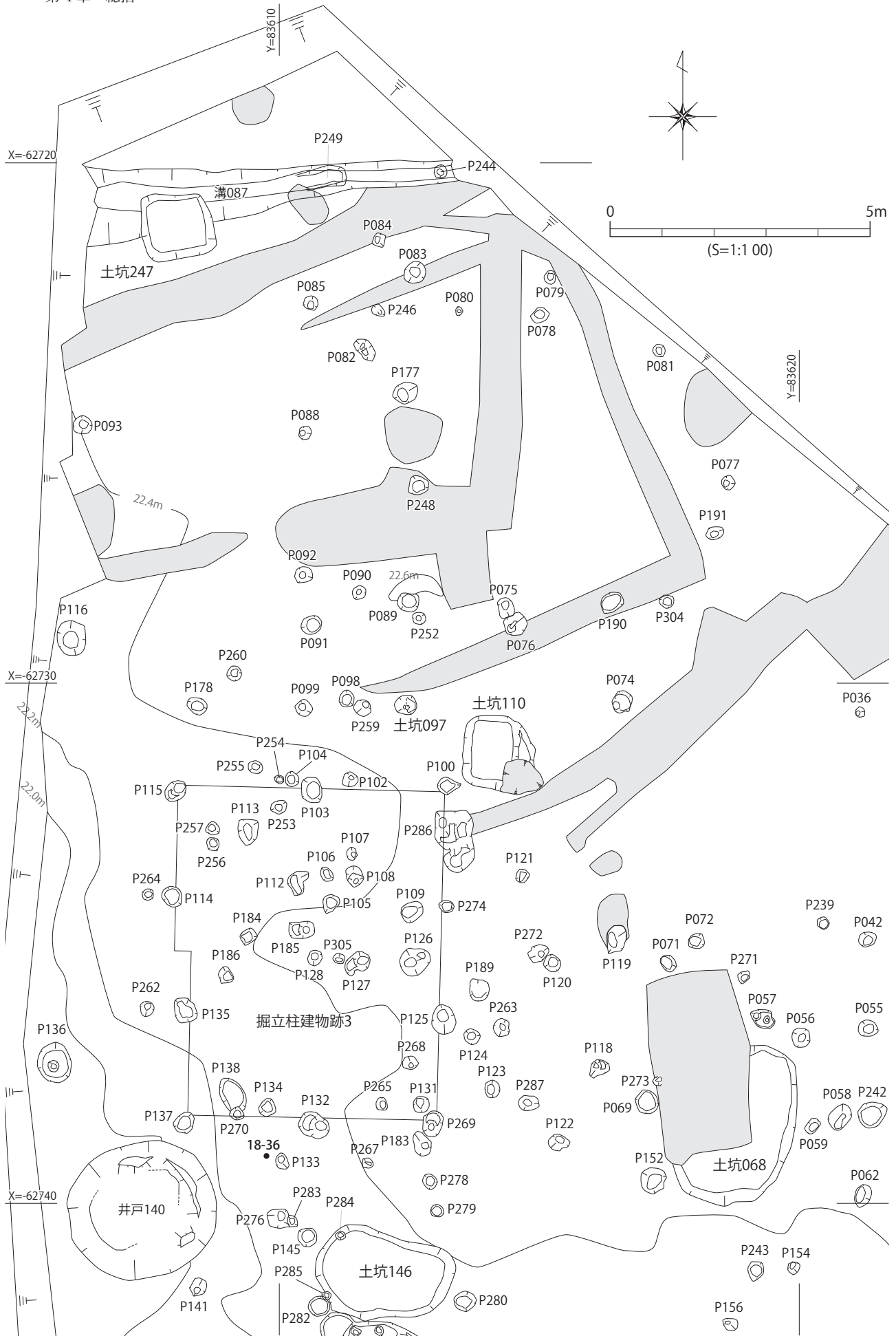
岩橋康子 2019 「松江市内の中世後半～近世初頭の墓制の様相 - 松江市内の土葬墓を中心に、出雲市内の事例との比較を通して -」『論集 葬送・墓・石塔』狭川真一さん還暦記念会、263-270



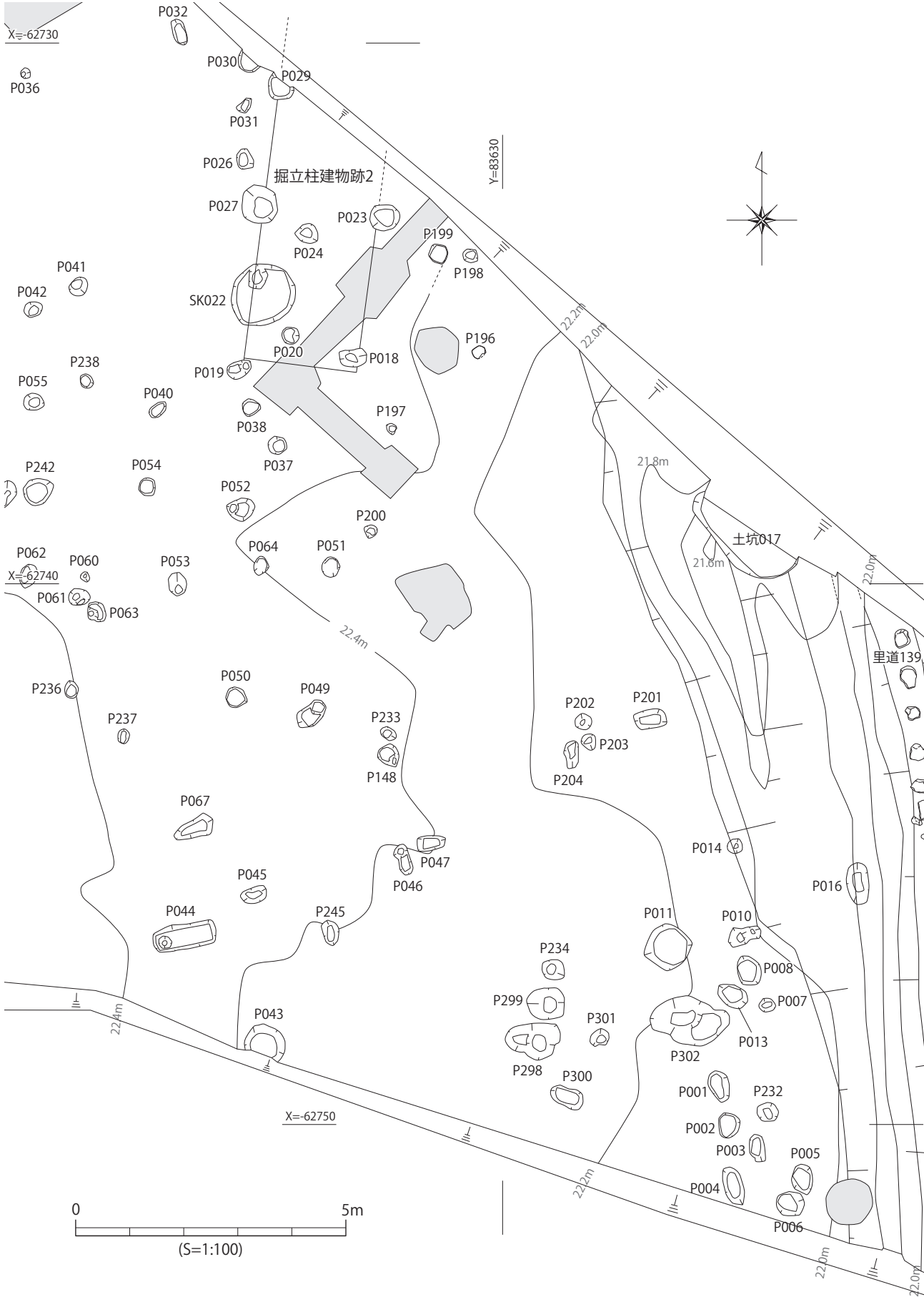
X=62750



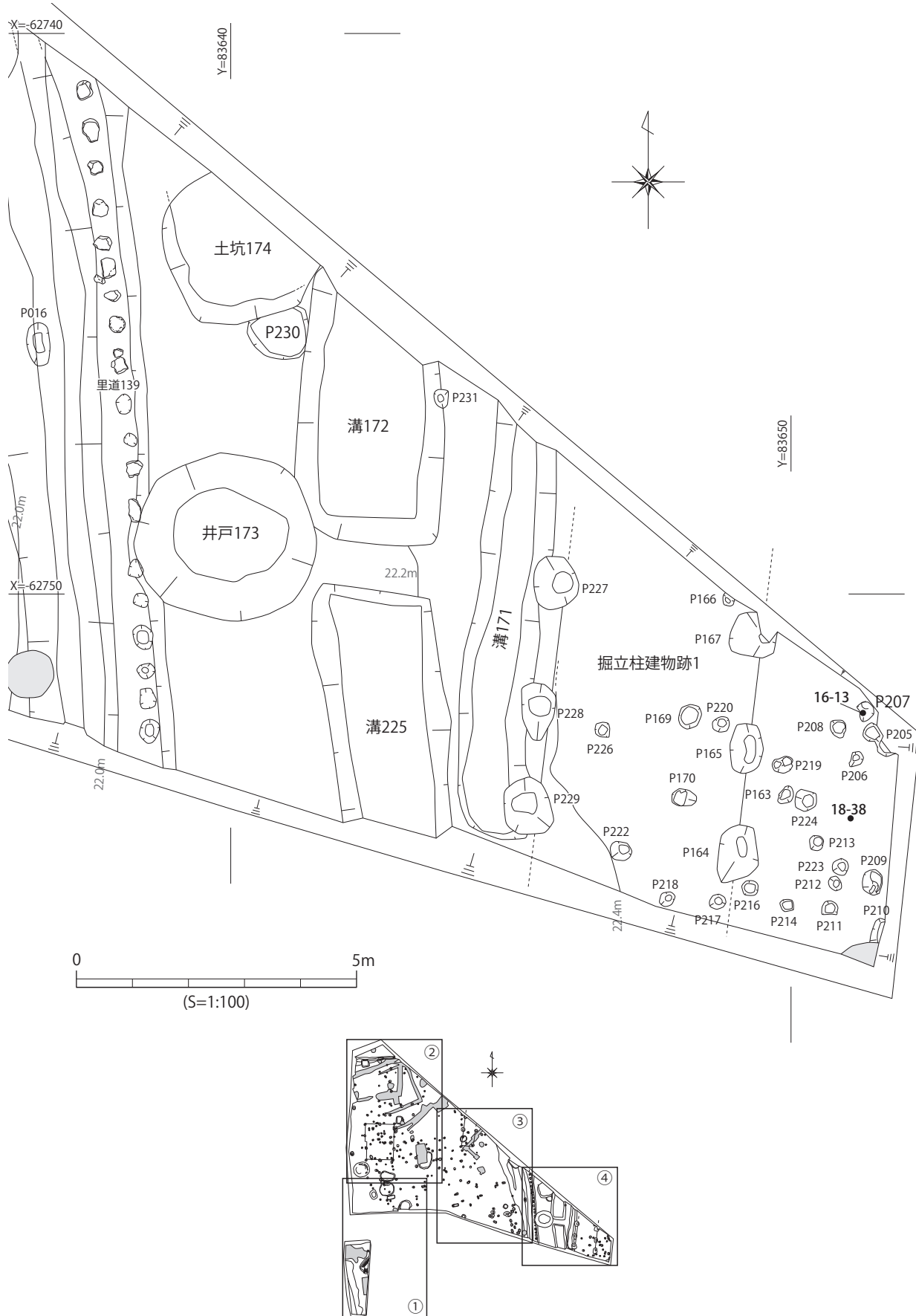
第23図 下黒田II遺跡平面図1



第24図 下黒田II遺跡平面図2



第 25 図 下黒田Ⅱ遺跡平面図 3



第26図 下黒田Ⅱ遺跡平面図4

第2表 遺構一覧表

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	底面の 標高	遺物	埋土	備考
P 001	G4	0.60	0.38	21.88		10YR5/2	
P 002	G4・G5	0.45	0.35	21.90		10YR4/4	
P 003	G5	0.52	0.30	21.86		10YR5/2	
P 004	G5	0.77	0.34	21.83		7.5YR4/4	
P 005	G5	0.56	0.41	21.78	剥片	7.5YR5/4	
P 006	G5	0.53	0.45	21.84		10YR4/4	
P 007	G4	0.30	0.28	21.98		欠	
P 008	G4	0.54	0.42	21.76		10YR5/4	
欠番 009	-				須恵器		
P 010	G4	0.62	0.25	21.91	須恵器	10YR5/2	
P 011	G4	0.95	0.89	21.72	須恵器、磁器	10YR6/3	
欠番 012	-						
P 013	G4	0.64	0.40	21.85		10YR6/4	
P 014	G4	0.31	0.30	21.84		10YR6/2	軟質
欠番 015	-						
P 016	G4	0.82	0.43	21.64		10YR6/2	軟質
土坑 017	G3						近世以降
P 018							建物2
P 019							建物2
P 020	F3	0.34	0.32	22.22		10YR3/2	
欠番 021	-						
SK 022	F3	1.23	1.14	22.02		7.5YR3/4	
P 023							建物2
P 024	F3	0.42	0.37	22.36		10YR4/4	
欠番 025	-						
P 026	F3	0.38	0.35	22.04		10YR3/3	細かいブロック含む
P 027							建物2
欠番 028	-						
P 029							建物2
P 030	F3	0.58 (0.38)		22.37		10YR3/1	
P 031	F3	0.37	0.20	22.37		10YR4/4	
P 032	F2	0.50	0.25	22.29		10YR3/1	
欠番 033	-						
欠番 034	-						
欠番 035	-						
P 036	F3	0.22	0.20	22.13	土師器、須恵器	7.5YR3/2	細かいブロック含む
P 037	F3	0.35	0.35	22.21	須恵器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 038	F3	0.33	0.29	22.37		10YR4/4	
欠番 039	-						
P 040	F3	0.40	0.21	22.25		10YR4/4	
P 041	F3	0.38	0.32	21.69		10YR5/6	細かいブロック含む
P 042	F3	0.38	0.28	22.30		欠	
P 043	F4	0.77 (0.6)		22.02		10YR3/3	細かいブロックと炭含む
P 044	F4	1.17	0.42	21.94	須恵器	10YR4/4	細かいブロック含む、中の Pit10YR3/1
P 045	F4	0.50	0.26	22.26	須恵器、陶器	7.5YR3/4	
P 046	F4	0.60	0.29	22.08		10YR3/3	
P 047	F4	0.51	0.27	22.17		欠	
P 048	F4	0.40	0.37	22.29		欠	
P 049	F4	0.61	0.29	22.28		欠	
P 050	F4	0.38	0.38	22.33		10YR4/2	
P 051	F3	0.37	0.33	22.29		欠	
P 052	F3	0.50	0.28	22.07	須恵器	10YR3/2	
P 053	F3・F4	0.43	0.33	21.87		10YR3/3	
P 054	F3	0.32	0.31	22.30		10YR4/4	
P 055	F3	0.38	0.31	22.22	須恵器	10YR2/2	
P 056	EF3	0.37	0.32	22.16		7.5YR3/3	
P 057	E3	0.50	0.35	22.25		10YR3/1	
P 058	F3	0.54	0.39	22.08	土師器	10YR3/3	
P 059	F3	0.33	0.21	22.25		7.5YR3/3	
P 060	F3	0.21	0.18	22.12		10YR3/3	

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	底面の 標高	遺物	埋土	備考
P 061	F4	0.40	0.34	21.88	土師器、須恵器	10YR3/3	
P 062	F3・F4	0.47	0.33	22.17	土師器	10YR2/2	
P 063	F4	0.41	0.35	21.92		10YR3/3	
P 064	F3	0.34	0.26	22.33	土師器	10YR3/3	
P 065	F4						P44 と同一
P 066	F4						P44 と同一
P 067	F4	0.76	0.27	22.28		欠	
土坑 068	E3	遺構計測表参照					
P 069	E3	0.43	0.41	22.26	磁器	10YR3/1	
欠番 070	-						
P 071	E3	0.34	0.26	22.25		欠	
P 072	E3	0.28	0.27	22.14		10YR3/3	細かいブロック含む
欠番 073	-						
P 074	E3	0.41	0.38	22.08	土師器	10YR3/1	細かいブロック含む、底に石
P 075	E2	(0.38)	0.30	22.32		7.5YR4/4	細かいブロック含む
P 076	E2	0.46	0.40	21.91		10YR4/4	細かいブロック含む
P 077	E2	0.27	0.26	21.65		10YR3/1	
P 078	E2	0.30	0.26	22.41		10YR3/3	
P 079	E2	0.25	0.25	22.42		10YR4/4	細かいブロック含む
P 080	E2	0.15	0.11	22.37		欠	
P 081	E2	0.26	0.21	22.28		欠	
P 082	E2	0.48	0.24	21.97		7.5YR3/4	
P 083	E2	0.42	0.41	21.94		7.5YR3/4	
P 084	E2	0.22	0.21	22.10		10YR3/1	
P 085	E2	0.26	0.26	22.06		7.5YR4/4	
欠番 086	-						
溝 087	D2・E2						近世以降
P 088	E2	0.26	0.24	21.91		7.5YR3/4	
P 089	E2	0.43	0.40	22.17		7.5YR3/3	
P 090	E2	0.27	0.25	22.09	須恵器	10YR3/1	細かいブロック含む
P 091	E2	0.40	0.35	22.12		10YR3/3	細かいブロック含む、P258 と同一
P 092	E2	0.34	0.29	21.72	土師器	7.5YR3/4	細かいブロック含む
P 093	D2	0.40	0.34	21.87	須恵器	10YR6/6	細かいブロック含む
欠番 094	-						
欠番 095	-						
欠番 096	-						
土坑 097	E3	遺構計測表参照					
P 098	E3	0.30	0.28	22.19		10YR6/6	細かいブロック含む
P 099	E3	0.33	0.31	21.76		10YR3/3	細かいブロック含む
P 100						10YR3/3	建物3
欠番 101	-						
P 102	E3	0.29	0.27	22.04		7.5YR3/3	
P 103	E3					10YR3/3	建物3、細かいブロック含む
P 104	E3	0.30	0.24	22.02		10YR3/1	
P 105	E3	0.38	0.30	22.23		欠	
P 106	E3	0.29	0.21	22.20		7.5YR3/3	
P 107	E3	0.24	0.18	22.04		10YR3/3	細かいブロック含む
P 108	E3	0.31	0.30	22.14		欠	
P 109	E3	0.42	0.35	22.13	須恵器、磁器	10YR3/3	
土坑 110	E3	遺構計測表参照			陶器		
欠番 111	-						擾乱
P 112	E3	0.46	0.40	22.06		7.5YR3/3	細かいブロック含む
P 113	D3	0.46	0.42	22.04		10YR3/1	
P 114						7.5YR3/3	建物3
P 115						7.5YR3/4	建物3、細かいブロック含む
P 116	D2	0.68	0.54	21.82	陶器	10YR4/4	細かいブロック含む
欠番 117	-						
P 118	E3	0.42	0.30	22.06		10YR3/3	細かいブロック含む
P 119	E3	0.55	0.42	22.35		10YR3/1	
P 120	E3	(0.34)	0.27	22.09	須恵器	7.5YR3/3	

第2表 遺構一覧表

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	底面の標高	遺物	埋土	備考
P 121	E3	0.25	0.21	22.28		10YR3/1	
P 122	E3	0.41	0.30	21.74		10YR4/4	
P 123	E3	0.32	0.28	22.18	須恵器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 124	E3	0.30	0.29	22.24		7.5YR3/3	細かいブロック含む
P 125						10YR3/1	建物3
P 126	E3	0.61	0.50	21.88	須恵器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 127	E3	0.55	0.35	22.04	須恵器	7.5YR3/3	
P 128	E3	0.28	0.26	21.93		10YR3/3	細かいブロック含む
欠番 129	-						
欠番 130	-						
P 131	E3	0.34	0.31	21.98	土師器、須恵器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 132					須恵器	10YR3/3	建物3、細かいブロック含む
P 133	D3・E3	0.32	0.26	21.91	土師器	10YR3/3	
P 134	D3	0.35	0.30	22.13		7.5YR4/3	細かいブロック含む
P 135							建物3
P 136	D3	0.76	0.64	21.26	縄文土器、陶器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 137					須恵器	10YR3/3	建物3、細かいブロック含む
P 138	D3	(0.7)	0.47	22.13	PNa1(陶器)	7.5YR5/3	写真あり
里道 139	G4・G5						近世以降
井戸 140	D3・D4						近世以降
P 141	D4	0.33	0.30	21.48	須恵器	10YR3/3	
P 142	D4	0.34	0.32	22.00	須恵器	10YR3/3	
P 143	D4	0.26	0.23	21.84		10YR3/3	
P 144	E4	0.28	0.27	21.92	土師器、須恵器	10YR3/3	
P 145	E4	0.36	0.35	22.10		10YR3/1	
土坑 146	E4	遺構計測表参照					
土坑 147	E4	遺構計測表参照			須恵器		
P 148	E4	0.26	0.25	22.16		10YR3/3	
土坑 149	E4						近世以降
欠番 150	-						
欠番 151	-						
P 152	E3	0.49	0.48	22.24		10YR3/1	細かいブロック含む
欠番 153	-						
P 154	E4	0.25	0.22	22.10		10YR4/4	細かいブロック含む
欠番 155	-						
P 156	E4	0.28	0.25	21.99		7.5YR4/4	
P 157	E4	0.44	0.32	22.09		7.5YR4/4	
P 158	E4	0.32	0.30	22.05		10YR4/4	
欠番 159	-						
欠番 160	-						
欠番 161	-						
欠番 162	-						
P 163	H5	0.32	0.25	22.30		欠	
P 164					須恵器、土師器、陶器		建物1
P 165					須恵器、陶器		建物1
P 166	H5	0.24	(0.17)	22.40		10YR3/2	
P 167					須恵器		建物1
欠番 168	-						
P 169	H5	0.42	0.37	22.29		10YR3/2	
P 170	H5	0.43	0.34	22.33		10YR2/2	
溝 171	H4・H5	遺構計測表参照			土師器、須恵器、陶器、青磁		
溝 172	H4・H5	遺構計測表参照			土師器、須恵器、青磁		
井戸 173	G4・H4						近世以降
土坑 174	G4・H4						近世以降
欠番 175	-						
欠番 176	-						
P 177	E2	0.49	0.40	22.13		7.5YR3/3	細かいブロック含む

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	底面の標高	遺物	埋土	備考
P 178	D3	0.40	0.28	22.23	土師器	7.5YR3/4	細かいブロック含む
P 179	E4	0.22	0.20	22.05		10YR3/3	
P 180	E4	0.29	0.27	21.97		10YR3/1	
P 181	E4	0.35	0.30	22.13	須恵器、古銭	10YR3/3	
P 182	E4	1.45	0.65	22.13	土師器、須恵器	10YR3/2	細かいブロック含む
P 183	E3	0.48	0.30	21.72	須恵器	欠	
P 184	D3	0.28	0.21	22.24	剥片	10YR3/3	細かいブロック含む
P 185	E3	0.50	0.30	22.11	須恵器	10YR3/1	
P 186	D3	0.35	0.24	21.89	須恵器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 187	E4	0.39	0.32	21.50		7.5YR4/4	
土坑 188	D4・E4	遺構計測表参照			土師器、須恵器		
P 189	E3	0.45	0.38	22.24		10YR3/1	
P 190	E2	0.48	0.33	22.00	須恵器	7.5YR4/4	細かいブロック含む
P 191	E2	0.35	0.24	22.26		10YR3/1	
欠番 192	-						
欠番 193	-						
欠番 194	-						
欠番 195	-						
P 196	F3	0.30	0.24	22.11		10YR3/1	
P 197	F3	0.20	0.19	22.27	須恵器	10YR3/3	
P 198	F3	0.30	0.25	21.89		10YR3/1	
P 199	F3	0.37	0.36	22.17		欠	
P 200	F3	0.27	0.23	22.18		10YR4/3	
P 201	G4	0.58	0.33	21.95		10YR5/3	
P 202	G4	0.32	0.30	22.02		10YR5/3	
P 203	G4	0.29	0.28	22.00		10YR5/3	
P 204	G4	0.51	0.27	22.00		10YR5/3	
P 205	H5	0.70	(0.28)	22.06	須恵器	10YR2/2	
P 206	H5	0.30	0.22	22.18		10YR2/2	
P 207	H5	0.35	0.20	22.15	須恵器、陶器	10YR3/3	
P 208	H5	0.30	0.26	22.33		10YR3/2	
P 209	H5	0.43	0.36	22.21		10YR3/3	
P 210	H5	(0.42)	(0.2)	22.28		10YR2/2	
P 211	H5	0.30	0.25	22.21		10YR3/2	小さい
P 212	H5	0.24	0.24	22.28		10YR3/2	
P 213	H5	0.30	0.30	22.24		10YR2/2	
P 214	H5	0.23	0.20	22.27		7.5YR4/2	
欠番 215	-						
P 216	H5	0.30	0.28	22.20		10YR3/3	
P 217	H5	0.30	0.25	22.07		10YR3/3	
P 218	H5	0.26	0.26	22.14		10YR3/4	
P 219	H5	0.35	0.27	22.34		欠	
P 220	H5	0.27	0.25	22.04	土師器	10YR3/3	
欠番 221	-						
P 222	H5	0.39	0.34	21.97		10YR3/2	
P 223	H5	0.29	0.28	22.15		10YR3/1	
P 224	H5	0.38	0.37	21.99	須恵器	10YR3/4	
溝 225	H5	遺構計測表参照			須恵器、陶器、青磁		
P 226	H5	0.27	0.24	22.32		10YR4/3	
P 227							建物1
P 228					須恵器、土師器、磁器?		建物1
P 229					須恵器		建物1
P 230	H4	1.10	(1.0)	21.86	土師器、青磁、陶器、剥片	10YR4/1	
P 231	H4	0.31	(0.29)	21.80		10YR3/2	
P 232	G4	0.40	0.40	21.82		10YR4/4	
P 233	F4	0.31	0.20	22.10		10YR3/4	
P 234	G4	0.44	0.41	22.08		10YR4/4	



第2表 遺構一覧表

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	底面の標高	遺物	埋土	備考
欠番 235	-						
P 236	F4	0.31	0.27	22.17		欠	
P 237	F4	0.29	0.23	22.27	磁器	10YR6/6	
P 238	F3	0.33	0.26	22.19		10YR4/4	細かいブロック含む
P 239	F3	0.30	0.27	22.10	須恵器	10YR3/4	
P 240	E4	0.50	0.32	22.13		7.5YR4/4	
P 241							P056 と同一
P 242	F3	0.60	0.47	22.29		10YR3/1	
P 243	E4	0.36	0.30	22.06	須恵器	10YR6/6	
P 244	E2	0.24	0.24	21.95		10YR3/1	細かいブロック含む
P 245	F4	0.46	0.28	22.14		10YR4/4	
P 246	E2	0.28	0.17	22.30		欠	
土坑 247	D2	遺構計測表参照					
P 248	E2	0.45	0.35	22.11		10YR3/1	細かいブロック含む
P 249	E2	(0.92)	0.41	22.03		2.5Y4/1	SD087 の底で検出
欠番 250	-						
欠番 251	-						
P 252	E2	0.25	0.23	22.25		7.5YR3/4	細かいブロック含む
P 253	D3・E3	0.31	0.24	21.98		欠	
P 254	D3・E3	0.17	0.14	22.04		7.5YR3/3	
P 255	D3	0.30	0.21	22.00		10YR3/1	
P 256	D3	0.26	0.24	21.91		7.5YR3/3	細かいブロック含む
P 257	D3	0.28	0.23	22.12	土師器	10YR3/3	
P 258							P091 と同一
P 259	E3	0.32	0.31	21.67		7.5YR3/4	細かいブロック含む
P 260	D2	0.27	0.26	22.24		7.5YR3/4	
欠番 261	-						
P 262	D3	0.30	0.25	21.76		10YR3/3	
P 263	E3	0.33	0.33	22.18		10YR3/3	細かいブロック含む
P 264	D3	0.22	0.19	22.15		10YR4/4	
P 265	E3	0.25	0.21	22.17	須恵器	10YR3/3	
欠番 266	-						
P 267	E3	0.22	0.18	22.10		10YR3/1	
P 268	E3	0.28	0.25	22.04	土師器、須恵器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 269	E3				土師器、須恵器、剥片		建物 3
P 270	D3	(0.22)	0.20	22.01		10YR3/3	
P 271	E3	0.25	0.19	22.25		10YR6/6	細かいブロック含む
P 272	E3	0.40	0.31	21.99		7.5YR3/3	
P 273	E3	(0.27)	0.19	22.27			
P 274							建物 3
欠番 275	-						
P 276	D4・E4	(0.39)	0.36	22.10		7.5YR3/3	細かいブロック含む
欠番 277	-						
P 278	E3	0.29	0.29	22.10	土師器、剥片	10YR3/3	細かいブロック含む
P 279	E4	0.24	0.22	22.16		10YR3/3	細かいブロック含む
P 280	E4	0.41	0.37	22.02	須恵器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 281	E4	0.33	0.31	21.67		10YR3/3	細かいブロック含む
P 282	E4	(0.42)	0.38	22.14		10YR3/1	細かいブロック含む
P 283	E4	(0.24)	0.21	22.12	土師器	10YR3/3	
P 284	E4	0.21	0.18	21.99		欠	土坑 146 肩部
P 285	E4	(0.19)	0.17	22.08		欠	土坑 146 肩部
P 286	E3	1.15	0.70	22.10	陶器	10YR3/3	細かいブロック含む
P 287	E3	0.40	0.29	22.03		10YR3/3	細かいブロック含む
欠番 288	-						
P 289	E4	0.21	0.19	21.76		欠	土坑 147 内
P 290	E4	0.33	0.29	21.50		欠	土坑 147 内
P 291	E4	0.20	0.13	21.60		欠	土坑 147 内
P 292	E4	0.26	0.25	21.75		欠	土坑 147 内
P 293	E4	0.20	0.15	21.78		欠	土坑 147 内
P 294	E4	0.36	0.27	22.03		10YR3/3	細かいブロック含む
P 295	E4	0.25	0.22	22.13		10YR3/3	細かいブロック含む

遺構名	グリッド	長径 (m)	短径 (m)	底面の標高	遺物	埋土	備考
P 296	E4	0.50	0.33	21.66	須恵器	10YR3/1	細かいブロック含む
不明遺構 297	D5						近世以降
P 298	G4	1.03	0.64	21.44	須恵器	10YR4/2	
P 299	G4	0.70	0.60	21.75	須恵器、陶器	2.5Y5/3	細かいブロック含む
P 300	G4	0.63	0.31	21.96		10YR5/2	細かいブロック含む
P 301	G4	0.35	0.34	21.92	須恵器	10YR5/3	細かいブロック含む
P 302	G4	1.50	0.89	21.34		10YR6/6	
欠番 303	-						
P 304	E2	0.28	0.26	22.31		10YR3/3	細かいブロック含む
P 305	E3	0.22	0.19	22.11		10YR3/1	
P 306	D5	0.36	0.32	21.03		10YR3/3	細かいブロック含む
欠番 307	-						
欠番 308	-						

第3表 建物計測表

第3表 建物計測表

## 掘立柱建物跡 1

規模		梁行き	1			桁行き	2以上	
主軸		N-5° -E						
柱穴	番号	P229	P228	P227	P167	P165	P164	
	上面径 (m)	1.1 × 0.86	1.16 × 0.63	1 × 0.83	0.9 × (0.8)	0.87 × 0.56	1.1 × 0.76	
	底面の標高 (m)	21.63	21.64	21.80	21.92	21.90	21.67	
柱間距離 (m)		P229-P228	P228-P227	P227-P167	P167-P165	P165-P164	P164-P229	
		1.80	2.15	3.75	1.90	1.90	3.90	

## 掘立柱建物跡 2

規模		梁行き	1			桁行き	2以上	
主軸		N-10° -E						
柱穴	番号	P029	P027	P019	P018	P023		
	上面径 (m)	0.52 × (0.4)	0.76 × 0.72	0.48 × 0.21	0.55 × 0.38	0.54 × 0.5		
	底面の標高 (m)	22.30	22.18	22.10	22.14	22.22		
柱間距離 (m)		P029-P027	P027-P019	P019-P018	P018-P023			
		2.25	2.95	2.00	2.65			

## 掘立柱建物跡 3

規模		梁行き	2			桁行き	3	
主軸		N						
柱穴	番号	P137	P135	P114	P115	P103	P100	
	上面径 (m)	0.42 × 0.35	0.5 × 0.36	0.4 × 0.37	0.44 × 0.34	0.5 × 0.42	0.48 × 0.33	
	底面の標高 (m)	21.98	22.07	22.23	22.07	21.57	22.35	
柱穴	番号	P274	P125	P269	P132			
	上面径 (m)	0.3 × 0.23	0.56 × 0.43	0.49 × 0.38	0.59 × 0.4			
	底面の標高 (m)	22.31	22.28	21.81	21.86			
柱間距離 (m)		P137-P135	P135-P114	P114-P115	P115-P103	P103-P110	P110-P274	
		2.15	2.20	2.10	2.60	2.60	2.35	
柱間距離 (m)		P274-P125	P125-P269	P269-P132				
		2.05	2.10	2.15				

第4表 遺構計測表

遺構名	旧遺構名	遺構図	グリッド	平面形状	断面形状	長さ (m)	幅 (m)	最大の深さ (m)	床面標高 (m)	出土土器の時期	備考
溝 172	SD172	第 12 図	H4		浅い U 字	(4.77)	2.40 ~ 2.63	0.43	21.70	室町時代	南側のみ
溝 225	SD225	第 12 図	H5		逆台形	(4.25)	1.93 ~ 2.20	0.43	21.75	室町時代	北側のみ
溝 171	SD171	第 12 図	H4.H5		浅い U 字	(7.75)	1.13 ~ 1.30	0.20	22.16	不明	南側のみ
土坑 110	Pit110	第 13 図	E3	長方形	逆台形	1.40	1.16	0.64	21.87	江戸時代初頭	
土坑 146	SK146	第 14 図	E4	楕円形	浅い U 字	2.62	1.50	0.30	22.00	平安時代?	
土坑 147	SK147	第 14 図	E4	円形	浅い逆台形	3.06	2.67	0.39	21.89	平安時代	
土坑 188	P188	第 14 図	D4	楕円形	半円形	1.60	1.21	0.62	21.48	室町時代	
土坑 068	SX068	第 15 図	E3	楕円形	浅い U 字	3.29	1.94	0.21	22.20	不明	一部削平
土坑 097	P097	第 15 図	E3	円形	逆台形	0.40	0.37	0.50	21.98	不明	
土坑 247	SK247	第 15 図	D2	正方形	逆台形	1.40	1.12	0.25	22.05	不明	

( ) は現存部の寸法

第5表 出土土器観察表

遺物番号	挿図番号	写真図版	種別	器種	遺構/出土グリッド	層位	口径(cm)	その他の寸法(cm)	残存率	形態、文様の特徴	色調
1	第16図	図版20	土師器	坏	溝172/H4	2層		底径9.0	20	摩滅、底部糸切り	(外)黄橙色(7.5YR7/8) (内)黄橙色(10YR8/6)
2	第16図	図版20	青磁	碗	溝172/H4	2層	(16.0)	器高6.9、 底径(5.0)	20		(釉)明緑灰色(10GY5/1) (胎土)灰白色(2.5GY8/1)
3	第16図	図版18	唐津焼	皿	土坑110/E3		最大12.2	器高3.8、 底径4.8	完形	三ヶ所の胎土目	(釉)浅黄色(5Y7/3) (無釉)にぶい黄橙色 (10YR7/3)
4	第16図	図版18	唐津焼	皿	土坑110/E3		最大12.2	器高最大 4.5、底径4.4	ほぼ完形	四ヶ所の胎土目	(釉)オリーブ黄色(5Y6/4) (無釉)にぶい橙色 (7.5YR7/3)
5	第16図	図版18	須恵器	高台付 坏	土坑147/E4	上面		底径8.5	底部完存	底部にヘラ痕	(外)灰色(10Y6/1) (内)灰色(7.5Y6/1)
6	第16図	図版18	須恵器	高台付 坏	P186/D3		(13.6)	器高5.9、 底径(8.0)	30(底部)	軟質、摩滅	灰色(5Y6/1)
7	第16図	図版20	土師器	坏	P064/F3		(15.0)		15	磨滅	黄灰色(2.5Y6/1)～灰白色 (2.5Y8/1)
8	第16図	図版20	須恵器	皿	P037/F3		(15.0)	器高2.5、 底径(10.0)	10	底面糸切り	(外)黄灰色(2.5Y5/1)～に ぶい黄褐色(10YR5/3) (内)黄灰色(2.5Y5/1)
9	第16図	図版20	須恵器	皿	P052、 P055/F3		(12.0)	器高2.0、 底径(8.0)	15	底面糸切り	灰色(5Y5/1)
10	第16図	図版18	土師器	坏	P188/D4		12.0	器高3.5、 底径4.6	底部完存	摩滅、底面糸切り か?	橙色(5YR7/6)
11a	第16図	図版20	縄文土器	深鉢	P136/D3					外面ケズリ、内面 に厚く炭化物	(外)にぶい橙色(7.5YR7/4) (内)褐灰色(7.5YR4/1)
11b	第16図	図版20	縄文土器	深鉢	P136/D3					内面摩滅	(外)にぶい橙色(7.5YR7/4) (内)褐灰色(7.5YR4/2)
12	第16図	図版20	備前焼	擂鉢	P136/D3					注口部	(外)にぶい赤褐色 (5YR5/3) (内)褐灰色(5YR5/2)
13	第16図	図版20	備前焼	壺	P207/H5					外面肩部に波状文	(外)にぶい黄褐色 (10YR6/2) (内)にぶい赤褐色 (5YR5/3)
14	第17図	図版20	須恵器	蓋	D4	黒褐色土	(15.0)	器高2.5	35		(外)灰色(10Y6/1) (内)灰色(10Y7/1)
15	第17図	図版20	須恵器	蓋	E3	黒褐色土	(14.0)		10		灰オリーブ色(5Y4/2)
16	第17図	図版20	須恵器	蓋	G4.H4(井戸 173)		(18.0)				(外)灰色(5Y5/1) (内)灰色(5Y6/1)
17	第17図	図版20	須恵器	高台付 坏	G4.H4(井戸 173)			底径(16.0)	20		褐灰色(5YR5/1)
18	第17図	図版18	須恵器	高台付 坏	D4	黒褐色土		底径7.8	高台部完 存	軟質、見込みに重 ね焼きの痕あり	(外)灰黄色(2.5Y7/2) (内)浅黄色(2.5Y7/3)
19	第17図	図版20	須恵器	高台付 坏	G3	黒褐色土		底径(11.0)	15	底面回転糸切り	(外)灰色(5Y5/1) (内)灰色(7.5Y6/1)
20	第17図	図版20	須恵器	小型の 鉢	G3(土坑 017)		(7.4)	器高4.9	25		黄灰色(2.5Y6/1)
21	第17図	図版20	須恵器	坏	E3	黒褐色土	(12.0)		20		(外)灰褐色(7.5YR5/2) (内)褐灰色(7.5YR5/1) 口 縁部灰褐色(7.5YR5/2)
22	第17図	図版20	須恵器	坏	D4	黒褐色土	(14.0)	器高3.5	20	やや軟質、底部静 止糸切り	(外)灰色(10Y7/1) (内)灰色(7.5Y6/1)
23	第17図	図版20	須恵器	皿	F3	黒褐色土	(15.8)	器高2.0、 底径(12.0)	20(底部)	底面回転糸切り	灰色(7.5Y4/1)
24	第17図	図版20	須恵器	壺	H4(溝172)					口縁部外面に2条 の沈線状の凹み	褐灰色(10YR5/1)
25	第17図	図版20	須恵器	壺	E3	黒褐色土		頸部径(5.0)	45		(外)オリーブ灰色 (5GY6/1) (内)オリーブ灰色 (2.5GY6/1)
26	第17図	図版20	須恵器	壺	H4(溝172)	2層			10	外側に×印のヘラ 記号あり	(外)灰色(5Y4/1) (内)灰色(5Y5/1)
27	第17図	図版20	須恵器	壺	H4(溝172)			底径(9.6)	30		(外)暗赤褐色(2.5YR3/3) (内)灰色(7.5GY5/1)
28	第17図	図版21	須恵器	壺	H5(溝225)						明オリーブ灰色(2.5GY7/1)
29	第17図	図版21	須恵器	甕	E3	黒褐色土				外面カキメ	灰白色(10YR7/1)

第5表 出土土器観察表

遺物番号	挿図番号	写真図版	種別	器種	遺構/出土グリッド	層位	口径(cm)	その他の寸法(cm)	残存率	形態、文様の特徴	色調
30	第17図	図版21	須恵器	鉢	G4	黒褐色土				口縁部下に沈線1条	(外) 灰色(7.5Y5/1) (内) 褐灰色(7.5YR5/1)
31	第17図	図版21	須恵器	甕	D3.D4(井戸140)					口縁部の沈線の間に波状文	(外) オリーブ黒色(10Y3/1) (内) 灰色(10Y5/1)
32	第18図	図版19	土師器	柱状高台付皿	D3.D4(井戸140)			底径(8.0)	60	底面回転糸切り	浅黄褐色(10YR8/3)
33	第18図	図版18	土師器	坏	D3	黒褐色土		底径7.4	60	摩滅、底面回転糸切り	黄褐色(10YR8/6)
34	第18図	図版21	土師器	坏	F4	黒褐色土	(11.0)	底径4.4	底部完存 口縁部10	底面回転糸切り	橙色(7.5YR7/6)
35	第18図	図版21	土師器	坏	G4	黒褐色土		底径5.2	底部完存	底面回転糸切り	(外) 灰褐色(7.5YR4/2) (内) にぶい黄褐色(10YR4/3)
36	第18図	図版21	土師器	坏	D3	黒褐色土		底径5.5	底部完存	底面回転糸切り	黄褐色(10YR8/8)
37	第18図	図版21	土師器	坏	G4.H4(井戸173)			底径(6.0)	25	底面糸切り後ナデ	にぶい黄褐色(10YR7/4)
38	第18図	図版21	土師器	坏	H5	黒褐色土		底径6.8	55	磨滅	橙色(7.5YR7/6)
39	第18図	図版21	土師器	皿	G4.H4(井戸173)		(9.5)	器高2.0、 底径5.0	60	底面回転糸切り	(外) にぶい黄褐色(10YR7/2) (内) 浅黄褐色(10YR8/3)
40	第18図	図版19	土師器	皿	D6	茶褐色土	8.5	器高2.0、 底径3.4	70	底面回転糸切り	(外) 浅黄褐色(7.5YR8/4) (内) 浅黄褐色(7.5YR8/6)
41	第18図	図版19	土師器	皿	D6	茶褐色土	8.8	器高2.0、 底径3.6	90	底面回転糸切り	(外) 浅黄褐色(7.5YR8/6) (内) 浅黄褐色(7.5YR8/4)
42	第18図	図版21	土師器	皿	D3	黒褐色土	(7.8)	器高1.5、 底径4.0	80	底面糸切り	(外) 灰黄褐色(10YR5/2) (内) にぶい黄褐色(10YR6/3)
43	第18図	図版21	土師器	皿	G4.H4(井戸173)		(8.0)		25		(外) 浅黄褐色(10YR8/4) (内) 浅黄褐色(7.5YR8/4)
44	第18図	図版22	備前焼	播鉢	D4	黒褐色土	(30.0)	器高11.8、 底径(15.6)	15	7条の播目、外面に重ね焼きの痕	(外) にぶい褐色(7.5YR5/4) (内) にぶい橙色(7.5YR6/4)
45	第18図	図版21	陶器	壺	G4.H4(井戸173)				25		(外) にぶい褐色(7.5YR5/3) (内) 灰赤色(2.5YR4/2)
46	第18図	図版21	陶器	壺	G4	黒褐色土		底径(23.0)	10		(外) 橙色(7.5YR5/6) (内) にぶい赤褐色(5YR5/3)
47	第18図	図版21	陶器	壺	H4	黒褐色土		底径(25.0)	10(底部)	摩滅	(外) 灰赤色(2.5YR5/2) (内) 褐灰色(10YR5/1)
48	第18図	図版22	陶器	壺	E4	黒褐色土		底径18.0	10(底部)		灰白色(7.5YR8/2)
49	第18図	図版22	備前焼	播鉢	H4	黒褐色土				口縁部に2条の沈線	(外) 褐灰色(5YR5/1) (内) 灰褐色(5YR4/2)
50	第18図	図版22	備前焼	播鉢	D6	褐色土				内面はよく使用	明赤褐色(5YR5/6)
51	第18図	図版22	土師器	播鉢	D3.D4(井戸140)					外面ハケ、内面播目	(外) にぶい橙色(7.5YR6/4) (内) 橙色(7.5YR7/6)

第6表 出土石器・石製品観察表

遺物番号	挿図番号	写真図版	種別	器種	遺構 / 出土地点 / 層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
52	第19図	図版24	石器	砥石	E3/黒褐色土	砂岩	7.8	6.3	4.5	301.88	8面、粗砥
53	第19図	図版24	石器	石錘?	E3/黒褐色土	流紋岩 or デイサイト	10.0	6.7	2.9	220.00	上下打ち欠き
54	第19図	図版24	石器	不明	P076/E2	安山岩	14.0	10.1	6.5	1754.03	被熱痕
55	第19図	図版24	石器	不明	P207/H5	花崗岩	13.4	10.1	5.0	956.73	平滑な面あり
56	第19図	図版24	石器	不明	G4.H4(井戸173)	安山岩	10.7	10.3	2.3	307.45	磨り痕?
57	第19図	図版19	石製品	石臼	G4.H4(井戸173)	デイサイト or 安山岩	直径(30.0)、器高5.5			865.16	上臼
58	第19図	図版19	石製品	五輪塔	G4.H4(井戸173)	デイサイト or 安山岩	26.2	16.0	15.5	7680.00	空風輪

第7表 出土土製品観察表

遺物番号	挿図番号	写真図版	種別	器種	遺構 / 出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	調整・手法の特徴	備考
59	第20図	図版23	瓦	平瓦	G4.H4(土坑174)	1層	(16.8)	(15.0)	2.8	明オリープ灰色(5GY5/1)	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：格子タタキ	
60	第20図	図版23	瓦	平瓦	H5	黒褐色土	(11.7)	(8.5)	2.1	黄色(2.5Y8/6)	凹面：布目圧痕、側縁ケズリ 凸面：縄タタキ	摩滅、軟質
61	第20図	図版23	瓦	平瓦	H5(溝225)		(5.0)	(6.8)	1.8	灰白色(10Y8/1)	凹面：布目圧痕 凸面：縄タタキ	摩滅
62	第20図	図版23	瓦	平瓦	F3	黒褐色土			2.6	凹面：灰黄色(2.5Y7/2) 凸面：浅黄色(2.5Y7/3)	凹面：布目圧痕、端縁ケズリ 凸面：縄タタキ	摩滅、軟質
63	第20図	図版23	土製品	鞆羽口	D6	黒褐色土	直径7.8、孔径3.0			にぶい橙色(7.5YR6/4)～褐色(10YR4/1)	断面多角形、先端は還元	

第8表 出土鉄器・鉄製品観察表

遺物番号	挿図番号	写真図版	種別	器種	遺構 / 出土地点	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考
64	第21図	図版24	鉄器	刀子?	G3	黒褐色土	(16.7)	(3.6)	(0.5)	
65	第21図	図版24	鉄器	釘?	G4	黒褐色土	(4.6)	(0.6)	(0.5)	
66	第21図	図版24	鉄器	釘	F3	黒褐色土	6.6	0.8	0.4	
67	第21図	図版24	鉄器?	不明	D3.D4(井戸140)		(3.2)	(2.0)	(0.8)	
68	第21図	図版24	鉄製品	鉄滓	D3	黒褐色土	8.0	8.7	1.3	椀形滓
69	第21図	図版24	鉄製品	鉄滓	D3	黒褐色土	9.2	11.6	5.1	椀形滓
70	第21図	図版24	鉄製品	鉄滓	D3	黒褐色土	6.0	(6.0)	2.2	鍛冶滓

第9表 出土土器数量表

第9表-1 出土土器数量表

	D2		D3		D4		D5		D6		E2		E3	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
須惠器	1.5	13.96	65.5	738.82	72.5	1150.71	1	3.63	6	78.29	5.5	20.01	64	1323.60
土師器			40	677.12	12	157.77	1	5.19	9	175.29	5	39.08	17.5	301.83
陶器			3.5	141.70	3.5	374.33	1	39.50	4	181.58			6	443.13
青磁			1	11.48					1	19.33			1	5.53
白磁					1	5.62								
土製品									5	719.98	1	54.30	2	27.19
瓦														
縄文土器			2	49.14										
合計	1.5	13.96	112	1618.26	89	1688.43	3	48.32	25	1174.47	11.5	113.39	90.5	2101.28

	E4		F3		F4		G3		G4		G5		H4	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
須惠器	51	715.42	13	193.35	17	177.55	36	572.26	71	1125.30	10	129.26	100	1767.73
土師器	11.5	111.87	1.5	14.84	3.5	51.86	11	166.50	16.5	233.80			34	328.71
陶器	2	350.43			1	8.80	19	1027.35	3.5	194.13			11	644.36
青磁	1	5.40			2	11.42			2	37.79			4.5	81.17
白磁	1	4.01												
土製品	3	80.13					1	14.13						
瓦			1	255.23					1.5	572.42			1.5	572.42
縄文土器														
合計	69.5	1267.26	15.5	463.42	23.5	249.63	67	1780.24	94.5	2163.44	10	129.26	151	3394.39

	H5		総計		比率	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量
須惠器	72	1227.53	586	9237.42	67.7%	47.7%
土師器	10.5	131.29	173	2395.15	20.0%	12.4%
陶器	16.5	1484.13	71	4889.44	8.2%	25.3%
青磁	1.5	12.63	14	184.75	1.6%	1.0%
白磁			2	9.63	0.2%	0.0%
土製品			12	895.73	1.4%	4.6%
瓦	2	284.95	6	1685.02	0.7%	8.7%
縄文土器			2	49.14	0.2%	0.3%
合計	102.5	3140.53	866	19346.28	100%	100%

※重量単位：g

第9表-2 出土土器数量表 (内訳)

		D2		D3		D4		D5		D6		E2		E3		E4	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
須惠器	蓋			4.5	32.02	2.5	100.43			1	10.81			6	67.72	6	65.63
	坏			18	216.91	16.5	325.73	1	3.63					21	202.60	16.5	244.74
	皿																
	鉢																
	高坏			0.5	5.09	0.5	5.09										
	壺	1	6.37	13.5	156.46	18	296.96					1	7.94	6	115.98	6.5	68.65
	甕	0.5	7.59	24	294.69	27	362.60			5	67.48	4.5	12.07	31	937.30	22	336.40
	不明			5	33.65	8	59.90										
土師器	坏			3.5	188.37							1	7.14	0.5	4.56	1	3.56
	皿			2.5	90.55	1.5	37.30			2	105.10						
	坏 / 皿			2.5	17.01	2.5	17.01	1	5.19	2	7.25	2	8.70	1	3.63		
	甕			25	341.68	6	85.62			5	62.94	2	23.24	16	293.64	10	104.33
		不明			6	31.01	1	5.36									
	播鉢			0.5	8.50	0.5	8.50										
赤彩土師器 陶器						0.5	3.98									0.5	3.98
	壺							1	39.50	2	122.57					1	347.54
	皿													2	371.39		
	碗			1	47.85					1	18.60			3	49.98	1	2.89
		不明			1	19.33	2	38.03						1	21.76		
		播鉢			1.5	74.52	1.5	336.30			1	40.41					
青磁	碗									1	19.33						
	鉢																
	皿															1	5.40
	不明			1	11.48								1	5.53			
白磁	皿					1	5.62										
		不明														1	4.01
土製品	羽口									5	719.98					3	80.13
		不明										1	54.30	2	27.19		
	瓦																
縄文土器				2	49.14												
合計		1.5	13.96	112	1618.26	89	1688.43	3	48.32	25	1174.47	11.5	113.39	90.5	2101.28	69.5	1267.26

		F3		F4		G3		G4		G5		H4		H5		総計	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
須惠器	蓋	5	35.86	1	4.94			4.5	47.59			8	93.68	3.5	26.79	42	485.47
	坏	2	21.76	4	46.05	5	49.24	15.5	139.39			38	300.11	23.5	190.19	161	1740.35
	皿	3	80.27													3	80.27
	鉢					1	25.37	1	27.95							2	53.32
	高坏															1	10.18
	壺	1	13.68	3	32.22	2	57.76	7.5	125.59	3	33.45	9	338.09	12.5	499.32	84	1752.47
	甕	2	41.78	7	83.53	25	413.41	42.5	784.78	5	87.99	45	1035.85	32.5	511.23	273	4976.70
	不明			2	10.81	3	26.48			2	7.82				20	138.66	
土師器	坏	1	10.79	1	29.10	1	8.91	6	136.06			6	87.27	2	43.25	23	519.01
	皿							3	12.79			2	10.42		11	256.16	
	坏 / 皿					2	14.74	3.5	25.13			11.5	73.92	2	13.08	30	185.66
	甕	0.5	4.05	2.5	22.76	7	127.47	4	59.82			14.5	157.10	6.5	74.96	99	1357.61
		不明														7	36.37
	播鉢														1	17.00	
赤彩土師器 陶器						1	15.38								2	23.34	
	壺			1	8.80	14	946.61					7	529.15	15	1439.23	41	3433.40
	皿														2	371.39	
	碗					5	80.74					2.5	45.31	0.5	9.08	14	254.45
		不明													4	79.12	
		播鉢							3.5	194.13			1.5	69.90	1	35.82	10
青磁	碗											3	54.26	1	9.54	5	83.13
	鉢							2	37.79			1	23.82		3	61.61	
	皿														1	5.40	
		不明			2	11.42						0.5	3.09	0.5	3.09	5	34.61
白磁	皿														1	5.62	
		不明													1	4.01	
土製品	羽口					1	14.13								9	814.24	
		不明													3	81.49	
	瓦	1	255.23					1.5	572.42			1.5	572.42	2	284.95	6	1685.02
縄文土器															2	49.14	
合計		15.5	463.42	23.5	249.63	67	1780.24	94.5	2163.44	10	129.26	151	3394.39	102.5	3140.53	866	19346.28

※重量単位：g

第10表 出土石器計測表

整理番号	器種	地区名/ 遺構名	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	出土日
No. 1	剥片	D3	石英	4.65	4.26	3.25	61.36		0621
No. 2	剥片	E4	黒曜石	2.25	1.46	0.72	2.16		0806
No. 3	剥片	F3	石英	3.44	3.29	2.42	29.00		0613
No. 4	剥片	F3	水晶	2.32	1.43	1.00	3.28		0613
No. 5	剥片	F3	黒曜石	2.91	2.66	1.81	7.38	被熱	0613
No. 6	剥片	G4	玉髄	3.96	2.68	1.67	15.47		0610
No. 7	剥片	H4	黒曜石	3.13	2.31	1.57	4.47	被熱	0606
No. 8	剥片	H4	黒曜石	2.17	2.16	2.02	5.05	被熱	0606
No. 9	剥片	H5	石英	2.02	1.82	1.73	6.40		0603
No. 10	剥片	H5	玉髄	2.17	1.65	1.06	3.90		0604
No. 11	剥片	H5	黒曜石	2.19	1.43	0.75	2.08		0604
No. 12	剥片	H5	黒曜石	4.01	2.87	1.25	14.18		0605
No. 13	剥片	溝 171	黒曜石	2.34	1.23	0.39	0.78		0708
No. 14	剥片	溝 225	黒曜石	2.06	1.97	0.70	2.08		0709
No. 15	剥片	溝 225	玉髄	2.96	1.37	0.66	2.44		0710
No. 16	剥片	P005	チャート	2.71	2.49	0.73	4.88		0716
No. 17	剥片	P184	黒曜石	3.86	2.67	1.34	12.29		0725
No. 18	剥片	P230	玉髄	2.59	1.69	0.73	3.56		0712
No. 19	剥片	P269	玉髄	2.60	1.80	0.45	1.81		0726
No. 20	剥片	P278	瑪瑙	2.44	1.46	0.57	1.76		0731



# 写真図版



1. 下黒田II遺跡調査前



2. T1 土層



3. T2 土層





1. 調査区土層 (第 7 図 AA')



2. 調査区土層拡大





1. 掘立柱建物跡 1 (北から)



2. 溝 172、溝 225 陸橋部 (北から)



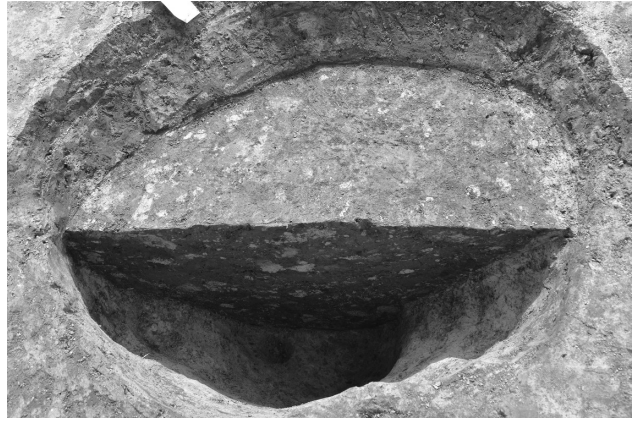
1. 掘立柱建物跡 2 (西から)



2. 掘立柱建物跡 3 (東から)



1. 掘立柱建物跡 1 P167



2. 掘立柱建物跡 1 P229



3. 掘立柱建物跡 1 P228



4. 掘立柱建物跡 1 P164



5. 掘立柱建物跡 2 P018



6. 掘立柱建物跡 2 P027



7. 掘立柱建物跡 2 P029



8. 掘立柱建物跡 2 P023





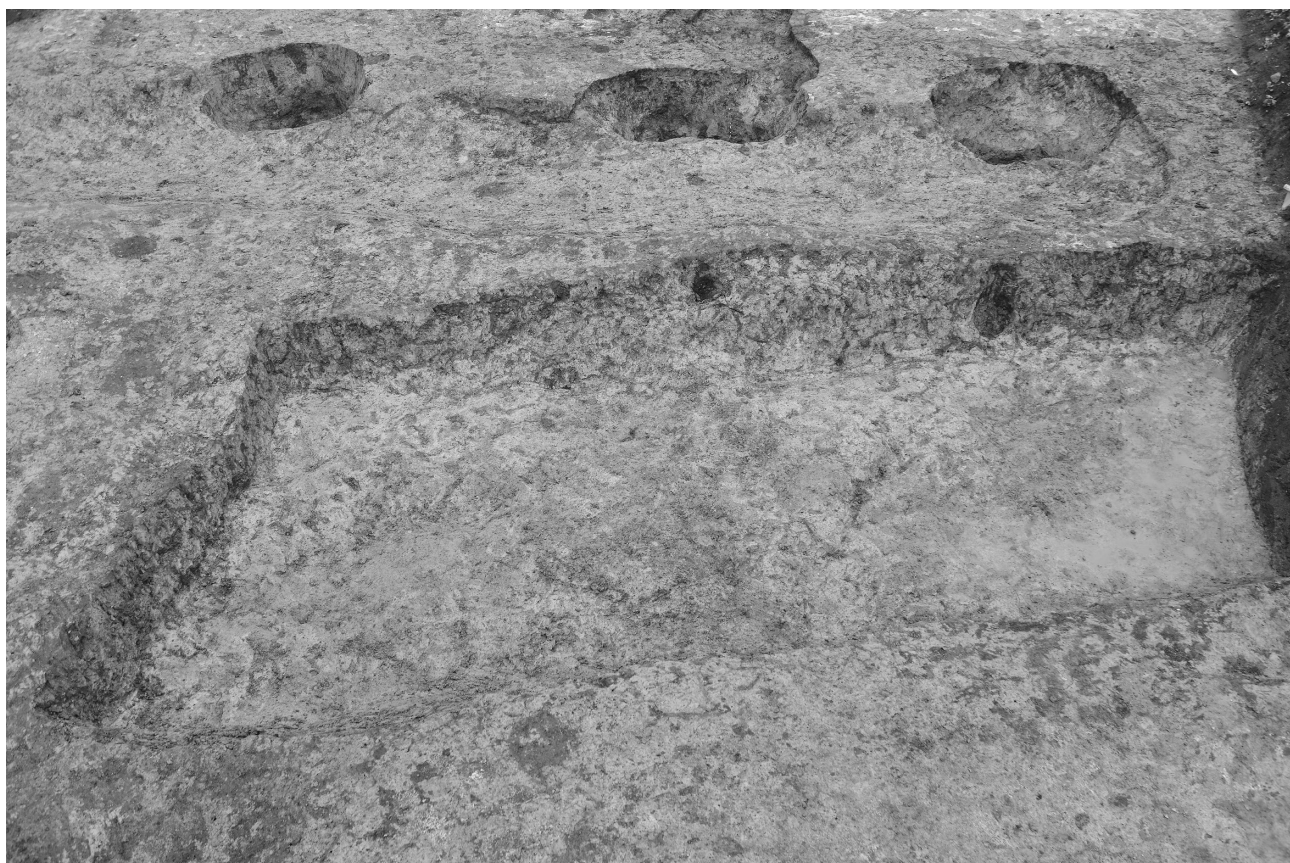
1. 溝 172 土層 (第 12 図 AA')



2. 溝 172 完掘 (南から)



1. 溝 225 土層 (第 12 図 BB')



2. 溝 225 完掘 (北から)



1. 溝 171 北側土層 (第 12 図 CC')



2. 溝 171 南側土層 (第 12 図 DD')



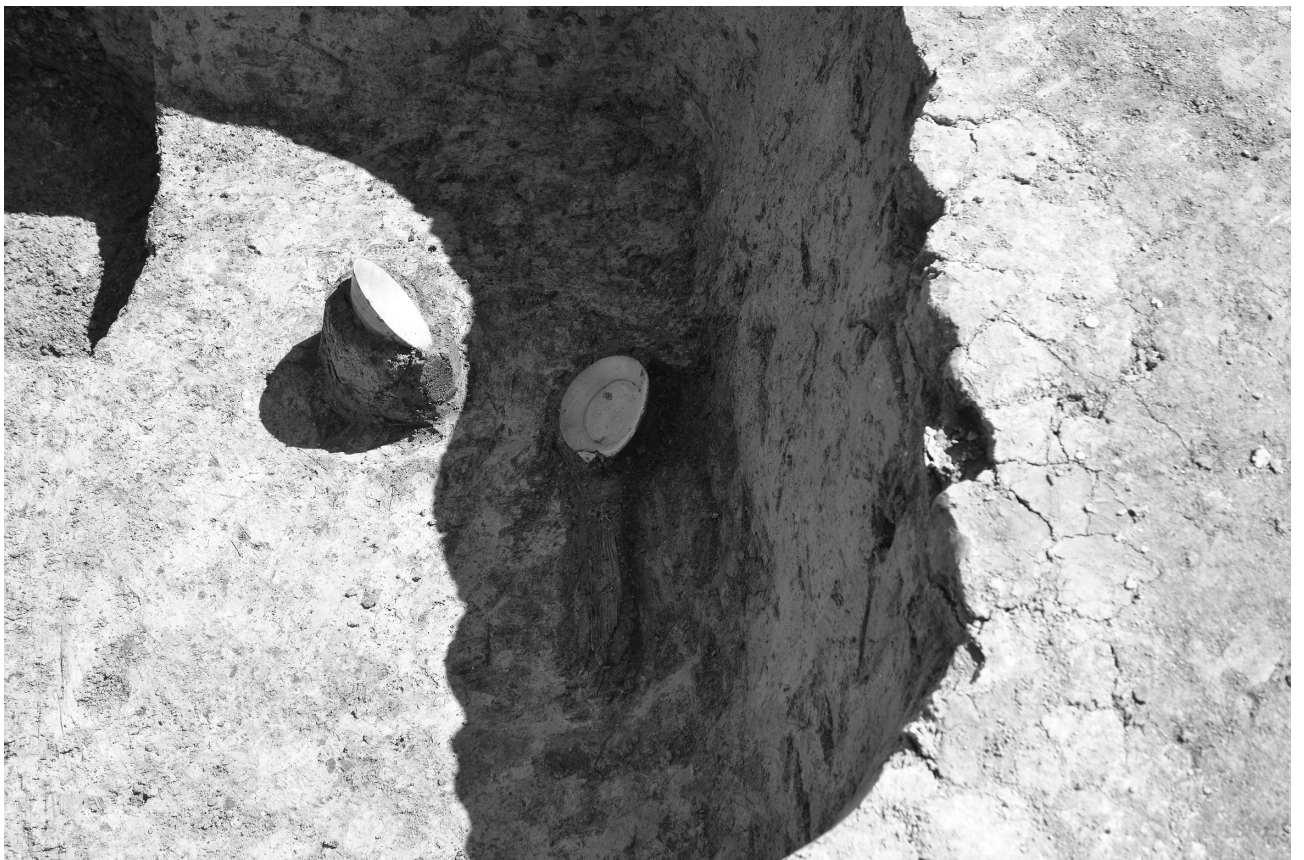
1. 土坑 110 南北土層 (北西から)



2. 土坑 110 東西土層 (北から)



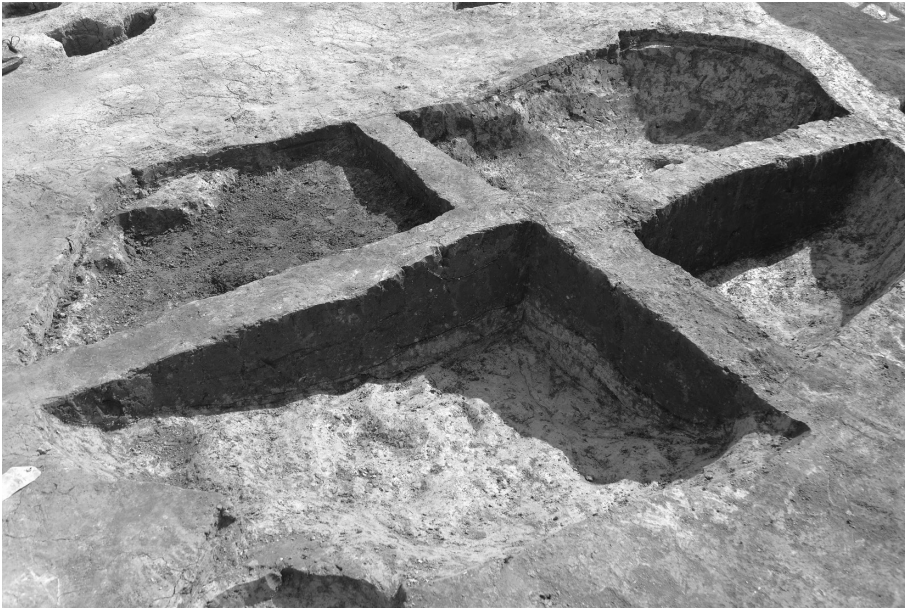
1. 土坑 110 完掘 (北から)



2. 土坑 110 土器出土状況



1. 土坑 146 北東土層 (第 14 図 BB')



2. 土坑 146 南西土層 (第 14 図 AA')



3. 土坑 146 完掘 (東から)



1. 土坑 147 南西土層



2. 土坑 147 北東土層 (第 14 図 DD')



3. 土坑 147 完掘 (北から)



1. 土坑 068 南北土層 (東から)



2. 土坑 068 東西土層 (南から)



3. 土坑 068 完掘 (北から)

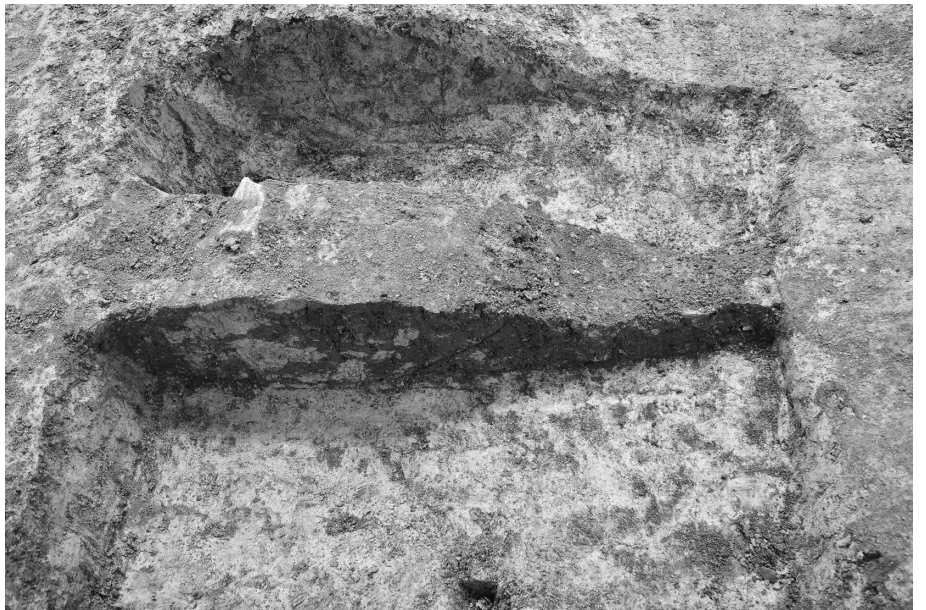




1. 土坑 188 土層 (第 14 图 FF')



2. 土坑 097 土層



3. 土坑 247 土層



1. 完掘 1 (南から)



2. 完掘 2 (南から)



1. 完掘 3 (北から)



2. 完掘 4 (南東から)



3



4



5



6



10



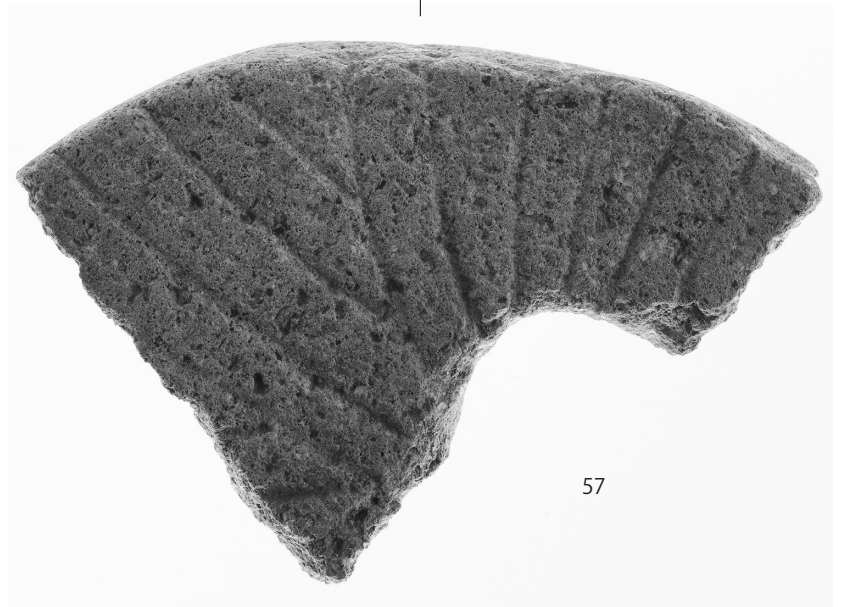
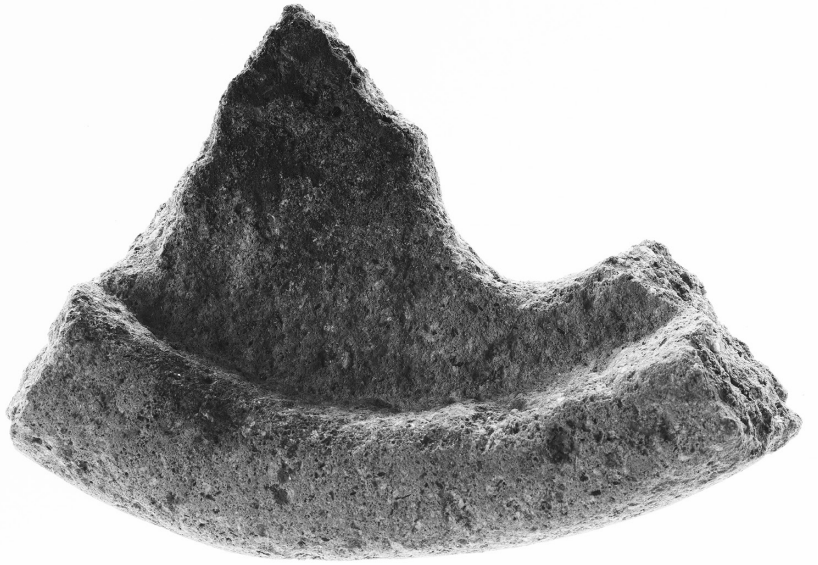
14

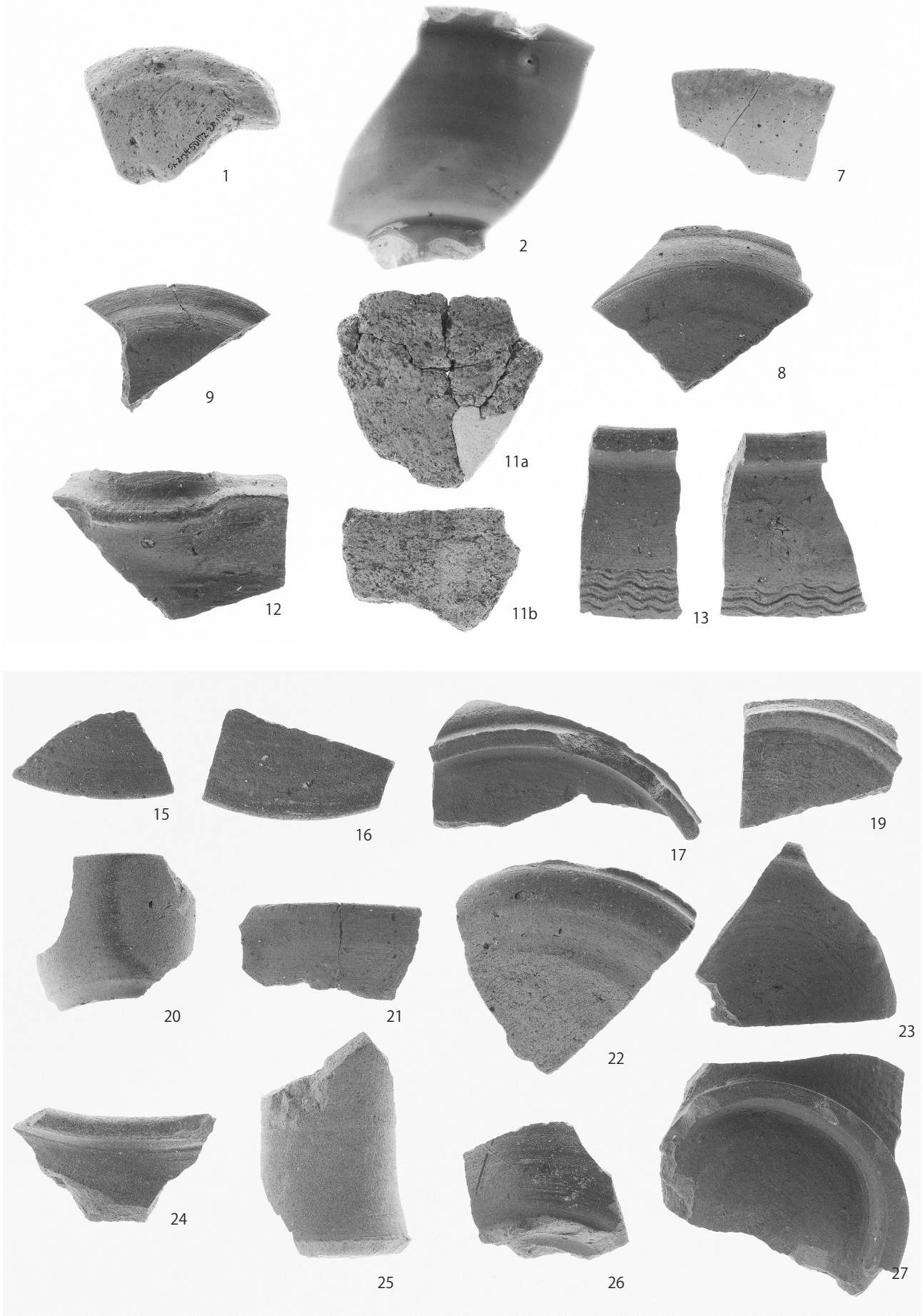


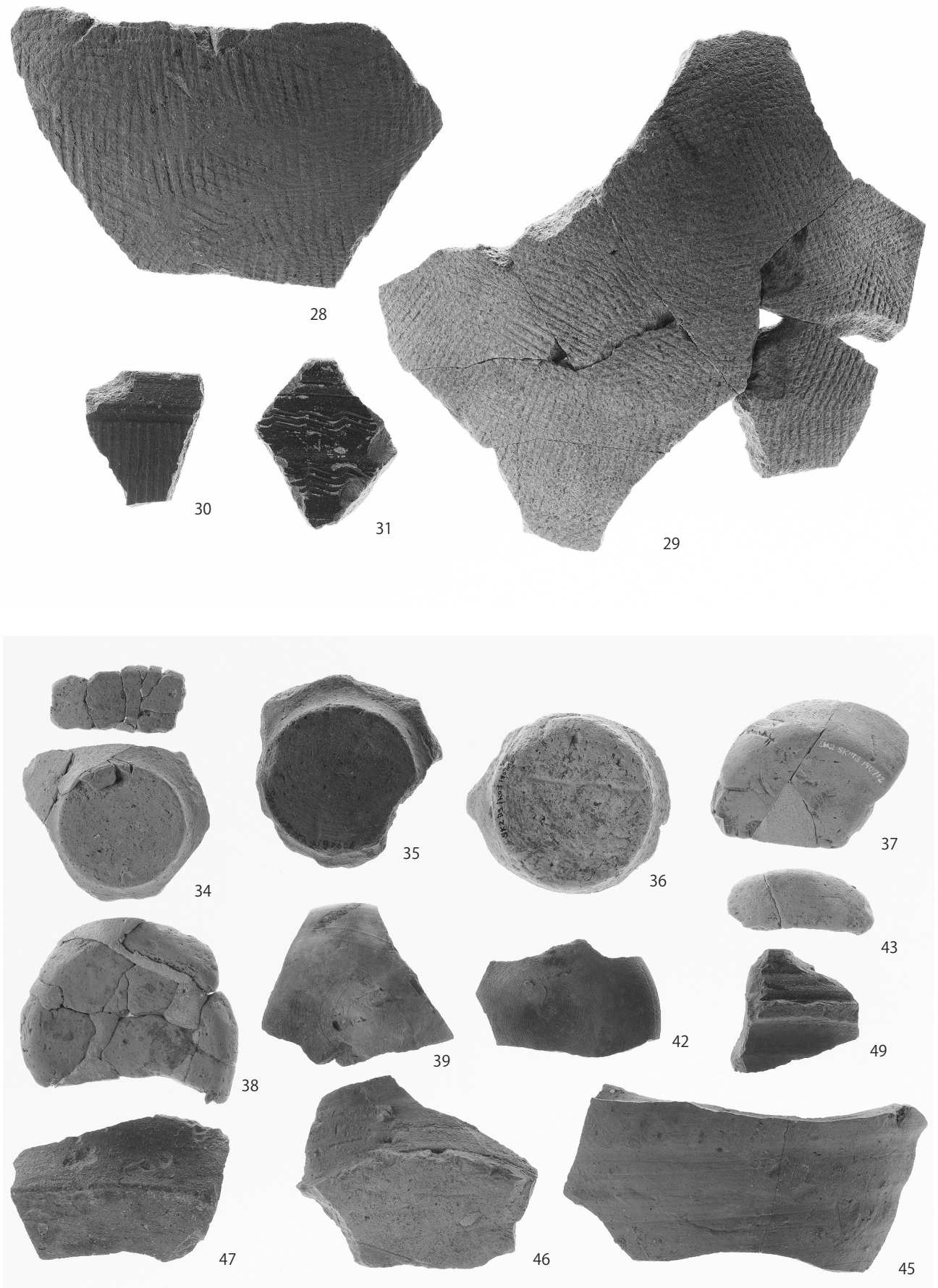
18



33



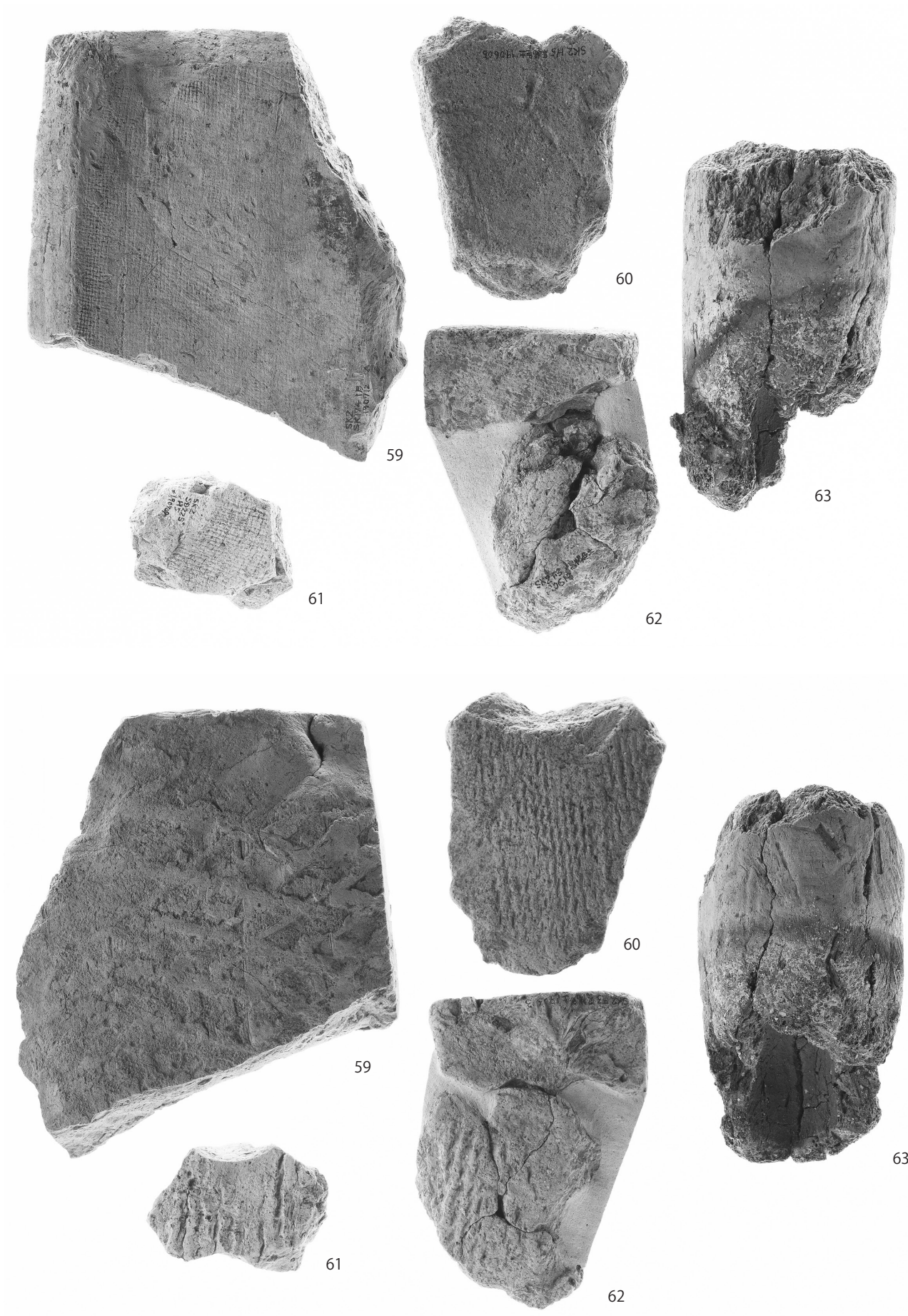




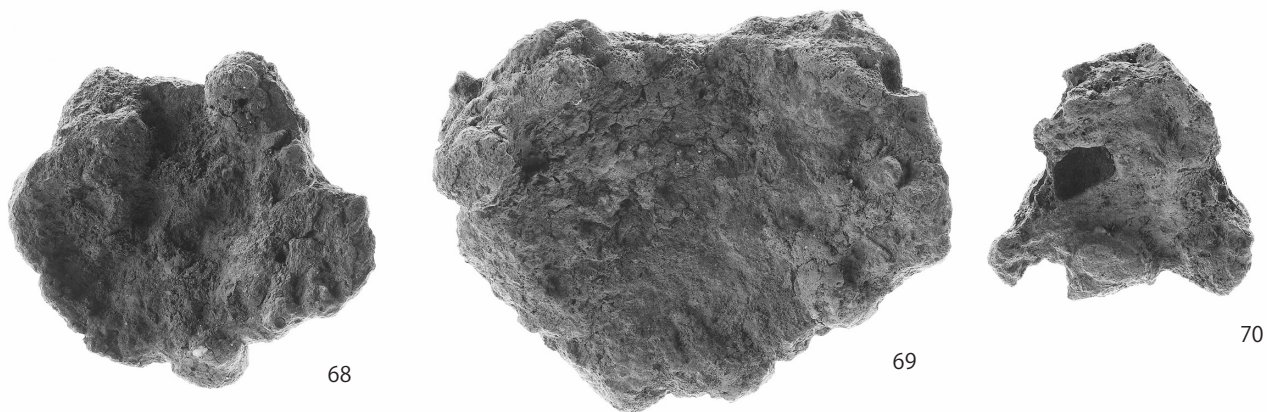
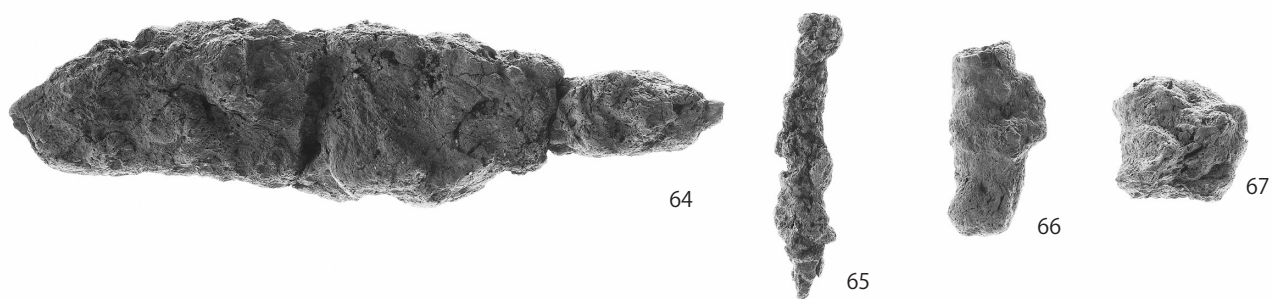
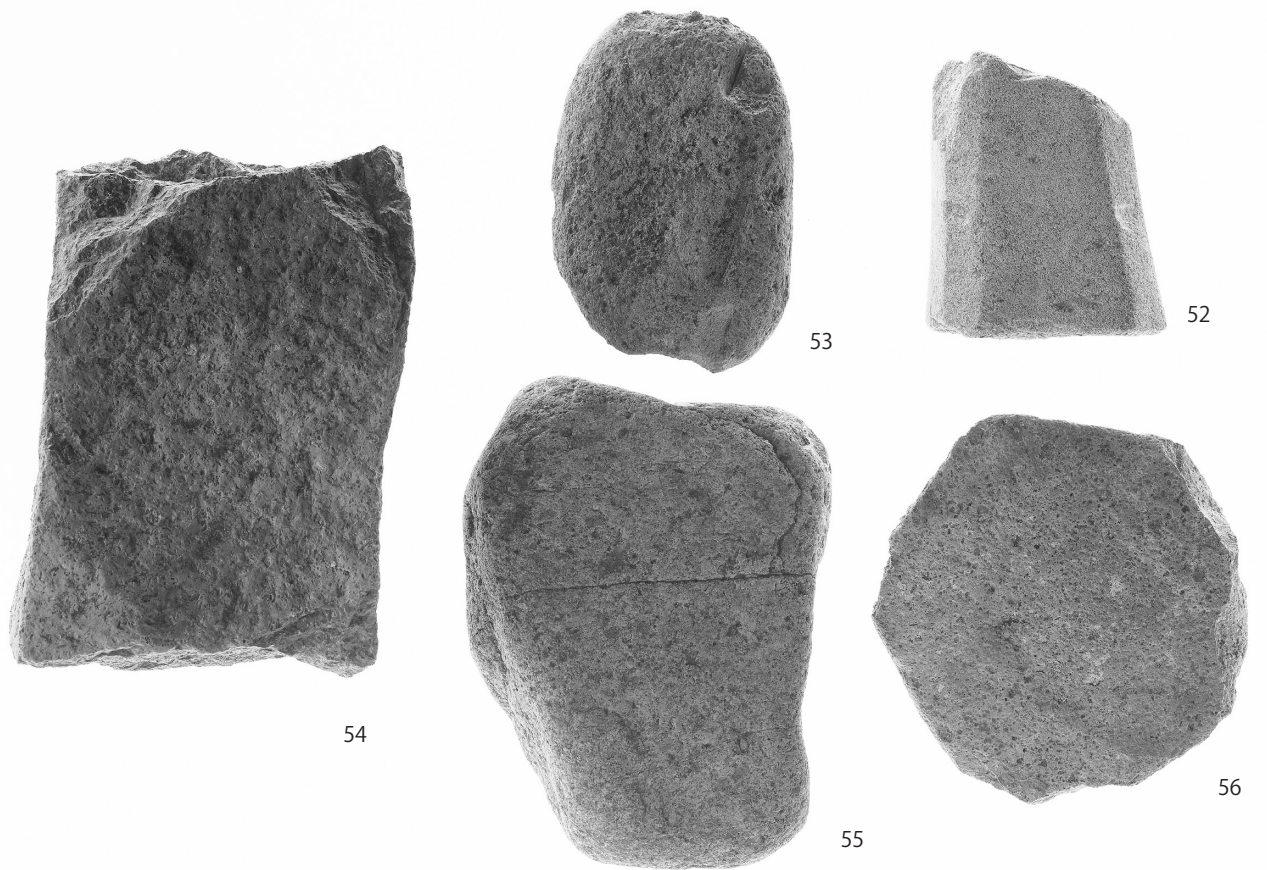
出土遺物 4







出土遺物 6



# 報告書抄録

フリガナ	シモクロダ ニ イセキ							
書名	下黒田Ⅱ遺跡							
シリーズ名	国道432号大庭バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	3							
執筆者名	中川 寧							
編集者名	中川 寧							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL:0852-36-8608 FAX:0852-36-8036 Email: maibun@pref.shimane.lg.jp http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/							
発行年月日	西暦2020年6月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	発掘原因
		市町村名	遺跡番号					
しもくろだに いせき 下黒田Ⅱ遺跡	しまねけんまつえし 島根県松江市 大庭町	32201	D1191	35°25'51"	133°05'15"	20190603 — 20190909	900	道路建設 (記録保存調査)
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
下黒田Ⅱ遺跡	集落	奈良時代、 平安時代、 鎌倉時代、 室町時代、 江戸時代	掘立柱建物跡3棟、溝3 条、土坑7基、ピット 200余	須恵器、土師器、国産陶器、 輸入陶磁器、鉄製品、瓦、 石器、石製品		室町時代の屋敷地を確認		
要約	下黒田Ⅱ遺跡は松江市大庭町に所在する。茶臼山南西麓の標高22m前後の台地上に位置する。室町時代の溝を確認した。溝はほぼ南北にのび、途中に幅1mの陸橋状に掘り残した部分があり、集落の内外をつなぐ通路として使われたと考えられる。また、江戸時代初めの土坑から陶器の皿が2点出土した。このほか、掘立柱建物跡を3棟確認した。本遺跡の周囲には川原宮Ⅲ遺跡や黒田館跡、下黒田遺跡など溝で区画した屋敷地が複数存在することになり、中世の大庭地区の様子を考えるうえで貴重な調査例となった。							

緯度・経度は世界測地系による

## 印刷仕様

紙 質	表 紙	レザック四六版 175kg
	本 文	上質紙 A 版 57.5kg
	写真図版	上質コート紙 A 版 70.5kg
D T P	Windows10	
	Adobe InDesignCC2019	PhotoShopCC2019
	IllustratorCC2019	
画像原稿	階調画像線数	175 線 (AM スクリーン)

### 下黒田Ⅱ遺跡

国道 432 号大庭バイパス建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 3

発行 2020 (令和 2) 年 6 月 30 日

発行者 島根県教育委員会

編集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒 690-0131

島根県松江市打出町 33 番地

印刷 有限会社 松陽印刷所

〒 690-0826

島根県松江市学園南 2 丁目 3 番 11 号